参考資料１－１

十勝川水系の流域及び河川の概要

（案）

平成１８年１１月３０日

国土交通省河川局

目　　次

1.　流域の自然状況 1
1－1. 河川・流域の概要 1
1－2. 地形 3
1－3. 地質 4
1－4. 気候・気象 5
2.　流域及び河川の自然環境 7
2－1. 流域の自然環境 7
2－2. 河川及びその周辺の自然環境 16
2－3. 特徴的な河川景観や文化財等 24
2－4. 河川環境を取り巻く背景 29
2－5. 市民活動 30
2－6. 自然公園等の指定状況 31
3.　流域の社会状況 37
3－1. 人口 37
3－2. 土地利用 38
3－3. 産業・経済 40
3－4. 交通 42
3－5. 関係ある法令の指定状況 43
4.　水害と治水事業の沿革 45
4－1. 既往洪水の概要 45
4－2. 主な洪水の概要 46
4－3. 治水事業の沿革 49
5.　水利用の現状 53
5－1. 水利用の変遷 53
5－2. 渇水被害及び渇水調整 56
6.　河川流況及び水質 57
6－1. 河川流況 57
6－2. 河川水質 58
7.　河川空間の現状 65
7－1. 河川敷等の利用の現状 65

7－2. 河川の利用状況 67
8. 河道特性 70
8－1. 十勝川の河道特性 71
8－2. 利別川の河道特性 72
8－3. 札内川の河道特性 73
8－4. 音更川の河道特性 73
8－5. 浦幌十勝川の河道特性 73
9. 河川管理の現状 74
9－1. 河川管理施設 74
9－2. 砂利採取 75
9－3. 水防体制 75
9－4. 危機管理への取り組み 77
9－5. 地域との連携 77

1. 流域の自然状況

1－1. 河川・流域の概要

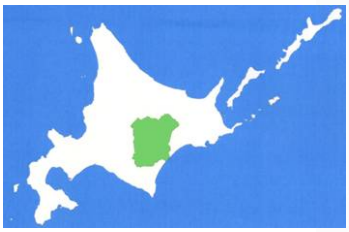
十勝川は、その源を大雪山系の十勝岳(標高 2,077m)に発し、山間峡谷を流れて十勝平野に入り、佐幌川、芽室川、美生川、然別川等の多くの支川を合わせて帯広市に入り、音更川、札内川、利別川等を合わせ、豊頃町において太平洋に注ぐ、幹川流路延長 156km、流域面積 9,010km^{2}の一級河川である。流域は、かつて十勝川本川の河口部であった浦幌十勝川及びその支川流域を含んでいる。

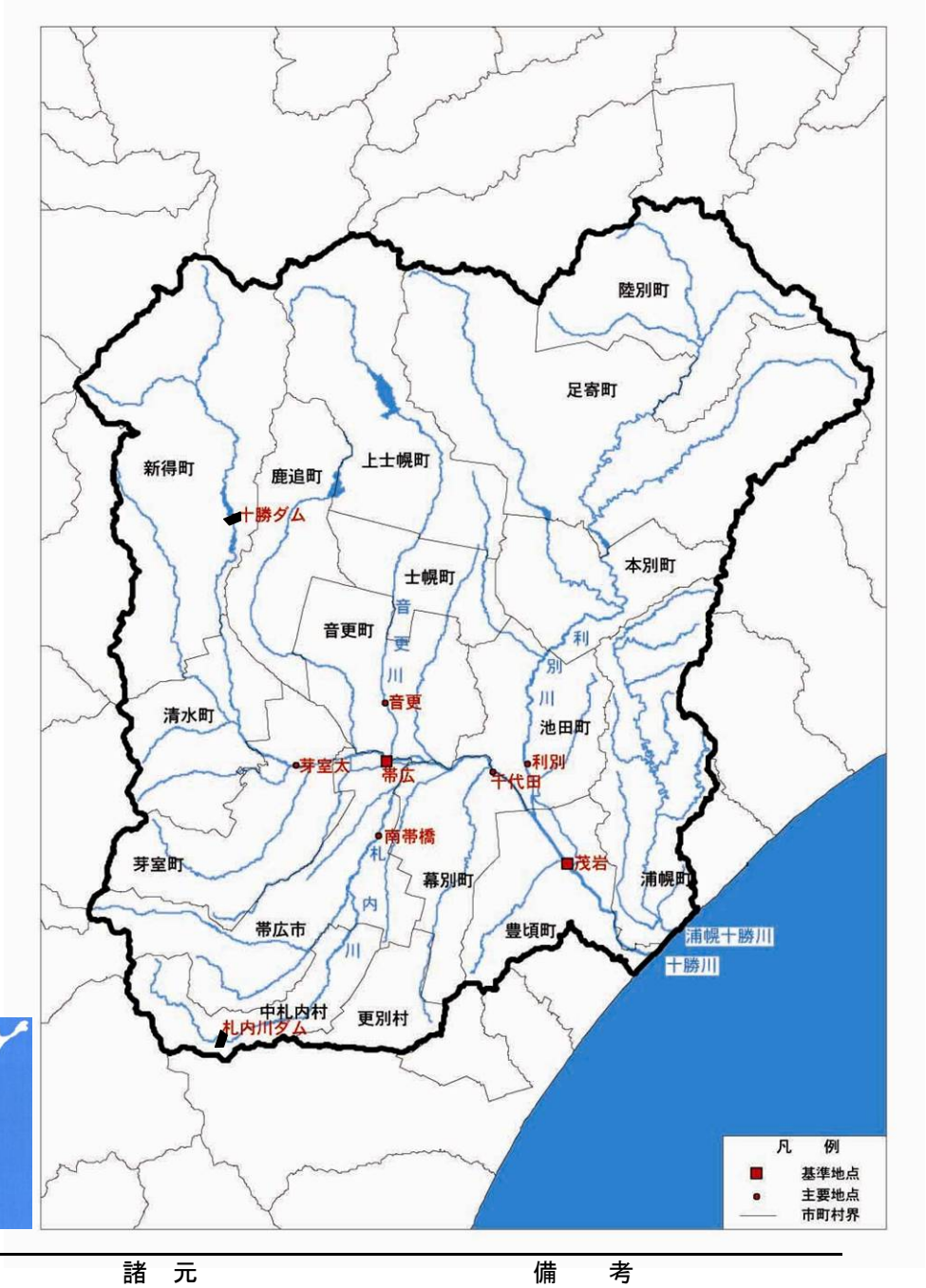
その流域は、帯広市をはじめとする 1 市 14 町 2 村からなり、北海道東部における社会・経済・文化の基盤をなしている。流域の土地利用は、山林が約 47%、畑地や牧草地等の農地が約 27%、宅地等の市街地が約 1%となっている。

流域内には、広大な十勝平野が広がっており、そのほぼ中央に道東の拠点である帯広市街があり、その周辺では大規模な農業が営まれ、小麦、甜菜、馬鈴薯、小豆、いんげん等の畑作や酪農、畜産が盛んで、日本有数の食料供給地となっている。また、ＪＲ根室本線、国道 38 号、236 号、241 号、242 号等の基幹交通施設に加え、北海道横断自動車道や帯広・広尾自動車道等が整備中であり、交通の要衝となっている。

さらに、十勝川流域は、大雪山国立公園、阿寒国立公園、日高山脈襟裳国定公園をはじめとする雄大で変化に富んだ自然景観、針葉樹林や針広混交林、カシワ等の広葉樹林、氷河期の遺存種として知られているケショウヤナギ林、湿原群落等の植物相、サケ、シシャモ等の遡上、産卵や、タンチョウの営巣地や採餌場、ガン・カモ・ハクチョウ類等渡り鳥の中継地として重要な位置を占める等、豊かな自然環境に恵まれている。

このように、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。





項　目	諸　元	備　　考
流路延長	156km	全国 17 位
流域面積	9,010km^2	全国 6 位
流域市町村	1 市 14 町 2 村	帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、中札内村、更別村
流域内人口	約 34 万人	平成 12 年河川現況調査
河川数	209	

図１－１　十勝川流域図

1－2. 地形

流域の地形は、日高山脈、大雪山系、阿寒山系、白糠丘陵地に囲まれた十勝平野が展開し、十勝河口、南十勝の海岸平野を除けば、帯広市を中心とする盆地状の平野である。十勝平野には各種の扇状地、段丘が広がり、東部から南にかけては標高 200～800m の白糠丘陵、豊頃丘陵が分布し、各河川に沿って新旧の数段からなる河岸段丘が形成されている。

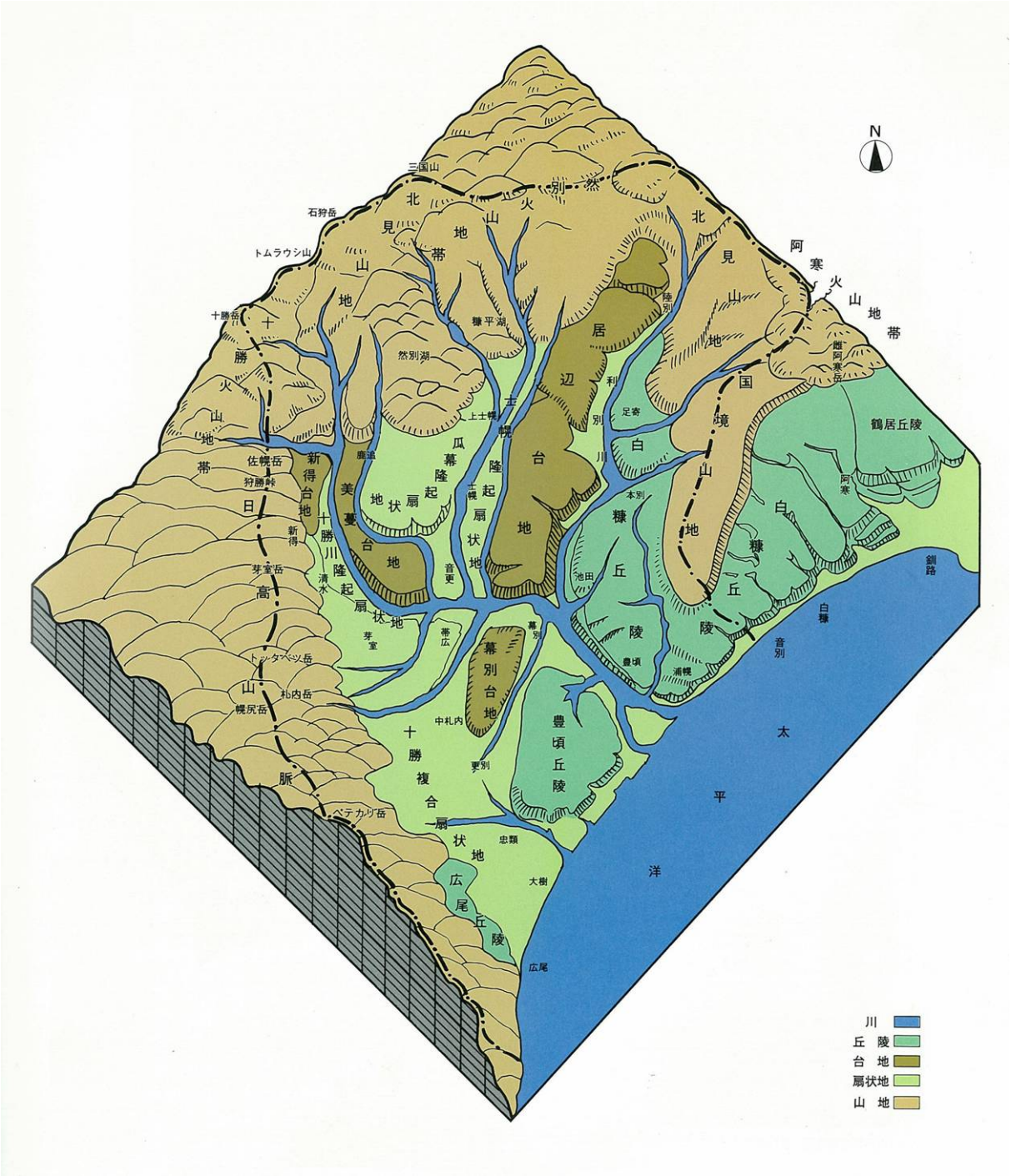


図１－２　十勝地方地形模式ダイアグラム

※原図・理学博士岡崎由夫

1－3. 地質

流域の地質は、中軸部の変成帯に沿って標高 300～500m の日高累層群が南北に分布し、東部から南部にかけては白糠丘陵、豊頃丘陵、北部には新第三紀層の山地と、然別、十勝の熔結凝灰岩からなる火山群が分布している。これらの日高累層群と火山噴出物は著しい不整合をもって接している。平野部、河岸段丘部は、主に新第三紀層、沖積層、洪積層などが広がっている。

十勝川の下流部では泥炭層が 2～5m の厚さで形成され、その下層は粘土層や比較的硬い砂層などで構成されている。

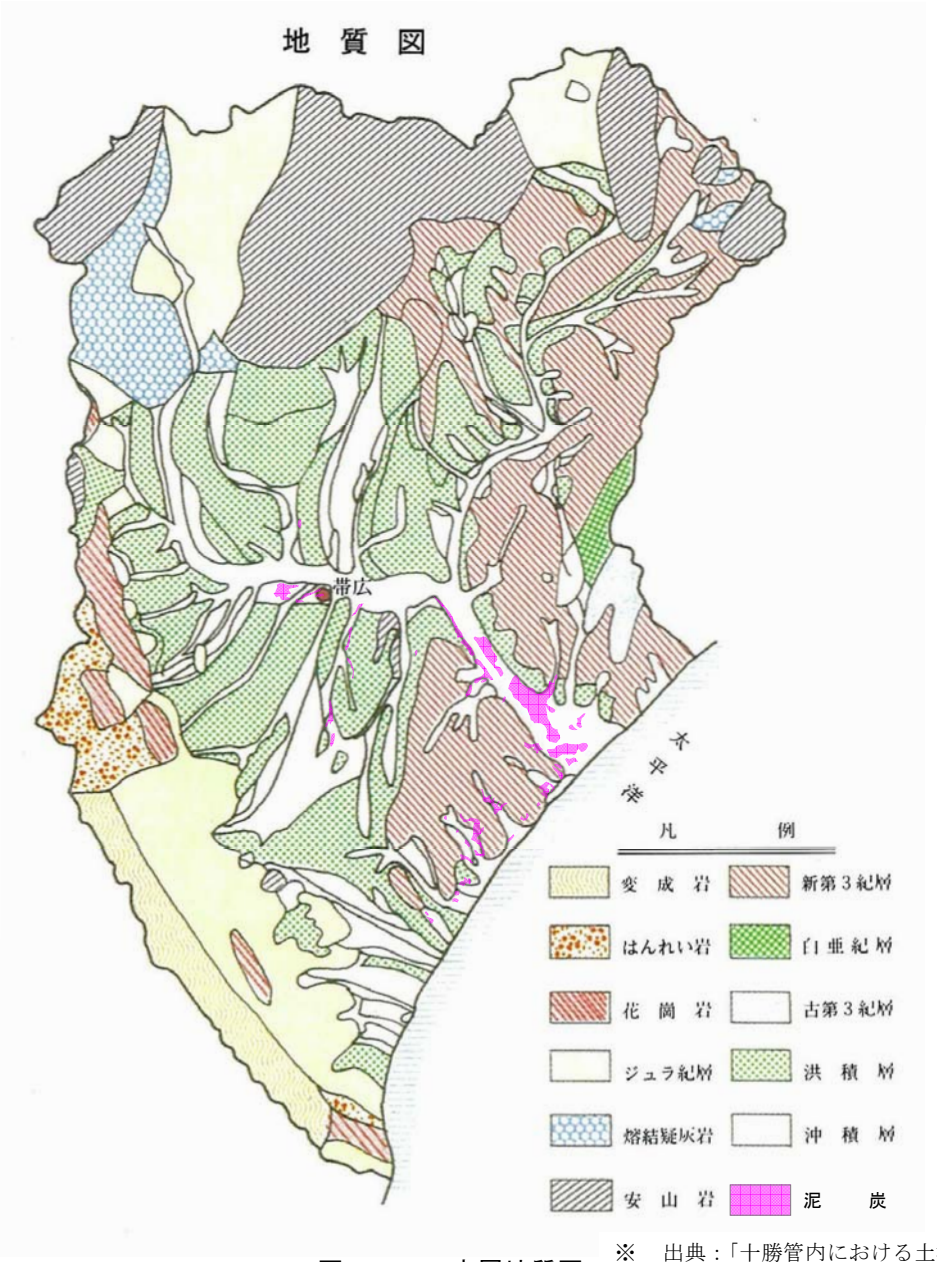


図１－３　表層地質図

※　出典：「十勝管内における土壌の分類・特徴および改良法」　昭和 50 年北海道十勝支庁

※　泥炭については「土地分類図（表層地質図-平面的分類図-）北海道Ⅱ（日高・十勝支庁）」国土庁土地局国土調査課を用いた。

1－4. 気候・気象

北海道の気候は、太平洋側西部気候区、太平洋側東部気候区、日本海側気候区、オホーツク海側気候区の 4 つの気候区に区分されている。その特徴としては、梅雨期がなく、春期の気温上昇と降雨により融雪洪水が起こりやすく、大雨は夏季末期から秋季の台風と前線の影響によってもたらされることである。

平均年降水量は、北海道で 1135.6mm となっており、全国平均の 1607.7mm と比較すれば雨の少ない地域に分類される。日照時間は北海道で 1817.0 時間と全国平均の 1983.0 時間よりも短いものとなっている。風は北海道で平均風速 3.6m/s となっており、全国平均の 2.8m/s よりも大きいものとなっている。降水量は 8～9 月に最も多く、また 11 月から 2 月の冬期の降水量が夏期にと比較して大きいものとなっていることが特徴的である。

上流域では、新得の年間平均気温で 6.5℃、平均風速 1.7m/s、日照時間 1,712.4 時間、降水量 1,133.3mm となっている。年間平均気温がやや低く、日照時間も短いものとなっている。他の地域と比較すると、日照時間が短く降水量が多いのが特徴である。

十勝平野の広がる中流域では、帯広の年間平均気温で 6.4℃、平均風速 2.0m/s、日照時間 2,124.1 時間、降水量 919.5mm となっている。年間平均気温がやや低いものとなっているが、日照時間は多く、また降水量は少ないものとなっている。他の地域と比較しても同様に、日照時間は多く、降水量は少ないものとなっている。

下流域では、大津の年間平均気温で 5.1℃、平均風速 2.2m/s、日照時間 1,980.2 時間、降水量 1,078.5mm となっている。年間平均気温が低いが、日照時間は多く、また降水量は少ないものとなっている。他の地域と比較すると、平均気温が低いのが特徴である。

図１－４　気候区分図

※「北海道の気候」を基に作成

表１－１　主な気象観測値

項　　目	帯　広	新　得	大　津	全道平均	全国平均
平均気温(℃)	6.4	6.5	5.1	7.3	14.8
最高気温(℃)	33.8	32.5	28.7	30.5	35.4
最低気温(℃)	-23.5	-22.4	-23.4	-17.0	-5.0
平均風速(m/s)	2.0	1.7	2.2	3.6	2.8
最大風速(m/s)	12.9	8.1	13.4	17.3	16.0
日照時間(時間)	2124.1	1712.4	1980.2	1817.0	1983.0
降 水 量(mm)	919.5	1133.3	1078.5	1135.6	1607.0

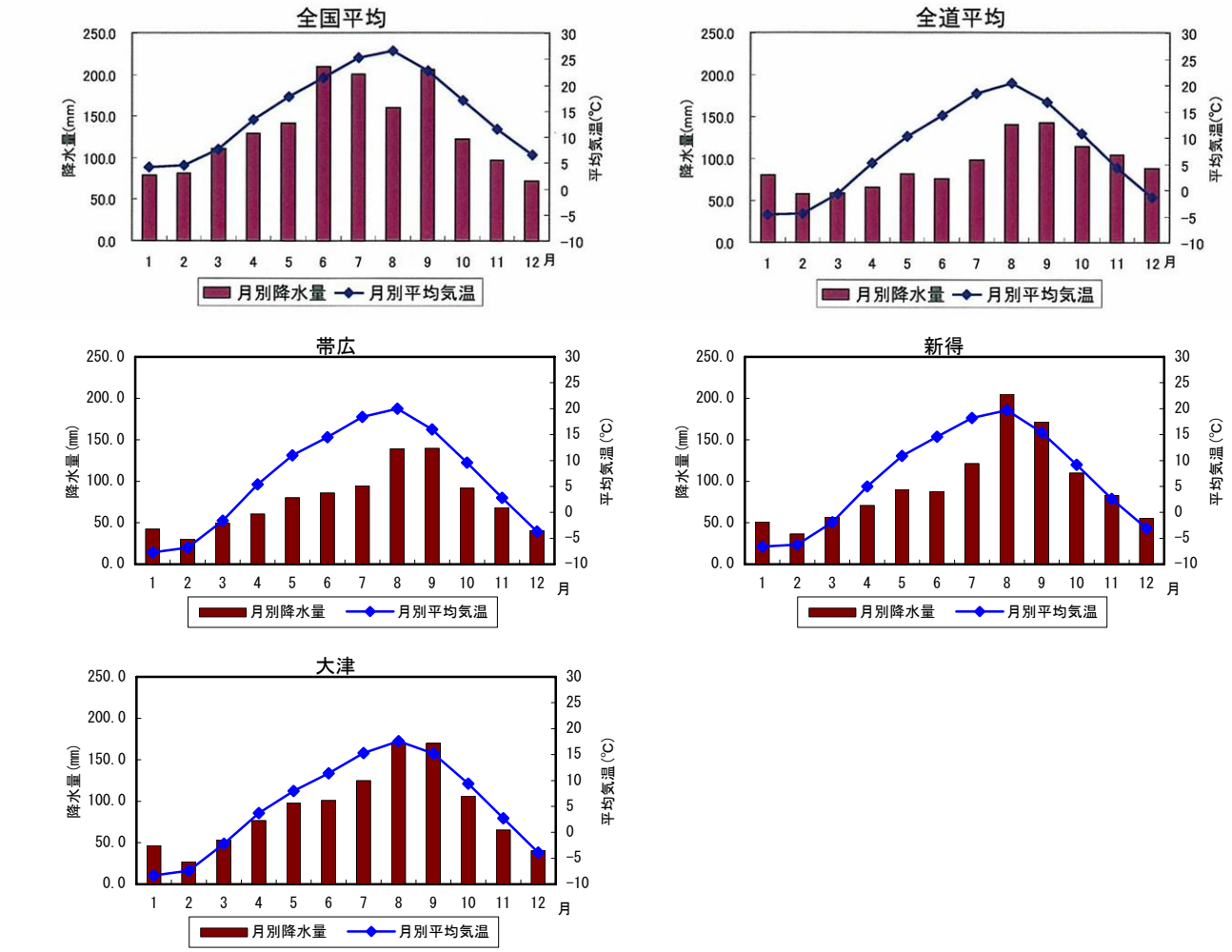


図１－５　月別降水量

※　アメダス観測データを基に作成
※　全国平均の値は1961年から2002年の各都道府県(県庁所在地)のデータを平均したもの。
・埼玉県は熊谷、滋賀県は彦根のデータによる。
・月別平均値は1979年から2000年のデータによる。
※　全道平均の値は1961年から2002年の各支庁所在地のデータを平均したもの。
・月別平均値は1979年から2000年のデータによる。
※　帯広の値は1961年から2002年(月別は1971年から2000年)。
新得・大津の値は1978年から2002年(月別は1979年から2000年)。
※　気象観測値：観測年毎の値を平均して算出
平均気温：観測各年の年間平均気温の平均値
最高気温：観測各年の最高気温の平均値
最低気温：観測各年の最低気温の平均値
平均風速：観測各年の平均風速の平均値
日照時間：観測各年の日照時間の平均値
降 水 量：観測各年の降水量の平均値

2. 流域及び河川の自然環境

2－1. 流域の自然環境

広い流域を持ち、上下流に渡って様々に環境の変化する十勝川水系では、多種多様な生物の生息・生育が確認されている。上流域においては、森林環境と清流に恵まれ、それを好むアオジやコアカゲラなどの鳥類や、サクラマスやハナカジカなどの魚類が確認されている。また、国のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ種に指定されているケショウヤナギが広く分布している。

中流域では、十勝地方の中枢都市である帯広付近を流れ、支流の音更川や札内川が合流する。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林、草原、池等多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。

河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落がある。ヨシ群落等の湿性草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡は、国の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、カモ類、カモメ類といった渡り鳥の越冬地および中継地となっている。北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシャモが遡上・産卵している。また、十勝川では、サケ、カラフトマスの増殖事業が行われている。

タンチョウ

ケショウヤナギ

十勝川の河口付近の状況

トイトッキ浜

※写真出典：北海道開発局

（植生）

流域の源流部に位置する大雪山系では、源流部ではエゾマツやトドマツを主とする亜寒帯針葉樹林が広がる。十勝川の上流域や支流札内川、音更川では発達したケショウヤナギの群落がみられる。

中流域の丘陵地にはエゾイタヤやシナノキが分布し、乾性の立地ではミズナラ、やや湿性な立地ではハルニレ、ヤチダモなどが見られる。

河畔林はその大半が樹高の高いヤナギ林であるが、低湿地などではハンノキ林やヨシ、クサヨシ等の湿草原が分布しており、大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が北海道指定の天然記念物となっている。

十勝川源流部の植生

※写真出典：北海道開発局

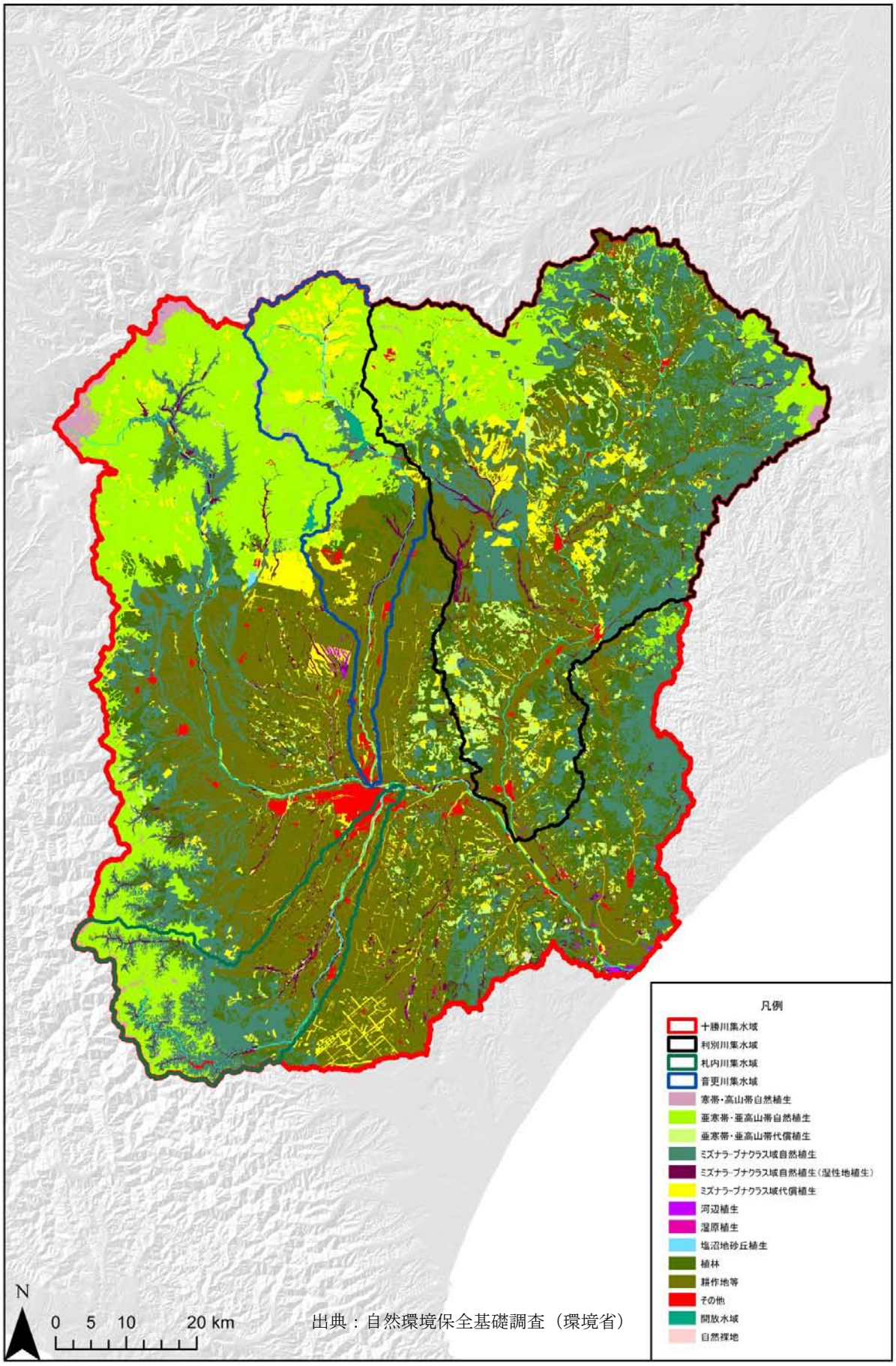

凡例
十勝川集水域
利別川集水域
札内川集水域
音更川集水域
寒帯・高山帯自然植生
亜寒帯・亜高山帯自然植生
亜寒帯・亜高山帯代償植生
ミズナラ-ブナクラス域自然植生
ミズナラ-ブナクラス域自然植生（湿性地植生）
ミズナラ-ブナクラス域代償植生
河辺植生
湿原植生
塩沼地砂丘植生
植林
耕作地等
その他
開放水域
自然裸地
N
0 5 10 20 km
出典：自然環境保全基礎調査（環境省）

図２－１　植生図

（哺乳類）

哺乳類ではエゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、エゾリス、キタキツネなどが挙げられる。また、特定種としてはウスリドーベントンコウモリ、ヤマコウモリ、ヒメホリカワコウモリ、カラフトアカネズミ、エゾクロテンなどが挙げられる。

エゾリス

キタキツネ

※写真出典：北海道開発局

（鳥類）

河口部ではユリカモメやコアジサシなどのカモメ類、下流部ではヒバリやオオジシギなどの草原性鳥類、上流部ではアオジやコアカゲラなどの森林性鳥類が多く確認されており、水辺ではホウロクシギやコチドリなどのシギ・チドリ類、セグロセキレイなどのセキレイ類といった水辺性の鳥類が生息している。繁殖期には河川敷に生息するカッコウなどの草原性鳥類やセンダイムシクイなどの森林性鳥類、砂礫地を利用するイカルチドリなどのチドリ類やハクセキレイなどのセキレイ類、河岸部で集団営巣するショウドウツバメなど多くの鳥類が確認されており、越冬期や渡り期においても十勝川水系が鳥類にとって重要な生息地になっている。また、十勝川の下流域には国の特別天然記念物であるタンチョウも生息しているほか、オジロワシやオオワシなども確認されている。

オジロワシ

アオジ

※写真出典：北海道開発局

（両生・は虫類）

両生類ではエゾアカガエル、エゾサンショウウオ、爬虫類ではシマヘビなどが確認されている。

エゾアカガエル

シマヘビ

※写真出典：北海道開発局

（魚類）

十勝川は北海道の河川の中では魚類相が豊富な川として知られている。十勝川の河口域では、ウキゴリやジュズカケハゼなどのハゼ科、ボラなどのボラ科といった沿岸性・回遊魚性の種類が多い。千代田堰堤から下流域ではウグイやマルタなどのウグイ類が多くを占める。また、十勝川は、サケ・マスの遡上河川でもあり、河口より 7～11km 上流の地点付近はシシャモの主要な産卵場として知られている。また、支流である然別川の上流の然別湖には、道指定の天然記念物である「オショロコマ」が生息している。

遡上するサケ

ウグイ

※写真出典：北海道開発局

（昆虫類）

十勝川は、源流部から河口にかけて、多様な環境が存在している。そのため、環境に応じてゴミムシなど河川敷に生息するもの、フタスジチョウなど河畔の樹木・森林等に生息するもの、カワラバッタなど草地に生息するもの、ルリイトトンボやエゾカオジロトンボなど沼や池などの止水域に生息するものなど多種多様な昆虫類が生息している。

ルリイトトンボ

フタスジチョウ

※写真出典：北海道開発局

表２－１　十勝川水系の重要種-1

区分	NO	種名	指定区分			
			文化財保護法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
植物	1	ヤチスギナ		EN	Vu	
	2	ヒメドクサ		EN	Vu	
	3	チシマヒメドクサ		VU	R	
	4	ケショウヤナギ		VU	R	
	5	コオノオレ		VU		
	6	エゾノミズタデ			Vu	
	7	ヤナギヌカボ		VU	R	
	8	サデクサ			R	
	9	サワゼリ		EN		
	10	ノダイオウ		VU		
	11	エゾノミヤマハコベ		VU		
	12	フクジュソウ		VU	Vu	
	13	フタマタイチゲ		VU	R	
	14	コキツネノボタン		VU		
	15	シコタンキンポウゲ		EN		
	16	バイカモ			R	
	17	チトセバイカモ		EN	R	
	18	ハルカラマツ		VU		
	19	ネムロコウホネ		VU	Vu	
	20	マツモ			R	
	21	チドリケマン		NT		
	22	ワサビ			R	
	23	ムラサキベンケイソウ		DD		
	24	アズマツメクサ			R	
	25	トカチスグリ		EN		
	26	クロミサンザシ		CR	Cr	
	27	カラフトイバラ			R	
	28	ホザキシモツケ		VU		
	29	モメンヅル			R	
	30	カラフトモメンヅル		VU	R	
	31	クロビイタヤ		EN		
	32	ゴキヅル			R	
	33	ヤマタニタデ		VU		
	34	オオウメガサソウ		NT		
	35	エゾムラサキツツジ		VU		
	36	クリンソウ			Vu	
	37	エゾオオサクラソウ			R	
	38	ホソバツルリンドウ		EN		
	39	エゾキヌタソウ		VU		
	40	エゾムグラ		VU	R	
	41	エゾハナシノブ		VU	R	
	42	ミヤマハナシノブ		VU	R	
	43	ヒメハッカ		VU	Vu	
	44	エゾナミキソウ		EN		
	45	オオアブノメ		VU		
	46	ヒシモドキ		CR		
	47	タヌキモ		VU	R	
	48	ネムロブシダマ		VU		
	49	ホロマンノコギリソウ		VU		
	50	イワヨモギ		VU		
	51	ヤナギタウコギ*1		CR	En	
	52	コモチミミコウモリ		EN		
	53	イトモ		VU		
	54	クロユリ			R	

（出典：河川水辺の国勢調査）

表２－２　十勝川水系の重要種-2

区分	NO	種名	指定区分			
			文化財保護法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
植物	55	クロイヌノヒゲ			R	
	56	クシロホシクサ		VU	R	
	57	ヒメウキガヤ			R	
	58	ウキガヤ			R	
	59	ヤマムギ			R	
	60	ホソバドジョウツナギ		CR		
	61	ハイドジョウツナギ			R	
	62	ミクリ		NT	R	
	63	タマミクリ		VU		
	64	エゾミクリ			R	
	65	アカンカサスゲ			R	
	66	ヤガミスゲ			R	
	67	ホソバオゼヌマスゲ		VU		
	68	ウスイロスゲ		VU		
	69	イトヒキスゲ		EN		
	70	エゾハリスゲ		VU		
	71	トキソウ		VU	Vu	
	72	ヒロハトンボソウ		EN		
両生類 爬虫類 哺乳類	1	エゾサンショウウオ			Lp（十勝平野）・N	
	2	ウスリドーベントンコウモリ		VU	R	
	3	ヤマコウモリ		VU	R	
	4	ヒメホリカワコウモリ		EN		
	5	カラフトアカネズミ			N	
	6	エゾクロテン		DD		
鳥類	1	チュウサギ		NT	R	
	2	マガン	天	NT	R	
	3	ヒシクイ	天	VU	R	
	4	オシドリ			R	
	5	ミコアイサ			Vu	
	6	ミサゴ		NT	Vu	
	7	オジロワシ	天	EN	En	絶滅（国内）
	8	オオワシ	天	VU	En	絶滅（国内）
	9	オオタカ		VU	Vu	絶滅（国内）
	10	ハイタカ		NT	Vu	
	11	チュウヒ		VU	Vu	
	12	ウズラ		DD	R	
	13	タンチョウ	特天	VU	En	絶滅（国内）
	14	ホウロクシギ		VU	R	
	15	オオジシギ		NT	R	
	16	コアジサシ		VU		
	17	ヤマセミ			R	
	18	コアカゲラ			R	
	19	アカモズ		NT	R	
	20	シマアオジ		NT	R	
魚類	1	スナヤツメ		VU		
	2	シベリアヤツメ*2		NT	R	
	3	ウナギ			R	
	4	ヤチウグイ		NT		
	5	マルタ			N	
	6	エゾウグイ			N	
	7	シナイモツゴ		EN		
	8	エゾホトケドジョウ		VU	En	
	9	シラウオ			R	
	10	イトウ		EN	Cr	
	11	サクラマス(ヤマメ)			N	
	12	オショロコマ		NT	R	
	13	イトヨ日本海型			N(日本海型)	
	14	ハナカジカ			N	
	15	エゾハナカジカ			N	

（出典：河川水辺の国勢調査）

表２－３　十勝川水系の重要種-3

区分	NO	種名	指定区分			
			文化財保護法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	その他
陸上昆虫	1	セスジイトトンボ			R	
	2	エゾカオジロトンボ		VU	Vu	
	3	ナツアカネ			R	
	4	エゾアカネ			R	
	5	クロスジコアオカスミカメ		DD	R	
	6	モンクサカゲロウ			R	
	7	セボシクサカゲロウ			R	
	8	タイリクウンモントビケラ			R	
	9	ギンイチモンジセセリ		NT	N	
	10	ゴマシジミ北海道東部亜種		VU	N	
	11	ヒョウモンチョウ北日本亜種		NT	N	
	12	ヒメシロチョウ		VU	N	
	13	ネグロクサアブ		DD		
	14	キタシリアカニクバエ			R	
	15	エゾアオゴミムシ			R	
	16	コヒメヒョウタンゴミムシ			R	
	17	ミズスマシ			R	
	18	ケマダラカミキリ		NT	N	
	19	エゾカミキリ			R	
	20	クロルリハムシ			R	
	21	カワカミハムシ			R	
	22	ツヤクシケアリ			R	
	23	オオキバナミズギワゴミムシ		DD	En	
	24	カラフトイトトンボ		CR+EN	Vu	
	25	アカメイトトンボ		NT	Vu	
底生動物	1	モノアラガイ		NT		
	2	カラフトゴマフトビケラ			R	
	3	ニホンザリガニ*3		VU		

（出典：河川水辺の国勢調査）

● 重要種の選定基準

・文化財保護法
天然：天然記念物　特天：特別天然記念物

・環境省レッドデータブック

EX：絶滅	CR：絶滅危惧ⅠA類	NT：準絶滅危惧
EW：野生絶滅	EN：絶滅危惧ⅠB類	DD：情報不足
CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類	VU：絶滅危惧Ⅱ類	LP：地域個体群

・北海道レッドデータブック

EX：絶滅	En：絶滅危惧種	Lp：地域個体群
EW：野生絶滅	Vu：絶滅危急種	N：留意種
Cr：絶滅危機種	R：希少種	

・その他
絶滅：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年）（国内）国内希少野生動植物種

● 出典

十勝川水系における河川水辺の国勢調査（現地調査・文献調査）を基本とし、他の文献により補足した。

*1：平成 15、16 年度礼文内川自然環境調査報告書

*2：下頃辺川自然環境調査報告書（平成 14 年 3 月）

*3：平成 16 年度　十勝川水系工事箇所事前事後調査業務報告書

2－2. 河川及びその周辺の自然環境

① 源流域

源流から十勝平野に至るまでの十勝川は、十勝ダムを経由して、自然豊かな渓谷を縫流している。この地域は、大部分が大雪山国立公園に指定されており、ハイマツ、エゾマツ、トドマツ林等の針葉樹林や針広混交林が広がっており、四季折々で様相を変える雄大な景勝地となっている。

十勝川源流

※写真出典：北海道開発局

② 上流域

札内川合流点付近までの上流部は、河床勾配が約 1/200～1/600 であり、河道は砂礫の複列砂州を形成している。高水敷等には、オノエヤナギ、ハルニレの他、氷河期の遺存種のケショウヤナギが広く分布しており、国内最大の淡水魚であるイトウをはじめ、サクラマス、ハナカジカ、オショロコマ等が生息している。さらに、河畔林には、アオジやコアカゲラ、センダイムシクイ等、砂礫の河原には、アオサギ、ハクセキレイ、イソシギ等が生息している。

十勝川上流（KP92 付近）

※写真出典：北海道開発局

③ 中流域

札内川合流点から利別川合流点に至る中流部は、河床勾配が約 1/800～1/1,200 であり、やや大きく蛇行しながら流れる。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林、草原、池等多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。ヤナギ高木林やハルニレ林を中心とした河畔林が見られ、河畔林にはホザキシモツケ等の植物とともに、エゾカミキリ等の動物も確認されている。十勝川温泉付近は、オオハクチョウやカモ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地となっている。また、魚類では、ウグイ類やフクドジョウ、イトヨ、ハナカジカ、スナヤツメ等が生息している他、千代田堰堤ではサケの遡上が見られる。

十勝川中流（KP51 付近）

※写真出典：北海道開発局

④ 下流域

利別川合流点から河口までの下流部では、河床勾配が約 1/3,000～1/4,500 であり、沖積平野を緩やかに蛇行して河口に至っている。広い高水敷は、その多くが採草牧草地として利用されている。河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が分布している。ヨシ群落等の湿性草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡地は、ヤナギタウコギ、ヒシモドキ等貴重な植物の生育地であるとともに、国指定の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、穏やかな水辺はヒシクイ等のカモ類、カモメ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地になっている他、オジロワシやミサゴの採餌場になっている。また、シラウオやヌマガレイ、ボラ等の汽水性の魚類が生息している他、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシャモが遡上、産卵している。

十勝川下流（河口付近）

※写真出典：北海道開発局

⑤ 支川

支川の音更川は、途中に糠平ダム、元小屋ダムを経由して、上士幌町、士幌町、音更町を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。扇状地を流れ複列砂州および単列砂州を形成している。高水敷には砂礫地を好むケショウヤナギの群落がみられる他、大径木のハルニレ林が発達しており樹林性の動物の生息地となっており、哺乳類ではカラフトアカネズミ、両生類ではエゾアカガエル、昆虫類ではギンイチモンジセセリやエゾカミキリが確認されている。鳥類では、樹林性のコアカゲラや、草地性のオオジシギなどが確認されているとともに、ショウドウツバメやイワツバメの集団営巣地も確認されている。魚類ではエゾホトケドジョウやスナヤツメ、ハナカジカ等の希少な魚類が生息している。

音更川（KP19 付近）

※写真出典：北海道開発局

支川の札内川は、上流部に日高山脈襟裳国定公園があり、札内川ダムを経由して、中札内村を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。また、清流日本一になるなど良好な水質が保たれている。河川は蛇行し、砂礫の複列砂州が多く見られ、河畔等には、ケショウヤナギ林が広がり、札内川特有の河川景観を呈している。なお、これらのケショウヤナギ林の一部は、北海道指定の天然記念物となっている。また、カシワ、ハルニレ、ヤチダモなどの大径木の多い樹林がみられ、樹林環境に依存する動物の生息環境となっており、哺乳類ではカラフトアカネズミ等が、両生類ではエゾサンショウウオ等の生息が確認されている。

魚類では、スナヤツメ、エゾウグイ、ヤマメ、ハナカジカ等の希少な魚類が生息する他、下流部には湧水地がみられサケの産卵床が確認されている。細流にはニホンザリガニが生息している。

札内川（KP42 付近）

※写真出典：北海道開発局

十勝川水系最大の支川である利別川は、支川の足寄川の上流部に阿寒国立公園があり、陸別町から足寄町、本別町を通過し、ワインの製造が盛んな池田町を経て、十勝平野の東部で十勝川に合流する。

高水敷等は市街地周辺を除き採草放牧地等に利用されている他、ミズナラ、ハルニレ、ヤダチモなどの大径木の多い河畔林が残り、シジュウカラ、アカゲラ、エゾヤチネズミ、エゾリス等樹林性の動物の生息地となっており、哺乳類ではカラフトアカネズミ等、両生類ではエゾアカガエル等、昆虫類ではギンイチモンジセセリ等が確認されている。鳥類では草地性のオオジシギや、魚類を餌とするヤマセミなどが生息している。また、河岸の土の崖では、ショウドウツバメの集団営巣地が多く見られる。

魚類では、スナヤツメやエゾウグイ、イトヨ、エゾハナカジカなど希少な魚類が生息している。

利別川（KP34 付近）

※写真出典：北海道開発局

浦幌十勝川は、旧十勝川の河口であったが、トイトッキ締切堤の完成によって浦幌十勝川となった。支流の下頃辺川、浦幌川、十勝静内川をあわせて太平洋に流れる。下流域は緩やかに流れ、感潮域が広がっている。上流の下頃辺川は、人工的に掘り込まれた河道内を河川が流れており砂礫堆の面積は小さい。

河口付近ではハマニンニク等の砂丘植生が発達しており独特の景観を呈している。また、高水敷上はヨシ群落やクサヨシ群落が発達しており、ヤナギ林が繁茂している。鳥類では、国の特別天然記念物であるタンチョウ等がみられる。魚類では、ボラやヌマガレイ等の汽水性の種が見られる他、マルタウグイやイトヨ、エゾハナカジカ等の回遊魚が生息している。

上流の下頃辺川では、鳥類ではタンチョウやオオジシギ等が、魚類ではシベリアヤツメやハナカジカ等が確認されている。

浦幌十勝川（河口付近）

※写真出典：北海道開発局

2－3. 特徴的な河川景観や文化財等

① 景観・景勝地

十勝川の源流部は、大雪山国立公園に指定され、亜寒帯特有の針広混交林の森林景観が広がっている。支流の利別川は長流枝内丘陵に、札内川は、日高山脈に、音更川は然別火山群にそれぞれ水源を有している。支流、然別川の上流に位置する然別湖には道指定の天然記念物である「オショロコマ」が生息する。中流部には日本で唯一のモール（植物性）温泉である十勝川温泉があり、これに近接するアクアパークでは、毎年 1 月頃には多くのハクチョウやカモなどが越冬地として利用しており、その下流に位置する千代田堰堤では、毎年 10 月頃にはサケの遡上・捕獲を見物することができる場所となっており、毎年、多くの観光客が訪れている。

然別湖

千代田堰堤

オンネトー

ハルニレ

表２－４　主な観光対象

項目	市町村名	名称	内容
自然	足寄町	オンネトー	湖水が５色に変化し夜は星が映る神秘の湖。湖に魚は生息していません。野生の鹿、キツネ、うさぎ等の動物も時に見られる自然に包まれた湖です。
	新得町	サホロ湖	佐幌ダムの貯水池であるサホロ湖ではカヌーや釣りを楽しむことができます。
	足寄町	下足寄湖	冬から春にかけて１００羽近くのオオハクチョウが羽を休めにきます。
	芽室町	伏見仙峡	美生川の上流にあり、日高の山ふところの原始林に囲まれた景勝地で、ツツジ・紅葉が美しいところです。４ｋｍ程のところにある伏見湿原にはミズバショウの群生が見られます。
	新得町	トムラウシ山	日本１００名山の一つに数えられているトムラウシ山は、険しいので上級登山者向きの山です。
	新得町	幌加～三股	自然があふれ、森林浴や標高２０００ｍ級の山で生息する植物、動物を見ることができます。
	足寄町	オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地	足寄町のオンネトーという湖の近くにある 湯の滝 の斜面でマンガン鉱物が生成されています。地球上でマンガン鉱物の生成されている場所は深海の熱水鉱床でしか確認されておらず、陸上で大規模な生成現象が見られるのは世界中でこの場所だけです。
	芽室町	大通公園一帯カシワ林	国道３８号線の南側にある公園の中に、樹齢３００年をこえるカシワの大木が十数本あります。公園内には親子連れ等が訪れ、のんびりとできます。
	帯広市	大正のカシワ林	多数の野生植物を見ることができる。特にクロユリ、スズラン、ムシャリンドウの群落が有名。
	豊頃町	ハルニレ	大きく左右に手を広げたように見えるハルニレの木は豊頃町のシンボルです。推定では１３０年以上立っていると言われるその美しさは見事なまでの自然の雄大さを感じさせます。ハルニレの木は町のいたるところでシンボルマークとしてみられます。
	本別町	ひかりごけ	確認されたひかりごけの発生規模は小さいですが、低地に生えていることが珍しいとされています。（本別公園内　洞穴内）
	芽室町	伏見湿原ミズバショウ	芽室町伏見湿原ミズバショウは昭和４６年に芽室町指定第１号の特別天然記念物となりました。毎年4月下旬～5月上旬にかけて、ミズバショウやザゼンソウが約１．５ｈａの湿原に咲きます。
	本別町	勇足神社のかしわ林	大正８年建立された神社境内に夫婦として残されたカシワ。一本は台風で倒れたが樹齢３１５年あまりの物が残っています。
	豊頃町	大津海岸長節湖畔野生植物群落	昭和３８年、道の文化財に指定された大津海岸長節湖畔野生植物群落では、クロユリ、ハマナス、シオギアヤメなどの珍しい植物に会うことができます。
	豊頃町	大津海岸トイトッキ浜野生植物群落	昭和５０年に道の文化財に指定された大津海岸トイトッキ浜野生植物群落では、クロユリ、ハマナス、シオギアヤメなどの珍しい植物に会うことができます。（１９７５年指定）
	帯広市	帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主	直径１ｍから１．５ｍで高さ１ｍ以内の半径状の化石構造土。地質学上土壌学上貴重な標本となっている。
	鹿追町	然別湖のオショロコマ生息地	然別湖のオショロコマは「ミヤベイワナ」と言われ、大島正満博士が命名したものです。鰓（えら）のギザギザが多いのと血液型が違うのが特徴です。
	上士幌町	丸山噴泉塔群	石灰華堆積物が形成され、最大で規定から１．５５ｍの三重構造になっていて自然の神秘が伺われます。現在も成長しつづけているそうです。
	上士幌町	三股永久凍土	三股十四の沢にあり、標高９００m以下で周辺の年平均気温の推定などから特異な永久凍土と考えられ、沖積世における寒冷期を示す。自然の神秘が伺われます。
	豊頃町	湧洞湖畔野生植物群落	平成７年に町の文化財に指定された湧洞湖畔野生植物群落では、クロユリ、ハマナス、シオギアヤメなどの珍しい植物に会うことができます。（１９９５年指定）
観光施設	浦幌町	うらほろ森林公園	公園内にはオートキャンプ場・縄文集落浪漫村やふるさとみのり館があり、シーズン中は祭りなどのイベントも多数開催され多くの人で賑わいます。
	帯広市	帯広市野草園	十勝平野に自生をほしいままにしていた野草も、厳しい気候条件には勝てず、だんだん貴重な物になってきました。そんな野草を昔の姿のまま残しているこの野草園は奇跡に近いとも言われています。
	池田町	清見ヶ丘公園	丘全体が公園というスケールの大きさ。園内には樹齢３００年を超えるカシワの大木がそびえていて、春には１０００本もの山桜が咲き乱れ、言葉を失う程の美しさ。またパークゴルフ場や野球場もあります。
	帯広市	グリーンパーク（緑ヶ丘公園）	面積５０ｈａもある広大な公園です。中にはテニスコート、野草園、美術館等施設も色々。なんと言っても有名なのが、ギネスブックにのった世界一長いベンチで全長４００ｍ、１２８０人が一度に座れます。
	足寄町	里見が丘公園	春になるとシバザクラが満開になる美しい公園。キャンプ場もあり、展望台からは阿寒連峰も望める。
	帯広市	紫竹ガーデン遊華	あんなにたくさん咲いていた北海道の野の花たちをもう一度自由に咲かせてあげたい願いが込められ、１９８９年に生まれました。約１８０００坪の広大な敷地で約２０００種以上の花々が季節ごとの美しさを見せてくれます。
	音更町	すずらん公園	スズランの花は音更町の町花です。そんなスズランの花が咲き誇るのがこの公園です。
	音更町	十勝が丘公園	かつては世界一の大きい花時計であった「ハナック」があることで有名な十勝が丘公園。芝生広場、多目的広場などがある広大な公園。ハナックの前にはサイクリングターミナルがあり、自転車を借りて公園内にあるサイクリングロードを楽しめます。
	幕別町	ナウマン公園	ナウマン象記念館に隣接する広さ３ｈａの緑地公園には、パークゴルフコースやバーベキューハウス、木製遊具、噴水などの施設も整っていて、村民憩いの広場であり観光のスポットとなっています。清潔なバーベキューハウスはのどかな公園の風景の中で楽しい食事を楽しめます。
	清水町	美蔓パノラマパーク	日高連峰が一望でき、カリヨンが優しい音で時間を告げます。パノラマパークというだけあって、眺めは最高です。ここにあるスイングベルもとても有名。
	清水町	ペケレの森	約３ｋｍの森散策路です。遊歩道が整備されており、エゾリス、野鳥、野草を見ることができます。また、河のせせらぎも聞こえてくる自然体験豊かな森です。

出典：「北海道　北海道観光総合データファイル」より抜粋

表２－５　主な観光対象

項目	市町村名	名称	内容
観光施設	帯広市	真鍋庭園	この土地は明治２９年、真鍋佐市氏（香川県）による移住開拓の一鍬から始まり、三代に渡って今日に至ります。園内にはヤチダモ、ヤマグワの古木が保存され、アカエゾマツ、トドマツ、シラカバ、カエデ類等、数多くの植物を見ることができます。
	芽室町	芽室公園	２．５ｈａの花菖蒲園に７５種類、３００００株のハナショウブが咲き乱れています。７月には「イリス・フェスタ・イン・めむろ」や商工夏まつり等のお祭りが開かれます。
	豊頃町	茂岩山自然公園	キャンプ、パークゴルフ、テニス、サイクリングなど様々な楽しみ方ができます。ログハウスのバンガローや温泉もあり、家族連れの方にも人気です。又、近くにはＭＩＣとよころ飛行場があり、体験飛行ができます。
	帯広市	帯広動物園	北方系の動物を中心に７５種、およそ６００を数える鳥や動物たちが飼育されている。国の天然記念物に指定されているオオワシやシマフクロウの鳥の他、ドサンコやエスキモー犬などもいてなかなか愉快。このエスキモー犬は世界的な冒険家「植村直巳」さんが南極単独横断をした際に現地から連れて帰って来たエスキモー犬の子供たちで現在は１０代目に当るそうだ。乳母車もあり供連れの方もゆっくりと見ることができるので一度は訪れて欲しい。
	新得町	狩勝峠展望台	富良野と十勝を結ぶ国道３８号線にある狩勝峠の展望台。ここから見下ろす景色は日本新八景の一つといわれ、雄大な景色をみることができます。
	陸別町	銀河の森天文台	陸別町は、環境庁より昭和62年度に「星空の街」に選定され、平成9年度には「星空にやさしい街１０選」に認定されました。「りくべつ宇宙地球科学館（「愛称：銀河の森天文台）」はこの特性を活かし建設されたものです。公開型天文台としては日本一の１１５ｃｍ反射望遠鏡が設置され、屋上に小型望遠鏡４基・屋外に太陽観測専用望遠鏡などが設置されています。展示室ではパネル展・宇宙の体験学習ができます。
	浦幌町	十勝太遺跡展望台	目の前に広がる雄大な景色。天気のいい日は日高山脈まで見渡せます。
	清水町	日勝峠展望台	十勝平野が一望でき、お土産も買える観光スポット。二人の協力がなければ、美しいカリヨンの音を奏でることができないと言われています。
	清水町	円山展望台	十勝平野を３６０°見渡すことができます。昼間は広大な景色、夜は満天の星空が楽しめ、隠れた観光スポットになっています。そこからの眺めはまさに息を飲むほどの美しさです。
	幕別町	丸山展望台	丸山展望台からは雄大な十勝平野と日高山脈を一望でき、広々とした北海道風景が広がっています。太平洋も見る事ができ、ゆったりと景色を楽しめる場所です。
体験施設	鹿追町	観光農園にしかみ	人気のそば打ちからいちご狩りといった農業体験から、冬にはスノーモービルツアーやパラセールなど、年間を通じて様々な体験を楽しめる魅力があります。中にはログハウスレストランもあり、にしかみで生産された農産物をおいしく味わうことができます。中でも人気のいちご狩りは５月から１１月までで、おいしい高原いちごが１時間食べ放題です。（いちごがなくなり次第、打ちきり）甘酸っぱい香り、フレッシュな味、太陽の光に輝く赤いいちごを存分に味わえます。この他にもいろいろなアクティビティが揃っています。
	音更町	十勝４駆ランド	オフロードコースを目一杯味わえる。車はレンタルもできるから４輪駆動車を持っていない人も大丈夫。初級コースで２ｋｍ、上級コースを合わせると３ｋｍ、タイヤ越え、Ｖ字谷、蟻地獄、ダカール大斜面、コース内はスリルでいっぱい。
	更別村	十勝インターナショナルスピードウェイ	平成５年に完成したＦ１レースも可能なＦＩＡ公認サーキットでプロのレーサー気分を味わおう。とりあえず体験できるものから、スクールまでと各種体験プログラムが取りそろえてあります。
	音更町	十勝ネイチャーセンター	十勝の大自然を存分に満喫できる体験が揃っています。空での体験、水辺での体験、陸での体験、雪上での体験など、色々な角度から楽しめます。
	鹿追町	山岸農園	花畑に囲まれ、まるでおとぎの国に迷い込んだ気分を味わえます。３０種類以上の花の中から好きな花を選び持ち帰ることもできます。また摘みたてのおいしさを存分に楽しめるいちご狩り等、自然を丸ごと満喫できます。
温泉	鹿追町	菅野温泉	菅野温泉で直らぬ病はないと言われる秘湯です。厚生省からも国民保養温泉に指定されています。温泉は明治の末期に発見され、病気で悩んできた人々を数多く救ってきたというすばらしいものです。
	鹿追町	然別湖畔温泉	天然記念物であるオショロコマの生息地として知られる地域です。大雪山国立公園で最も美しいとされる湖がある場所でもあり、そういった自然いっぱいの中に湧き出る温泉です。効能も様々です。
	音更町	十勝川温泉	日本で唯一のモール温泉。お湯が植物性で、肌に柔らかく、湯上がりは肌がツルツルに。「美人の湯」として有名です。
	新得町	トムラウシ温泉	約９３℃の源泉を持ち、様々な病気に効果があります。まわりには「霧吹きの滝」や「十勝ダム」等があり、自然にめぐまれた温泉です。
	上士幌町	糠平温泉	北海道でもかなり有名な温泉です。この温泉名をもつ宿泊施設が数多くあります。
	上士幌町	幌加温泉	北海道を代表する山奥の秘湯として有名。なかでも無料露天風呂で利用できる場所がある（夏期のみ）大自然に囲まれた幌加温泉。
	幕別町	幕別温泉	環境庁の国民保養温泉地に指定されるほどの自然に恵まれた緑豊かな環境が自慢です。効用も様々で幅広く利用されている温泉です。
レジャー施設	池田町	こどもの国	まきばの家 の中にある遊べる場所です。サイクル列車は、子供だけではなく、大人でも大いに楽しむことができる乗り物です。
	鹿追町	鹿追自然ランド	１１４万平方メートルもある敷地に、鹿牧場、キャンプ場、ゴーカート、動物園など遊びどころ満載。子供はもちろん大人まで幼少に戻って楽しめる場所です。
	池田町	まきばの家	コテージハウスやオートキャンプ場、テニスコート等を設備した大自然に囲まれたレジャー施設です。その立地条件を生かし、アウトドアを心行くまで満喫できます。家族全員で楽しむにはもってこいのスポットです。
	音更町	音更サイクリングターミナル	目の前には大きな花時計「ハナック」があり、その公園内のサイクリングロードを楽しむことができます。
	新得町	狩勝高原サホロリゾートスキー場	最大斜度３５度の上級者向けコースからゆるやかな斜面まで多彩なコースを用意。６人乗りゴンドラなら頂上まで約１０分、リフトは高速で３人乗りなので混み合うことが少なく快適に利用できます。
	清水町	国設日勝スキー場	日高山脈の北端に位置し、バラエティーに富んだゲレンデが自慢の一つです。初心者から上級者まで楽しめ、中でもソリコースは家族に大人気。スノーボードもできるので、みんなで楽しめるスキー場です。

出典：「北海道　北海道観光総合データファイル」より抜粋

② 文化財

十勝川流域には、依田勉三直筆の書「留別の詩」やランダーの油絵など北海道開拓の歴史を物語る多くの文化財が存在している。また、先住民族であるアイヌ民族に係わるものや、さらにそれ以前の有史以前の文化財・史跡などが数多く存在している。これらは、十勝川流域の歴史的な特性を示す資料であり、流域に古くから人が住み、様々な時代背景を積み重ねながら、歴史を育んできたことを物語っている。

表２－６　十勝川流域の文化財等指定一覧

指定区分	名称	所在地 指定年月日	概要
国	アイヌ古式舞踊	帯広市 S59.1.21	帯広地域の先住民族により伝承されてきた歌と踊りや祭祀等は、保存会が継承する歌や踊りに限られている。
	ユクエピラチャシ跡	陸別町 S62.9.8	ユクエピラチャシ跡はアイヌのチャシ跡の中では道内屈指の規模のもの。利別川近くの険しいがけの頂上にあり南北110m、周りに掘られた豪の深さは3mにもなる。
道	絵馬カムイノミの図	豊頃町 H13.3.30	明治５年１０月幸喜丸の船頭和右衛門が願主となっているが、高価な絵馬であること、福島屋杉浦嘉七の帆掛け舟が描かれていることから、漁場持ちである嘉七が関わっていたと推測されている。
	浦幌新吉野台細石器遺跡	浦幌町 S26.9.6	浦幌町字共栄に所在する縄文早期の石刃鏃文化の遺跡。石刃鏃文化の日本で最初の発見遺跡。
	十勝太遺跡群	浦幌町 S51.5.21	浦幌町十勝太にある遺跡の総称。総数500基以上の住居跡からなり、うち十勝太河岸段丘遺跡に約240基とほぼ半数を占め、そのほとんどは擦文時代のものと推定される。
市	依田勉三直筆の書「留別の詩」	帯広市 S57.1.1	明治16年、依田勉三が北海道開拓の途につく際、伊豆国大沢村で開かれた別離の宴で開拓の決意を詠んで書き記した書。
	十勝監獄石油庫	帯広市 S57.1.1	明治34年に建設された市内で最も古いレンガ造り建造物。工法も当時としては非常に珍しいフランス積みによるもの。
	ランダーの油絵	帯広市 S58.3.1	明治23年、帯広を訪れた英国人のランダーが渡辺勝宅を描いたもの。開拓初期の民家の外観を忠実に写生した十勝最古の油絵作品。
	暁遺跡出土の遺物	帯広市 S58.3.1	先土器から縄文晩期にかけての遺跡。ここから出土した深鉢型の暁式土器や各種の石器は、先土器から早期縄文土器時の文化解明に示唆を与えるもの。
	八千代Ａ遺跡出土遺物	帯広市 H3.11.1	縄文早期（約８千年前）土器・石器・装身具など約９万点の遺物。八千代Ａ遺跡は、この時期としては全国的にも例を見ないほど大規模な集落跡。
	十勝鉄道蒸気機関車４号客車コハ23号	帯広市 H6.11.1	旧川西村を中心とした山麓地帯で働く人々の足として奥地開発に大きな役割を果たた。
	ロープ伝導式手押豆播機	帯広市 H9.6.1	全国有数の大規模畑作農業地区を形成するのに役立った、帯広地区で考案・開発・使用された農機具を代表するものであります。帯広・十勝の農業開拓の歴史を特徴づけるものである。
	帯広カムイトウウポポ保存会	帯広市 S57.1.1	国指定重要無形民俗文化財 昭和59年1月21日指定 帯広のアイヌ民族に伝えられてきた歌や踊りなどを伝承保存している団体。昭和32年に設立。
町	「音更山道」碑	上士幌町 H9.6.13	音更川上流の造材が十勝監獄によってはじめられ、王子製紙が参加し、音更川奥地の険しい道路開削が造林業者によって成し遂げられた
	幕別町蝦夷文化考古館収蔵品	幕別町 H14.2.26	白人コタンのアイヌの指導者であった故吉田菊太郎は、先祖の残した文化財を蒐集してきた。刀・矢・矢筒・弓・盃・酒桶・着物等の生活用品、宝物類・写真・書類等貴重なものばかりである。
	池田３遺跡出土遺物	池田町 H8.5.10	動物形土製品である。池田3遺跡は続縄文時代前期を主体として縄文時代早期から前期、中期、後期、擦文時代の遺構遺物が発見されている。
	二宮尊親の書「修学習業」	豊頃町 H6.7.29	明治４４年に書かれたものであり、尊親が二宮から離れた後の作品で、教育の指針として受けとめることができる。
	二宮尊徳の紋付羽織	豊頃町 H8.6.24	大正１２年、福島県中村町の大槻吉直氏が寄贈、奉納したもので、１４０年以上前のものと推定される。
	二宮尊徳の直筆「道歌」	豊頃町 H8.6.25	大正９年報徳二宮神社造営の際、二宮尊道氏が寄贈したもの。尊徳直筆の書は報徳記念館（小田原市）のほかには数少なく貴重なもの。
	網走本線開通記念成功記念碑	陸別町 S54.8.8	明治43年10月30日、網走本川（池北線）の開通を記念し碑が建立された。陸別町の開拓史上重要な役割を担った鉄道の存在を後世に残す貴重な資料
	関寛翁碑	陸別町 S54.8.9	昭和11年10月15日、関寛の25年祭を記念し、建立された碑。大学は徳富蘇峰、碑文は佐藤恒二（佐倉順天堂病院長）があたっており、幕末期や陸別町開拓期の寛を語る貴重な資料。
	斗満遺跡出土の石器	陸別町 S58.2.28	斗満川右岸段丘縁辺部。大型バイフェイス、尖頭器、スクレイパー等が出土。 標高335メートル。
	奥羽出張病院日記	陸別町 S58.2.28	関寛が戊辰の役によ徳島藩より軍医として参戦し、野戦病院を開設して診療にあたった期間の日記であり、医療記録戊辰記録としても貴重な資料。
	関寛翁自筆漢詩	陸別町 S58.2.28	幕末の蘭方医であった関寛が徳島での医療活動にけじめをつけ、北海道開拓を実行するにあたって知人に贈った記念品の自筆原稿であり貴重な資料。
	関寛翁自筆短冊	陸別町 S58.2.28	陸別町開拓の祖、関寛が入地した斗満の地で詠んだ短歌の自筆短冊であり、辞世をはじめ、折にふれて詠んだ7首を含む貴重な資料。
	長崎在学日記	陸別町 H4.7.29	万延元年、浜口悟陵の援助を受け長崎留学当時、最新の医術をポンペに教わる。この留学期間中、長崎相撲見物などを記録したもの。
	家日誌抄	陸別町 H4.7.30	陸別町開拓の祖といわれる関寛斎（せきかんさい1830～1912年）の生涯を紹介する陸別町関寛斎資料館に上記とともに展示されている。
	十勝駒踊	音更町 H12.3.28	大正5年に、十勝種馬所の職員らにより始められた。洞内南部駒踊を継承し、今日では毎年駒場神社の秋祭りに奉納され、親しまれている。
	東士狩獅子舞	音更町 H12.3.28	郷里富山県より道具衣装を取り寄せ、地区内の経験者が指導者となり、明治35年に始められた。今日では、毎年東士狩神社の秋祭りに奉納され、地域ぐるみで保存している。獅子は「百足獅子」。
	矢部獅子舞	音更町 H12.3.28	郷里富山県での経験者が指導者になり、明治37年に始められた。今日では、地域の強い結束力により保存され、毎年住吉神社の秋祭りに奉納されている。獅子は「百足獅子」。
	ムックリ奏者安東ウメ子	幕別町 H14.2.26	ムックリは母のの影響で始め、ウポポ（歌）の優れた歌い手でもある。幕別町を中心とした「マクウンベツアイヌ文化保存会」の結成に尽力。「帯広カムイトウウポポ保存会」の設立にも寄与。
	糠内獅子舞	幕別町 H14.2.26	開拓時代から糠内に伝わる獅子舞。
	二宮開拓獅子舞	豊頃町 S54.9.21	嘉永５年に相馬石神村押釜（現在の福島県原町市石神）の彫刻師小沢深治等が伊勢神宮で神楽を習い高座神社に奉納した「押釜神楽」がそのルーツとされている。
	浦幌開拓獅子舞	浦幌町 S40.3.25	富山県出身で獅子舞の棒振り(天狗)の経験のある笹川平次郎が先生棒となり地域の人達とはかり、明治３５年の秋祭りに初めて獅子舞を奉納した。
	嶋木遺跡	上士幌町 S60.8.1	黒曜百を中心に約7千点の石器群が出土している。これらの出土品がシベリア地方で発掘されているものと似ていることから昭和62年10月、日ソ共同考古学調査がおこなわれた。
	札文内第２チャシコツ	豊頃町 S54.9.21	ＪＲ根室本線を眼下に臨む河岸段丘上に位置し、壕は二重で、内壕は半円形、外壕は馬蹄形状を呈しています。
	旅来Ａチャシコツ	豊頃町 S58.6.29	道々大津旅来線の海抜４０ｍの高台に位置した壕幅５ｍ深さ２．５ｍの二重壕で、築造巧緻であり、アイヌ民族の伝説があります。
	旅来Ｂチャシコツ	豊頃町 S58.6.29	チャシコツから１００ｍほど離れた海抜４５ｍの高台に位置した壕幅１ｍ、深さ０．５ｍの円形壕です。
	トラリチャシ跡群 第1チャシ	陸別町 S54.8.8	利別川左岸段丘上縁辺部。丘先式。弧状の単壕。標高190メートル。
	トラリチャシ跡群 第2、3チャシ	陸別町 S54.8.8	利別川左岸段丘上縁辺部。面崖式。弧状の二重壕(南北90メートル、東西30メートル)。標高190メートル。利別川左岸段丘上縁辺部。面崖式。弧状の多重壕。標高190メートル。
	トラリチャシ跡群 第4チャシ	陸別町 S54.8.8	利別川とペンケトラリ川の合流点。
村	旧杉村農場サイロ	中札内 S59.10.25	本村酪農の先駆者・杉村吉之助が、昭和五年秋に現在の栄東二線144番地で酪農を営んでいた頃の歴史的建造物。吉之助氏が経営していたコンクリート会社の特許L型ブロックを使用しているのが特徴。
	元更別大国神社石見神楽	中札内 S37.6.29	大正6年、島根県日和村(現在は石見町)から元更別地区に入植した日和出身者が農作業の合間の娯楽として始めたもので、現在、元更別大国神社石見神楽保存会が伝承している。

2－4. 河川環境を取り巻く背景

河川の利用については、カヌーや釣りが盛んであり、市街地周辺の高水敷では公園や運動場が整備されており、十勝地方発祥のパークゴルフや野球、サッカー等のスポーツ、散策等多くの人達に利用されている。他方、市街地周辺以外の高水敷では、その多くが採草放牧地等として利用されている。また、イカダ下り、北海道で最大級の花火大会、お祭り等の河川空間を利用したイベントも数多く行われているほか、帯広市に全国で初めての「子どもの水辺」地域拠点センター（通称、北海道エールセンター）が整備され、子どもの水辺への活動支援等が行われている等、市民団体や NPO 等が主体となった環境学習が盛んである。冬季には十勝中央大橋下流に整備した護岸（通称、白鳥護岸）に数多くの白鳥が飛来し、多くの観光客が訪れる。また、十勝川温泉付近には道立広域公園である十勝エコロジーパーク等が整備され、多くの人々に利用されている他、昭和初期に建設され、十勝川流域の農業の礎でもある千代田堰堤は、堰堤からの壮大な流れとサケの遡上が見られる観光の名所になっている。

また、各河川の上流部には、十勝ダムを始めとして数多くのダム湖があり、豊かな自然植生の山間を縫流する渓流と共に雄大な四季の景観を演出している。近年、ダム周辺の環境整備が進められ、ダム湖の水面及び周辺の利用も盛んになり、多くの温泉地と共に地域の活性化と北海道観光の重要な資源となっている。

パークゴルフ場（音更川）

十勝川イカダ下り

十勝川花火大会

札内川清流まつり

2－5. 市民活動

十勝川水系では、多くのＮＰＯや市民団体の活動が盛んに行われるようになってきている。こうした状況を背景として、市街地近傍に良好な環境が残されている相生中島地区の川づくり、親水施設の現地改善活動などのほか、川の清掃活動といった維持・管理面でも積極的に参加する人々が増えており、良好な川づくりに向けての取り組みが行われている。

また、近年では川の自然観察会など環境教育を通して身近な自然を学ぶ活動が着目されており、十勝川水系内においても積極的な活動を行っている例が数多く見られるようになっている。

川の自然観察会

親水施設の現地改善活動

相生中島地区川づくり

河川清掃

2－6. 自然公園等の指定状況

流域には数多くの自然環境が残されており、その中でも特に重要なものについては自然公園としての指定を受けて保全されている。流域の北西部には十勝川の源流部がある大雪山国立公園が位置し、南西部には日高山脈襟裳国定公園が位置するほか、北東部には阿寒国立公園が位置し、十勝川源流部は原生自然環境保全地域に指定されているている。

これらの自然公園の指定に加え、流域内における国指定の特別天然記念物の大雪山、タンチョウ、国指定の天然記念物のオンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地がある。このほか、道指定の天然記念物として、札内川流域化粧柳自生地、大正のカシワ林、更別湿原のヤチカンバ、大津海岸トイトッキ浜野生植物群落、大津海岸長節湖畔野生植物群落、然別湖オショロコマ生息地、帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主が存在する。

また、鳥獣保護区として指定されている箇所は 30 箇所を越え、流域には数多くの貴重な自然環境が保全されている。

表２－７　各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域

保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区域	区域	存続期間	備考
道	247	上士幌町	糠平湖	河東群上士幌町に所在する。糠平湖満水時の水面の区域一円 [特保]河東郡上士幌町に所在する糠平湖のうち、国有林上士幌事業区47林班境界標山260号を起点とし、同箇所から糠平湖の水面を見通して同事業区141林班境界標山21号を結び、この見通し線から、北西側に所在する北海道旅客鉄道株式会社旧士幌線までの糠平湖の水面の区域一円	平成2年10月1日 ～平成22年9月30日 (H2.9.27第1362号 [特保第1363号])	集団渡来地 810ha [特保665ha]
	248	芽室町	伏美	河西郡芽室町に所在する民有林47林班のうち12、14、16から18までの各小班、48林班のうち23から35までの各小班及び49林班並びに美生川の西伏美橋からトムラウシ沢と美生川の合流点までの河川敷の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16.9.28第816号)	森林鳥獣生息地 318ha
	250	本別町	勇足	中川郡本別町に所在する民有林十勝東部地域森林計画区のうち、131、134、135林班の区域	平成17年10月1日 ～平成37年9月30日 (H17.9告示予定)	森林鳥獣生息地 387ha
	251	浦幌町	常室	十勝郡浦幌町に所在する道有林十勝管理区14林班04、22、55、56、66から74まで、97、99の各小班、36林班、37林班の区域 [特保]道指定常室鳥獣保護区のうち、道有林十勝管理区36林班05小班の区域	平成17年10月1日 ～平成37年9月30日 (H17.9告示予定 [特保H17.9告示予	森林鳥獣生息地 392ha [特保31ha]
	252	新得町	新得山	上川郡新得町に所在する新得神社社所有地並びに新得町有林32林班1から11まで、14から17まで、19、20及び22の各小班、33林班から35林班まで並びに36林班7から10まで及び13から16までの各小班の区域一円	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日 (S61.9.22第1536号)	森林鳥獣生息地 524ha
	254	豊頃町	大津	中川郡豊頃町に所在する道有林池田経営区116林班の区域一円 [特保]大津鳥獣保護区のうち道有林池田経営区116林班04、05、09、11、12、51から57まで及び59の各小班の区域一円	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日 (S61.9.22第1536号 [特保第1535号])	森林鳥獣生息地 283ha [特保H7ha]
	255	幕別町	依田	中川郡幕別町字依田に所在する町道日新線と町道温泉北通との交点を起点とし、この点から町道温泉北通を東に進み町道札内高台線(道路敷を除く。)との交点に至り、この点から町道札内高台線を南に進み同町道(道路敷を除く。)と十勝西部森林計画区94林班30小班及び50小班界見通し線との交点に至り、この点から同見通し線を西方に進み十勝西部森林計画区94林班50小班界との交点に至り、この点から同森林計画区94林班50、30、21及び112小班界を進み同小班界と同森林計画区94林班113小班界との交点に至り、この点から西方見通し線を進み同森林計画区94林班12小班界との交点に至り、この点から同小班界を進み同森林計画区94林班9小班との交点に至り、この点から同森林計画区94林班9、7及び6小班界並びに同小班界見通し線を南に進み同森林計画区94林班34小班界との交点に至り、この点から同小班界並びに同小班界見通し線を南に進み同森林計画区94林班2小班界との交点に至り、この点から同小班界及び1小班を進み町道幕別温泉南通(道路敷を除く。)との交点に至り、この点から西に進み同森林計画区94林班2小班界との交点に至り、この点から2、3及び5小班界を進み町道日新線(道路敷を除く。)との交点に至り、この点から同町道を北に進み起点に至る線に囲まれる区域	平成11年10月1日 ～平成21年9月30日 (H11.9、21 第1634号)	身近な鳥獣生息地 25ha
	256	浦幌町	稲穂	十勝郡浦幌町字稲穂1番、2番、3番、4番及び6番の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16.9.28第816号)	集団繁殖地 29ha
	257	帯広市	岩内	帯広市岩内町62番2の北端を起点とし、この点から同番地の地番界を南東に進み岩内川左岸との交点に至り、この点から同左岸を南西に進み市道9号との交点に至り、この点から同市道を北西に進み岩内町54番1の地番界との交点に至り、この点から同地番界を北西に進み岩内町69番2の北西側地番界との交点に至り、この点から同地番界を北東に進み岩内町68番との交点に至り、この点から同地番界を西に進み市道9号との交点に至り、この点から同市道を北に進み岩内町58番5の南東端と岩内町58番4の南西端を結んだ線の延長線との交点に至り、この点から同延長線を西に進み国有林界との交点に至り、この点から同境界を北に進み岩内町66番の地番界の交点に至り、この点から同地番界を東に進み岩内町76番の地番界との交点に至り、この点から同地番界を北に進み市道西5線との交点に至り、この点から同市道を北東に進み拓成町21番の南端と西端を結んだ線の延長線との交点に至り、この点から同延長線を南東に進み岩内町75番の地番界との交点に至り、この点から同地番界を南東に進み市道4号との交点に至り、この点から同市道を南東に進み市道西1線との交点に至り、この点から同市道を南西に進み岩内町26番1の地番界との交点に至り、この点から同地番界を南に進み岩内町30番2の地番界との交点に至り、こ.の点から同地番界を南西に進み市道5号との交点に至り、この点から同市道敷地界を南西に進み岩内町32番2の地番界との交点に至り、この点から同地番界を南に進み岩内町34番2の地番界との交点に至りこの点から同地番界を南に進み岩内町36番2の地番界との交点に至り、この点から同地番界を南に進み岩内町36番3の地番界との交点に至り、この点から同地番界を南東に進み道道上札内帯広線との交点に至り、この点から起点を見通した線を南西に進み起点に至る線によって囲まれた区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16.9.28第816号)	708ha 森林鳥獣生息地
	258	足寄町	中足寄	足寄郡足寄町字中足寄110番地に所在する足寄町有林256林班の区域	平成8年3月13日 ～平成18年9月30日 (H8.3.8第303号)	身近な鳥獣生息地 73ha
	259	池田町	清見	中川郡池田町字清見144番1、17から23まで、及び26並びに34の区域	平成10年10月1日 ～平成20年9月30日 (H10.9.11第1551号)	身近な鳥獣生息地 73ha
	261	足寄町	九州大学演習林	足寄郡足寄町に所在する九州大学農学部付属演習林北海道演習林1林班から30林班の区域	平成11年10月1日 ～平成21年9月30日 (H11.9.21第1634号)	森林鳥獣生息地 3,713ha
	262	新得町	広内	上川郡新得町に所在する北海道立畜産試験場用地(民有林21林班3から9小班まで)の区域	平成12年10月1日 ～平成22年9月30日 (H12.9.22第1566号)	身近な鳥獣生息地 59ha
	263	芽室町	新嵐山	河西郡芽室町中美生2線41番地2、42番地1、2、4及び7から9まで、43番地1、44番地1から3まで、7及び8、45番地1、5及び8、46番地9、同3線40番地9、10、12及び13、41番地1、42番地1、43番地2、3、5及び6、同4線37番地21、23、25、26、31、39、46、52、53及び60、同5線34番地1、23、24、32及び43、同6線32番地1、44番地1及び2の区域	平成12年10月1日 ～平成22年9月30日 (H12.9.22第1566号)	森林鳥獣生息地 313ha

出典:北海道　「平成 17 年度鳥獣保護区等位置図(別冊編)」

表２－８　各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域

保護区分	整理番号	市町村	鳥獣保護区域	区域	存続期間	備考
道	264	池田町	大森	中川郡池田町に所在する池田町有林131林班36及び37小班、133林班及び民有林132林班の区域	平成12年10月1日 ～平成22年9月30日 (H12.9.22第1566号)	森林鳥獣生息地 147ha
	265	浦幌町	留真飛田	十勝郡浦幌町字留真に所在する民有林33林班(2から4まで及び28小班を除く。)、34林班(5から7小班までを除く。)、74林班6から8まで、22から25まで及び27小班、75林班(22から25小班までを除く。)、76林班(1から12まで及び107小班を除く。)、78林班、79林班(52から58まで及び62小班を除く。)及び80林班(1、2及び30小班を除く。)の区域	平成12年10月1日 ～平成22年9月30日 (H12.9.22第1566号)	森林鳥獣生息地 786ha
	266	音更町	国見山	河東郡音更町及び河西郡芽室町に所在する国有林十勝西部森林管理署389林班及び390林班の区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13.9.28第1631号)	身近な鳥獣生息地 66ha
	267	新得町	狩勝	上川郡新得町に所在する一稼民有林十勝森林計画区新得町有林50林班19、24、46、48、49、51の各小班及び72小班の一部、53林班11、13、50、51、53、55,56、58から64まで及び66の小林班並びにこれに囲まれた区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13.9.28第1631号)	身近な鳥獣生息地 44ha
	268	陸別町	宮の森	足寄郡陸別町に所在する国有林陸別事業区38林班へ、と、ち及びりの各小班並びに70林班い、ろ、は、は1、に及びハの各小班の区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13.9.28第1631号)	身近な鳥獣生息地 90ha
	269	浦幌町	東山	十勝郡浦幌町に所在する一般民有林十勝森林計画区浦幌町208林班(38小班を除く。)並びに209林班1から6まで、60、65及び66の各小班の区域	平成13年10月1日 ～平成23年9月30日 (H13.9.28第1631号)	身近な鳥獣生息地 90ha
	270	上士幌町	糠平	東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署47林班のうちい、境界線 ろ、ろ1、ろ2、は及びイの各小班、54林班のうち、い、い1、ろ、ろ1、ろ2、 は、にの交点及びイの各小班並びに55林班のうち、い、い1、い2、ろ、は及びにの各小班の区域 [特保]河東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署47林班い及③平素 びはの各小班の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15.3.25第462号 [特保第463号])	森林鳥獣生息地 433ha [特保34ha]
	271	上士幌町 鹿追町	然別	河東郡上士幌町及び鹿追町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署216班のう 2林班のうちい、い1、い2、ろ、は及びイからへの各小班、2163林班のうちい、ろ、ろ1、は、は1、にからり、イ、イ1からイ3、ロ、ロ1及びハからルの各小班、2164林班のうちいからに、に1、ほ、ほ1及びイの各小班、2166林班い小班、2167林班のうちいからと及びイの各小班並びに2168林班のうちいからにの各小班並びに然別湖の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15.3.25第462号)	森林鳥獣生息地 1,803ha
	272	新得町	トムラウシ	上川郡新得町屈足トムラウシ284番地並びに同町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署1182林班のうちい、い1、ろ、ろ1からろ3、は、は1、に、に1、ほ、へ及びイからへの各小班、1188林班のうちいからは、は1からは4、に、に1、ほ及びイから二の各小班、1189林班のうちいからは及びイからハの各小班、1221林班のうちは及びにの各小班並びに1222林班のうちは及びイの各小班の区域 [特保]上川郡新得町屈足トムラウシ284番地及び同町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署1189林班は小班の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15.3.25第462号 [特保第463号])	森林鳥獣生息地 607ha [特保98ha]
	274	本別町	義経山	中川郡本別町に所在する国有林十勝東部森林管理署205林班のうちい、い1及びい2の各小班、206林班のうちい、い1からい6、ろ、は及びロの各小班並びに207林班のうちい、い1からい3、イ及びロの各小班の区域[特保]中川郡本別町に所在する国有林十勝東部森林管理署205林班い、い1及びい2の各小班の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15.3.25第462号 [特保第463号])	森林鳥獣生息地 421ha [特保47ha]
	275	足寄町	雌阿寒	足寄郡足寄町に所在する国有林十勝東部森林管理署55林班タ小班並びに56林班のうち、い、い1、ろからへまで、へ1からへ3まで、イからニまで、ニ1、ホ、へ、ト、ト1、チからルまで、ワ及びオの各小班の区域[特保]道指定雌阿寒鳥獣保護区のうち、足寄郡足寄町に所在する国有林十勝東部森林管理署56林班のうち、 に、ほ及びワの各小班の区域	平成15年10月1日 ～平成35年9月30日 (H15.9.30第1724号 [特保第1725号])	森林鳥獣生息地 508ha [特保115ha]
	276	陸別町	鹿山	足寄郡陸別町に所在する国有林十勝東部森林管理署陸別事務所65林班のうちい、い1、い2、ろ、ろ1、は、は1、に、に1、ほ、へ、イ及びロの各小班並びに68林班のうちいからに、に1、に2、ほからり、り1及びイから二の各小班の区域 [特保]足寄郡陸別町に所在する国有林十勝東部森林管理署陸別事務所68林班のうち、 いからはまで、イ及びハの各小班の区域	平成15年3月31日 ～平成34年9月30日 (H15.3.25第462号 [特保第463号]〉	森林鳥獣生息地 521ha [特保66ha]
	277	鹿追町	瓜幕	河東郡鹿追町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署2145林班及び2147林班及びこれらの林班に囲まれた道有地の区域	平成16年10月1日 ～平成36年9月30日 (H16.9.28第816号)	森林鳥獣生息地 483ha
	278	清水町 新得町	北清水	上川郡清水町に所在する町有林82林班7、12、13及び15から22までの各小班、83林班2から8までの各小班、84林班1から7までの各小班及び85林班8、12から14まで、16から25まで、29から32までの各小班並びに上川郡新得町に所在する清水町有林1林班1、5、11、12、14及び15の各小班、2林班1、2、10及び12から14までの各小班、3林班5から11までの各小班の区域一円。	昭和61年10月1日 ～平成18年9月30日 (S61.9.22第1534号)	森林鳥獣生息地 535ha
	280	音更町	オサルシ	河東郡音更町字オサルシに所在する音更町有林68林班の西側境界線と北海道横断自動車道路敷地界との交点を起点とし、この点から同境界線を東に進み同林班東側境界線との交点に至り、この点から同林班東側境界線を南に進み同町有林69林班との交点に至り、この点から同町有林69林班及び70林班の境界線を進み起点に至る線で囲まれた区域	平成9年11月7日 ～平成19年9月30日 (H9.10.13第1612号)	身近な鳥獣生息地 335ha

出典：北海道　「平成 17 年度鳥獣保護区等位置図（別冊編）」

表２－９　各種保護地域指定一覧

銃猟禁止区域

整理番号	市町村	銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考
63	浦幌町	十勝太	十勝郡浦幌町字十勝太に所在する町道十勝太線と新川右岸（新川橋）との交点を起点として、この点から同町道（道路敷を除く。）を東に進み浦幌十勝川左岸堤防との交点に至り、この点から同川左岸堤防の延長線を直進して太平洋のなぎさ線との交点に至り、この点から同なぎさ線を南西に進み浦幌十勝川の左岸河口との交点及びこれに対応する同川右岸堤防との交点に至り、この点から同川右岸堤防を西に進み新川右岸を延長した線と浦幌十勝川右岸堤防との交点に至り、この点から新川右岸の延長線を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成10年10月1日 ～平成20年9月30日	35ha
64	幕別町 音更町	十勝川水系	中川郡幕別町と同郡池田町の境界線と幕別町道東21号の延長線との境界線との交点を起点とし、この点から同線を南に進み十勝川左岸堤防との交点に至り、この点から途別川右岸堤防と十勝川左岸堤防との交点へ西に進み、この点から十勝川左岸堤防に氏に進み幕別町道東7号線との交点に至り、この点から同町道を北に延長した線を北に進み音更町下士幌基線との交点に至り、この点から同基線を東に進み道道帯広浦幌線との交点に至りこの点から同道道を東に進み同町界と幕別町との町界との交点に至り、この点から同町界を東に進んで起点に至る線に囲まれた区域	平成17年10月1日 ～平成27年9月30日	781ha
65	豊頃町	育素多沼	中川郡豊頃町字育素多に所在する道道利別・牛首別線と南26線との交点を起点とし、この点から同線を西に進み東43線との交点に至り、この点から同線を北に進み南24線との交点に至り、導の点から同線を東に進み道道利別・牛首別線との交点に至り、この点から同道道を南東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成8年10月1日 ～平成18年9月30日 (H8.9.24第1476号)	55ha
66	池田町	利別	中川郡池田町に所在する道道帯広浦幌線と利別川右岸堤防との交点を起点とし、この点から同右岸堤防を南に進み町道川合東36号線の延長線との交点に至り、この点から同延長線及び町道川合東36号支線を西に進み町道東34号との交点に至り、この点から同町道を北に進み南5線との交点に至り、この点から同線を西に進み町道東33号との交点に至り、この点から同町道を北に進み国道242号との交点に至り、この点から同国道及び道道帯広浦幌線を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成17年10月1日 ～平成27年9月30日 (H17.9告示予定)	73ha
67	帯広市	川西	帯広市に所在する市道5号と国道236号との交点を起点とし、この点から同国道を南に進み市道7号との交点に至り、この点から同市道を東に進み札内川堤防との交点に至り、この点から同堤防を北に進み市道5号との交点に至り、この点から同市道を西に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成17年10月1日 ～平成27年9月30日 (H17.9告示予定)	25h
68	池田町	昭栄	中川郡池田町字昭栄に所在する町道北9号と北海道旅客鉄道株式会社根室本線との交点を起点とし、この点から同町道(道路敷を除く。)を南西に進み町道川合東39号との交点に至り、この点から同町道(道路敷を除く。)を西に進み町道川合南14線との交点に至り、この点から同町道(道路敷を除く。) を西に進み道道利別牛首別線との交点に至り、この点から同道道(道路敷を除く。)を北西に進み町道昭栄北11号を南西に進んだ延長線との交点(利別川左岸堤防)に至り、この点から同町道(道路敷を除く。)の延長線を北東に進み北海道旅客鉄道株式会社根室本線との交点に至り、この点から同根室本線沿いに南東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成10年10月1日 ～平成20年9月30日 (H10.9.11第1554号)	98ha
69	幕別町	鎮別	中川郡幕別町字相川の町道南6線と国道38号の交点を起点として、同国道を南東に進み猿別川堤防との交点に至り、この点から同堤防を北西に進み町道南4線との交点に至り、この点から町道東25号と河川敷地界との交点に至り、この点から猿別川河川敷地界を南西に進み道道幕別札内線との交点に至り、この点から同町道を西に進み町道東17号との交点に至り、この点から同町道を北に進み町道南6線との交点に至り、この点から同町道を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成15年10月1日 ～平成25年9月30日 (H15.9.30第1727号)	295ha
70	上士幌町	十勝三股	河東郡上士幌町字三股に所在する中の川と三の沢川との合流点を起点として、この点から三の沢川(河川敷を除く。)を東に進み沢界との交点に至り、この点から同沢界を南に進み176林班北側境界線との交点に至り、この点から同境界線を東に進み標高758mと770mの鞍部(コル)に至り、この点から見通し線で南南東に進み十四の沢林道と沢界との交点に至り、この点から同沢界を南西に進み十四の沢川との交点に至り、この点から同川(河川敷を除く。)を南西に進み音更川との合流点に至り、この点から音更川(河川敷を除く。)を北に進み中の川との合流点に至り、この点から中の川(河川敷を除く。)を北に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成10年10月1日 ～平成20年9月30日 (H10.9.11第1554号)	263ha
71	浦幌町	浦幌豊北	十勝郡浦幌町字トイトッキに所在する町道豊北線と町道豊北小学校線との交点を起点とし、この点から同豊北小学校線を南に進み国道336号線との交点に至り、この点から同国道を西に進み同町字トイトッキ95番11の南端に至り、この点から同国道を北に進み町道豊北線との交点に至り、この点から同町道を東に進み起点に至る線に囲まれた区域	平成12年10月1日 ～平成22年9月30日 (H12.9.22第1568号)	154ha
72	陸別町	陸別銀河の森	足寄郡陸別町字陸別に所在する一般民有林十勝森林計画区陸別町有林129林班、151林班及び国有林十勝東部陸別21林班との林班界の交点を基点とし、この点から151林班と国有林の境界を南に進み同町有林130林班界との交点に至り、この点から130林班と151林班の林班界を北に進み130林班34小班界との交点に至り、この点から同林班32小班界を見通して同見通し線を北に進み129林班と130林班り1林班界との交点に至り、この点から同林班界を西に進み129林班27小班西側小班界との交点に至り、同小班界を北に進み別町字陸別52号線との交点に至り、この点から同号線を東に進み同林班135小班と34小班の小班界との交点に至り、この点から同林班32小班の西側小班界を見通して同見通し線を北に進み同小班と54小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界を東に進み陸別町字陸別東2線との交点に至り、この点から同線を北に進み同林班119小班と127小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界を東に進み同林班127小班と132小班の小班界との交点に至り、この点から同小班界、64小班と132小班の小班界及び65小班と33小班の小班界を北に進み陸別町字陸別53号線との交点に至り、この点から同号線を西に進み陸別町字陸別東2線との交点に至り、この点から陸別町字陸別54号線と129林班93小班の西側小班界との交点を見通して同見通し線を進み同点に至り、この点から同号線を西に進み清水川河川敷界との交点に至り、この点から同河川敷界を東に進み129林班107小班西側小班界との交点に至り、この点から陸別町字陸別東2線と129林班85小班の北側小班界との交点を見通して同見通し線を東に進み同交点に至り、この点から129林班153及び111小班の南側小班界を東に進み129林班界との交点に至り、この点から同林班界を北に進み起点に至る線で囲まれる区域	平成14年10月1日 ～平成24年9月30日 (H15.9.27第1543号)	163ha
73	上士幌町	糠平	河東郡上士幌町に所在する国有林十勝西部森林管理署東大雪支署60林班ろ1小班の北端を起点とし、この点から国有林界を南東に進み、56林班い1小班と55林班い1小班との交点に至り、この点から同小班界を西に進み国道273号との交点に至り、この点から同国道を北に進み61林班との交点に至り、この点から見通し線で起点に至る線によって囲まれた区域	平成15年10月1日 ～平成25年9月30日 (H15.9.30第1727号)	89ha

出典：北海道　「平成 17 年度鳥獣保護区等位置図（別冊編）」

表２－１０　自然公園等の指定状況

種　別	名　称	指定日	面積(ha)
国立公園	大雪山国立公園	昭和９年12月４日	226,774
	阿寒国立公園	昭和９年12月４日	90,481
国定公園	日高山脈襟裳国定公園	昭和56年10月１日	103,447
原生自然環境保全地域	十勝川源流部	昭和55年２月４日	1,035

表２－１１　天然記念物等指定状況

区　分	指 定	名　称	所　在　地
特別天然記念物	国	タンチョウ	十勝地方
		大雪山	新得町
天然記念物	国	オンネトー湯の滝マンガン酸化物生成地	足寄町茂足寄
	道	札内川流域化粧柳自生地	帯広市大正町基線9号・10号間地先
		大正のカシワ林	帯広市大正町445、446
		帯広畜産大学農場の構造土十勝坊主	帯広市川西町西4線17
		然別湖オショロコマ生息地	上士幌町・鹿追町の十勝西部森林管理署内
		更別湿原のヤチカンバ	更別村上更別33
		大津海岸トイトッキ浜野生植物群落	豊頃町打内
	町	十勝坊主	音更町字音更東6線41番地2
		三股永久凍土	上士幌町三股番外地
		丸山噴泉塔群	上士幌町字幌加
		伏見湿原ミズバショウ	芽室町伏見17線49-2
		大通公園一帯カシワ林	芽室町本通9丁目1
		ハルニレ	豊頃町二宮780-2
		ハルニレ	豊頃町幌岡南9号地先
		立木カシワ(7本)（勇足神社のカシワ林）	本別町勇足元町151
		立木カシワ(1本)（上押帯神社立木カシワ）	本別町押帯423番地8
		ヒカリゴケ	本別町東町53-3
		足寄石灰華半ドーム	足寄町上螺湾394番地

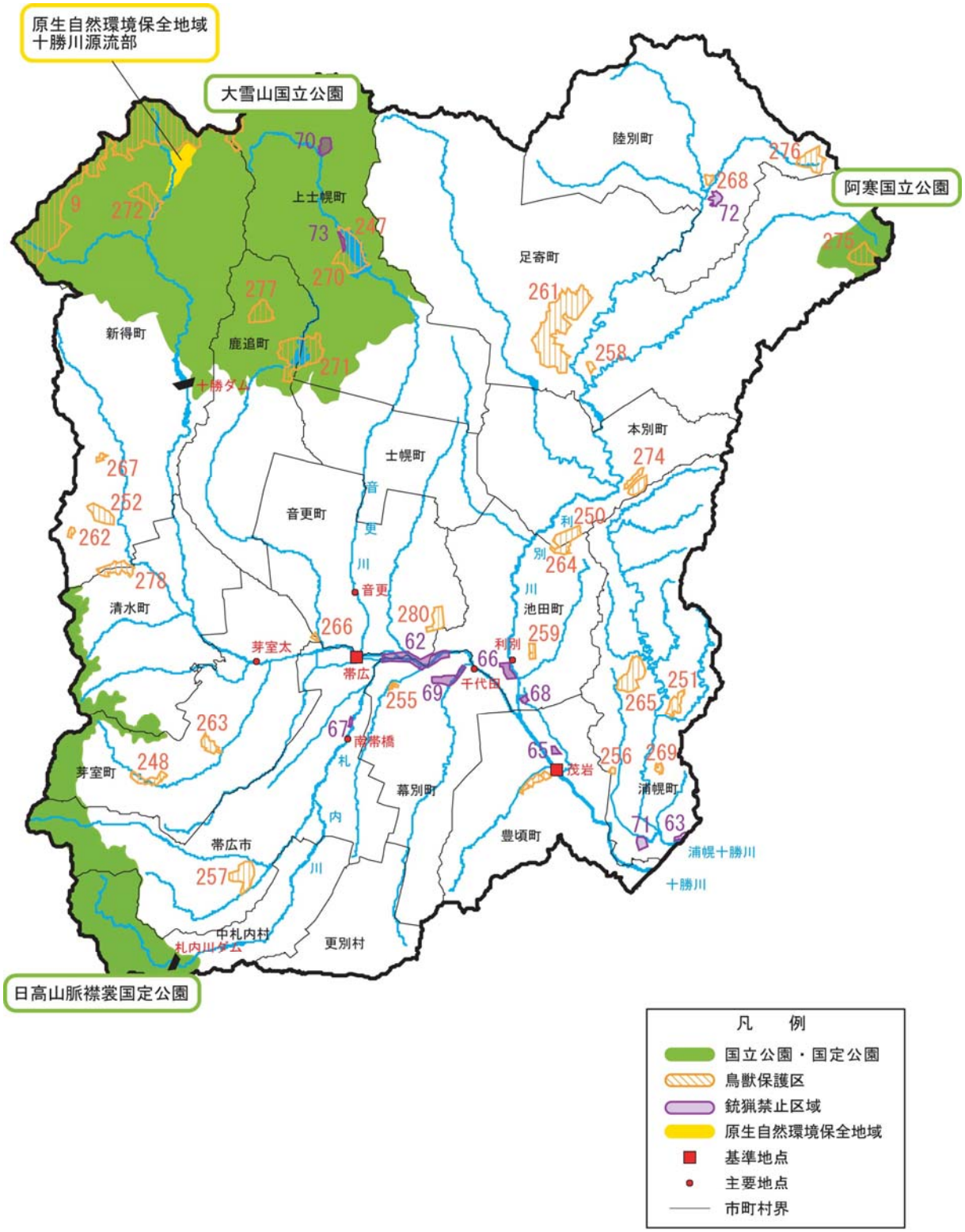


図２－２　十勝川流域における自然環境概要図

3. 流域の社会状況

3－1. 人口

十勝川流域は、北海道内 14 支庁で最も広い十勝支庁の大部分を占め、北海道東部の主要都市帯広市をはじめとする 1 市 14 町 2 村から構成される。

流域関係市町村の総人口は 340,368 人(平成 12 年国勢調査)で、このうち帯広圏(帯広市・音更町・芽室町・幕別町)人口は 250,000 人となっており、流域人口に対して約 7 割を占める。

また、人口の年度別推移を見てみると、帯広圏人口の流域人口に対する割合は、昭和 35 年の国勢調査では 50%、昭和 55 年の国勢調査では 67%、平成 2 年の国勢調査では 71%となっている。昭和 55 年から平成 12 年までの 20 年間の人口増加率は、流域人口の 2.6%に対し、帯広圏では 14.6%となっており、帯広圏への人口集中が年々高まっている。

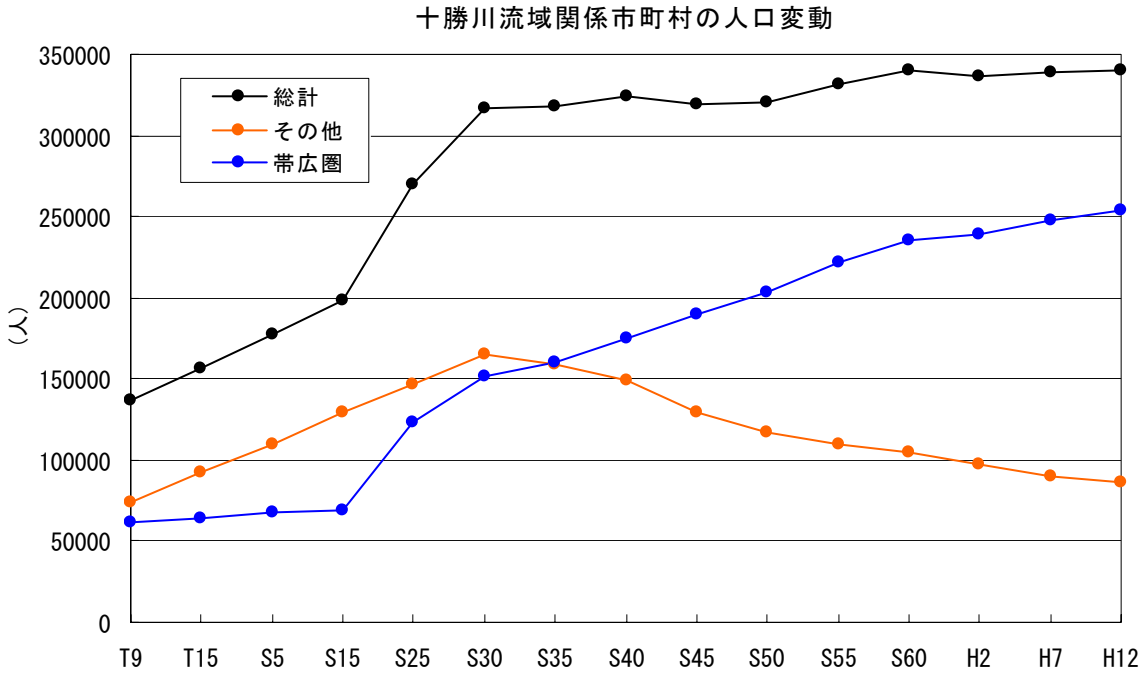


図３－１　十勝川流域関係市町村の人口変動

※T15 の値は T9 と S5 の平均値

表３－１　流域関係市町村人口に対する帯広圏人口の割合の推移

	昭和 35 年	昭和 55 年	平成 2 年	平成 12 年
帯広圏人口(人)	159,846	221,659	239,333	254,093
流域関係市町村人口(人)	318,411	331,512	336,253	340,368
流域関係市町村人口に対する帯広圏人口の割合	50.2%	66.9%	71.2%	74.7%

3－2. 土地利用

流域の土地利用は、古くは明治期の開拓に始まり、当初流域の下流部の低平地には湿地が広がっていたが、治水事業や農地開発により低平地は徐々に農地として利用されるようになり、昭和中期から後期にかけてはほとんどの低平地が農地として利用されるに至っている。現在の土地利用は、山林が約 47%、畑地が約 24%、牧場が約 3%、宅地が約 1%となっている。

近年においては、帯広市をはじめ都市化が進む地域を抱えるとともに、約 22 万 ha の耕地が広がり、小麦・甜菜・馬鈴薯・小豆・いんげん等の畑作や畜産が行われ、日本有数の食糧基地として位置づけられている。

表３－２　地目別土地利用の割合

(km^2)

地目	田	畑	宅地	鉱泉地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	計
帯広市	－	235.03	30.17	0.00	0.06	31.30	6.39	16.23	12.34	287.41	618.93
音更町	5.17	234.65	15.79	0.00	0.01	110.64	38.82	11.20	16.75	33.06	466.09
士幌町	－	149.10	7.23	0.00	－	48.10	13.37	2.92	3.86	34.56	259.14
上士幌町	－	99.23	3.65	0.00	16.90	529.09	16.80	23.72	3.50	7.99	700.88
鹿追町	－	122.59	3.69	－	1.74	204.07	7.59	5.43	1.94	52.56	399.61
新得町	－	60.82	3.69	0.00	1.36	81.28	6.80	20.74	25.10	864.21	1064.00
清水町	－	146.67	6.77	0.00	0.01	179.31	18.24	18.52	7.40	25.18	402.10
芽室町	－	214.13	9.60	0.00	0.85	207.23	13.47	16.93	20.19	31.52	513.92
中札内村	－	70.20	2.58	－	1.71	190.30	0.73	3.74	2.37	21.06	292.69
更別村	－	122.63	2.11	－	－	11.35	3.42	4.91	2.90	29.13	176.45
幕別町	2.24	172.70	7.36	0.00	0.04	61.97	9.41	24.66	6.71	55.37	340.46
池田町	14.10	61.91	3.82	0.00	0.05	169.12	58.54	8.85	16.62	38.90	371.91
豊頃町	－	100.49	2.62	－	0.00	253.89	10.81	46.61	9.16	112.94	536.52
本別町	0.06	115.45	3.70	0.00	0.04	233.94	6.14	2.82	2.82	27.02	391.99
足寄町	0.00	123.23	5.89	0.00	3.30	1105.12	21.54	28.76	8.95	111.41	1408.20
陸別町	－	51.02	2.19	－	－	494.01	12.85	18.41	9.45	20.87	608.80
浦幌町	－	105.05	4.48	0.00	－	473.54	16.59	3.65	3.07	123.26	729.64
計	21.57	2184.90	115.34	0.00	26.07	4384.26	261.51	258.10	153.13	1876.45	9281.33
割合	0.2%	23.5%	1.2%	0.0%	0.3%	47.2%	2.8%	2.8%	1.6%	20.2%	100.0%

※「その他」とは、保安林、公衆用道路、公園等である。

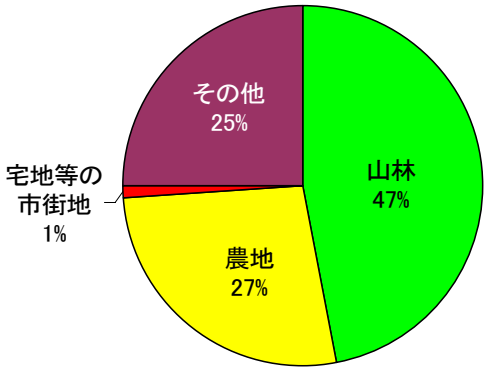


図３－２　地目別土地利用の割合（流域内市町村計）

※出典：平成 17 年北海道市町村勢要覧

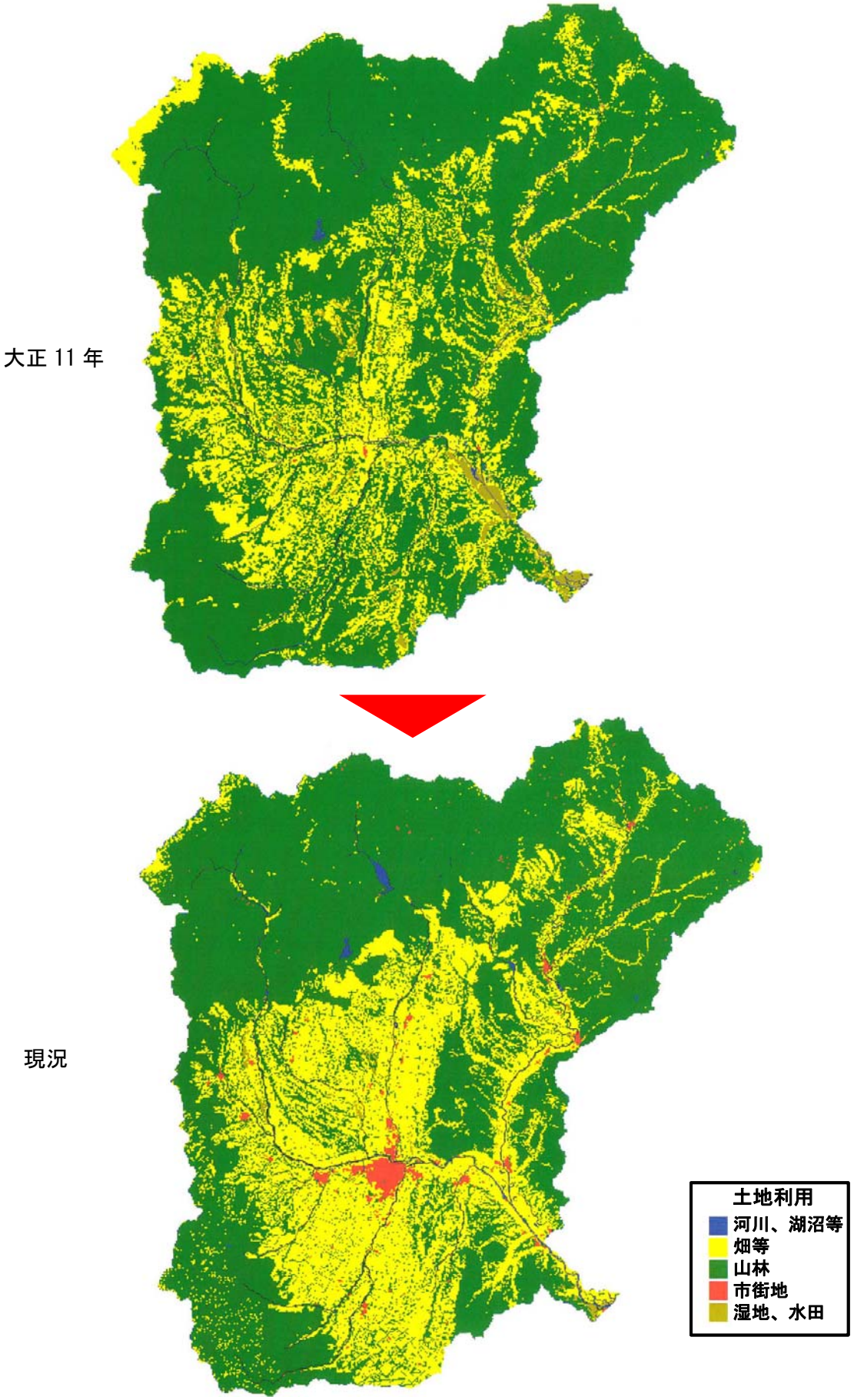


図３－３　十勝川流域の土地利用の変遷

3－3. 産業・経済

十勝川流域の第 1 次産業は、十勝平野における畑作・酪農を中心とした農業地帯が形成されており、流域の基幹産業となっている。水産業については、寒暖 2 海流が接した好漁場の道東太平洋に臨み、サケ・スケトウダラ・シシャモ・タコ類・ツブ類・毛ガニ等を主体とした沿岸・沖合漁業が行われている。また、千代田堰堤ではサケの捕獲も行われており、季節の風物詩として多くの観光客も訪れている。さらに、流域では豊富な森林資源を活用し、カラマツを代表樹種とした林業が営まれている。

また、第 2 次産業については農業、林業等の第 1 次産業を背景とした食品製造、木材・木製品製造などの資源型工業が行われていることが特徴となっている。

第 3 次産業は、帯広圏を中心に卸売業・小売業、サービス業などの産業が充実している。大規模小売店舗については、近年、地場企業による新規出店が相次いでおり、年々増加傾向にある。

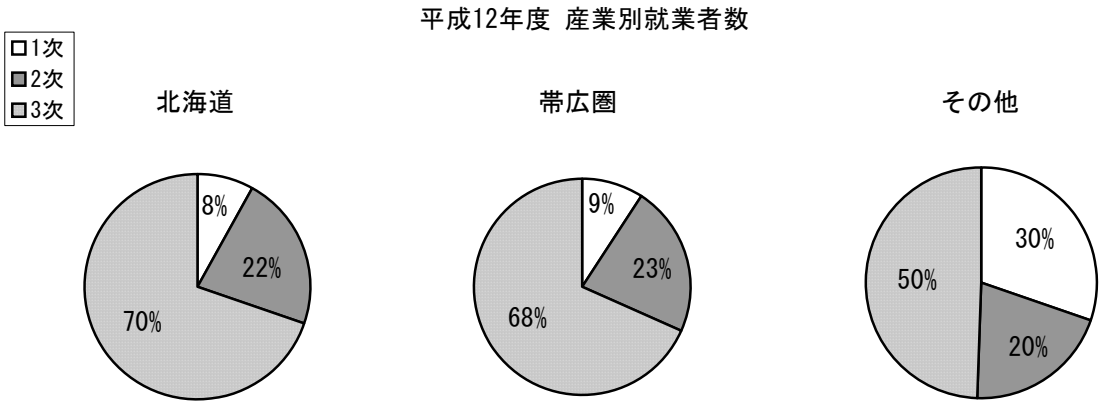
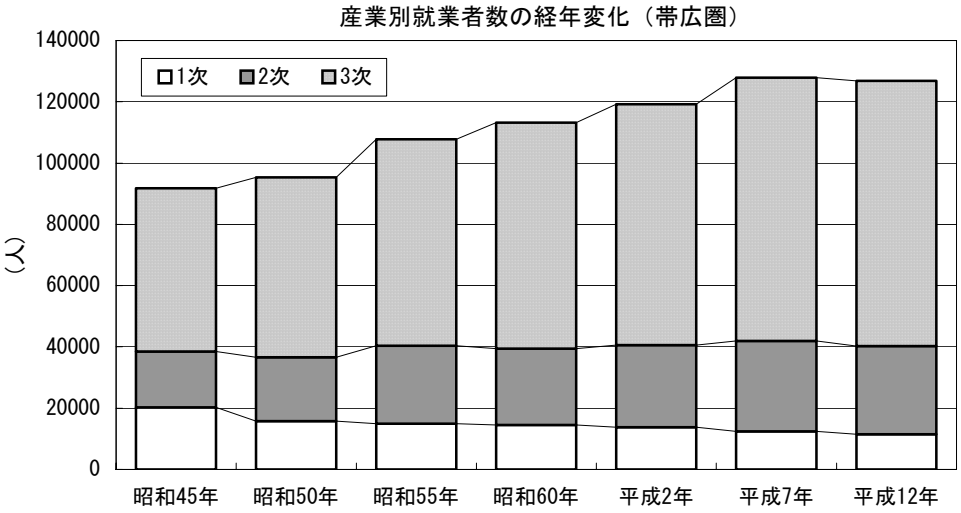


図３－４　産業別就業者数の割合(平成 12 年度国勢調査)



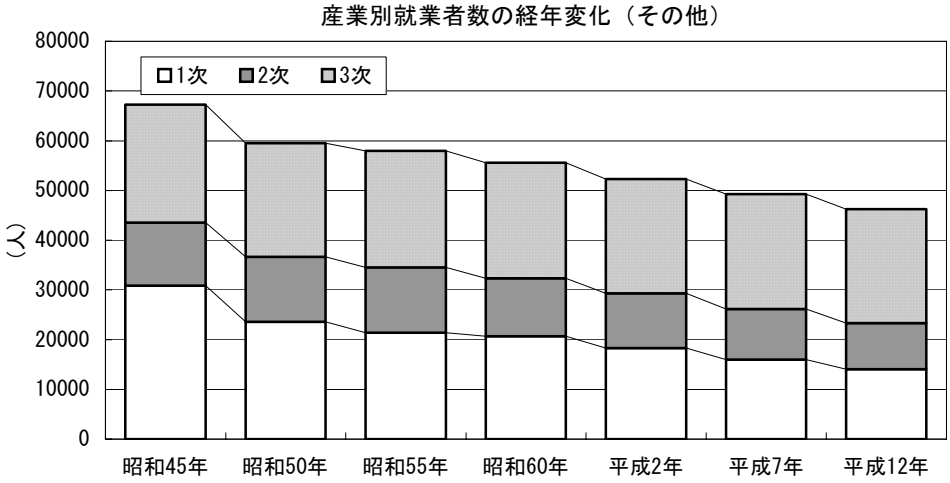


図３－５　産業別就業者数の経年変化(平成 12 年度国勢調査)

3－4. 交通

広大な面積を有する管内では自動車交通への依存度が高く、道路網は圏域内外の物的・人的交流に重要な役割を果たしている。他圏域と結ぶ主要幹線道路としては、道央・釧路圏を結ぶ国道 38 号線、北網圏を結ぶ国道 242 号線、釧路圏を結ぶ国道 241 号線、道北・上川中部圏を結ぶ国道 273 号線、道央・日高圏を結ぶ国道 336 号線、274 号線があり、さらに広尾～浦河間を結ぶ国道 236 号線が平成 9 年 9 月に開通し、十勝・日高間の時間が従来より短縮され、人の行き来が盛んになっている。

高規格幹線道路については、平成 7 年 10 月に、北海道横断自動車道の清水～池田間が、平成 15 年 6 月に池田～足寄・本別間が供用開始しており、現在は足寄～北見間・本別～釧路間及び清水～夕張間の整備が進められている。また、帯広～広尾間の自動車専用道路については、帯広～幸福間が供用開始しており、幸福～広尾間の整備が進められている。

今後、空港・港湾とのアクセス強化や中核都市等とのネットワーク強化に向けた道路網の一層の整備が望まれている。

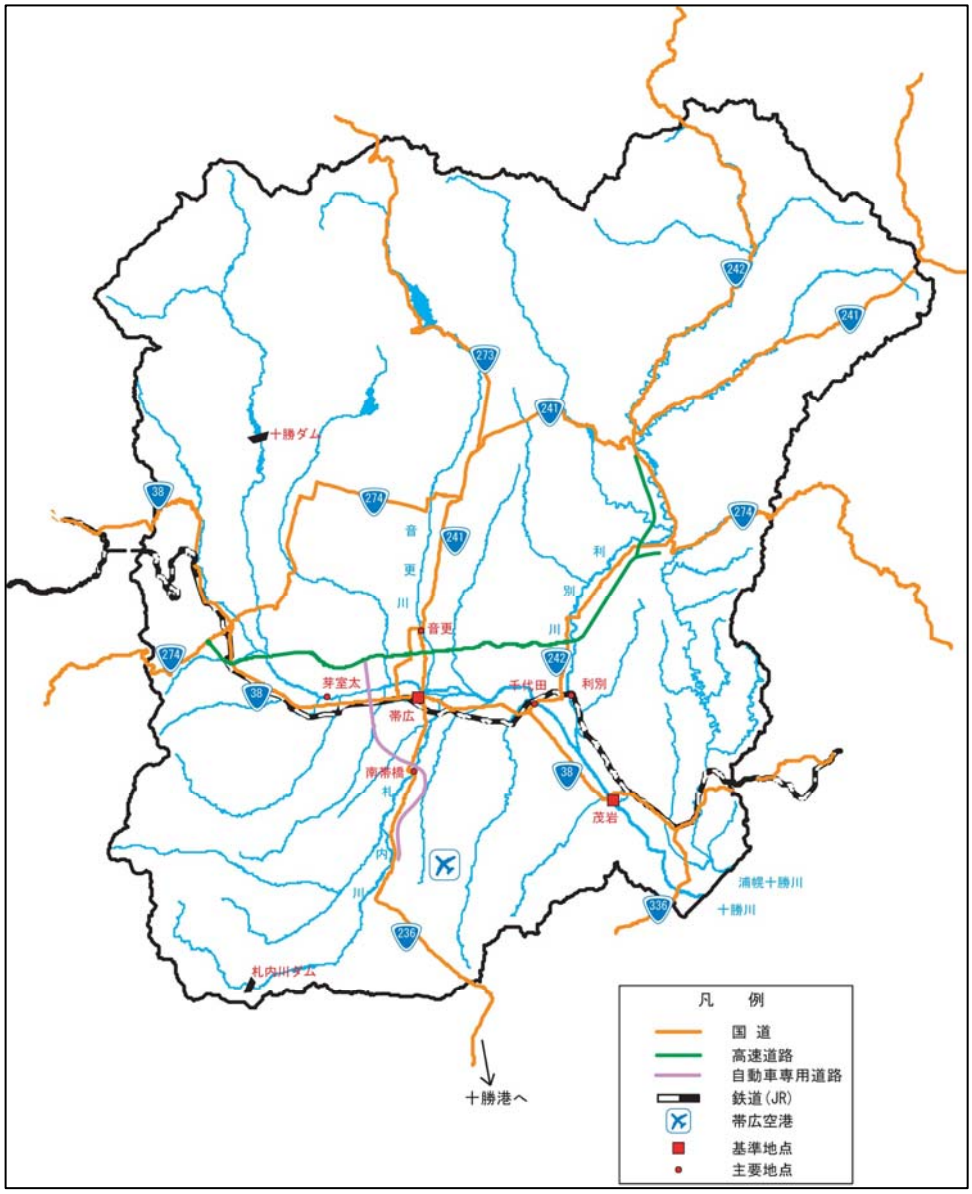


図３－６　十勝川流域の交通網

3－5. 関係ある法令の指定状況

① 第６期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、行政改革や国際化、地域環境問題への知見の集積などの大きな情勢の変化を受け、地球規模に視点をおいた食糧基地、北の国際交流圏の形成、観光・保養基地の形成や北海道が有する雄大な自然環境の保全、安全でゆとりのある生活環境の創出を目的としている。

これらの目的を重点的・効率的に推進していくための一方針として広域的・複合的な地域プロジェクトの推進を掲げており、複数の市町村が連携を図り、総合的に取り組むプロジェクトを支援していくものとしている。この地域プロジェクトの中には、十勝川水系の各河川が舞台となっているものもあり、河川事業に直接あるいは間接的に関連するものも少なくない。

第６期北海道総合開発計画　　＜全体構成＞

明日の日本をつくる北海道

【 第１章 第６期計画策定の意義 】
- ○ 諸改革の推進を踏まえつつ、北海道の広大な国土と資源を活用して我が国の２１世紀を拓く地域へと発展させるため、産業振興、社会資本整備等を総合的に展開するための指針と施策を示す。
- ○ 本計画は、1998（平成10）年度からおおむね2007（平成19）年度を計画の期間とする。

【 第２章 北海道開発の現状と課題 】
- ○ 財政・金融両面での改革に伴う影響の表面化、人口の停滞、地域活力の低下
- ○ 公共事業への依存からの脱却の必要性、民間部門の自立的発展の基盤強化
- ○ 大都市圏からの遠隔性を克服する交通、情報通信ネットワークの整備
- ○ 防災対策の必要性、都市の整備と農山漁村の活性化、環境の保全
- ○ 北方領土を巡る日露関係の展開と北方領土隣接地域の振興
- ○ アイヌ文化の振興等の推進によるアイヌ民族としての誇りが尊重される社会の実現

【 第３章 北海道開発の基本理念と計画の目標 】

１．国の内外に開かれ自立する北海道の実現
- ・地球規模に視点をおいた食料基地の実現と成長期待産業等の育成　　・北の国際交流圏の形成

２．恵まれた環境や資源を誇りを持って次世代に引き継ぐ北海道の実現
- ・北海道の美しさ雄大さを引き継ぐ環境の保全

３．多様な生活や文化を享受できる安全でゆとりある北海道の実現
- ・観光・保養など国民の多様な自己実現や交流の場の形成　　・安全でゆとりある生活の場の実現

【 第４章 施策推進の基本方向 】
- ○ 施策推進の基本姿勢　開発主体の役割が、官から民へ、国から地方へと変化
  様々な主体の、主体的な選択と競争、積極的な交流と連携
- ○ 施策の重点的・効率的な推進
  - （1）投資の重点化
    施策実施に当たっての柔軟かつ機動的な対応．　事業の事前・事後評価等による投資の重点化．
  - （2）施策の連携・整合性の確保等による効率的な推進
    ソフト施策を含め、従来以上に幅広い連携を確保し、総合性を高める．公共事業のコスト縮減を推進
  - （3）施策の適切な推進
    社会資本整備における透明性の確保に向けた住民参加などの推進．環境影響評価の適切な実施
  - （4）広域的・複合的なプロジェクトの推進
    地域が連携して総合的に取組を進めるプロジェクトをより手厚く支援

【 第５章 計画の主要施策 】

1．地球規模に視点をおいた食料基地を実現し成長期待産業等を育成する施策
- ① 地球規模に視点を置いた食料基地の実現
  （国際化に対応した生産性の高い農業・漁業の育成と食品加工・流通の高度化）
- ② 新たな成長期待産業の育成
  （地域金融システムの安定．北海道産業クラスター創造プロジェクトの支援）
- ③ 森林を支える産業の育成
- ④ 産業の活力を向上させる発展基盤の整備（高度な物流ネットワークの整備など）

2．北の国際交流圏を形成する施策
- ① 北海道産業の国際化
  （サハリン･エネルギー開発プロジェクト等の支援基地機能の強化．国際観光の推進）
- ② 地域間の国際交流・国際貢献
- ③ 国際交流基盤の整備（国際航空路線の増設．国際貢献等に係るセンター機能の整備）

3．北海道の美しさ雄大さを引き継ぐ環境を保全する施策
- ① 恵まれた自然との共生（自然環境の保全．北海道らしい景観の継承など）
- ② 森林、農地、河川、湖沼、海域の有する環境保全機能の維持向上
- ③ 環境への負荷の少ない循環を基調とする地域社会の形成

4．観光・保養など国民の多様な自己実現や交流の場を形成する施策
- ① 国民の多様な自己実現に対応した余暇・生活空間の形成
  （観光や自然体験型活動の展開を支えるネットワークの強化）
- ② 個性的な農山漁村と都市との交流の促進
- ③ 多様性や個性を尊重する文化の展開
- ④ アイヌ文化の振興等と生活環境の向上

5．安全でゆとりある生活の場を実現する施策
- ① ゆとりある生活の場の形成
  （町村における生活排水の適正処理の推進．　中核都市･地方中心都市の中心市街地の総合的な整備．　都市の熱供給の効率化、安全で快適な冬期交通の確保等）
- ② 暮らしの多様な選択を実現するネットワークの形成
  （生活環境の向上に資する市町村連携施策を支援する交流基盤等の整備）
- ③ 安全な地域社会の実現（大規模な災害を踏まえた対策の推進）

【 第６章 地域の整備 】

1．地域整備の基本方針
- （1）我が国の北の拠点の活用
  - ・札幌圏の集積の活用
- （2）個性豊かで活力に満ちた地域の実現
  - ・中核都市の機能強化
  - ・ニューカントリーの推進　など
- （3）北海道と隣接する諸地域との連携
  - ・東北地方、ロシア連邦極東地域など

2．個性的な発展を目指す各地域
- ・道南地域
- ・道央地域
- ・道北地域
- ・オホーツク地域
- ・十勝地域
- ・釧路・根室地域

＜付記＞
計画の施策などの弾力的運用と
必要に応じた見直し等

② 地域プロジェクトおよび都市計画

十勝川流域に関連する主な地域プロジェクトとして、「十勝エコロジーパーク事業」「帯広の森造成計画」がある。

十勝川流域においては、帯広市、芽室町、幕別町において帯広圏都市計画区域が設定され、広域都市圏において市街化区域および市街化調整区域が指定されている。また、新得町、清水町、浦幌町、足寄町、本別町、浦幌町で都市計画区域が指定されている。

プロジェクト名	概　　要	事業主体
十勝エコロジーパーク事業	十勝のシンボルである十勝川を中心とし「帯広の森から十勝の森へ」等を主題として地域振興を図る	国、北海道、池田町、幕別町
帯広の森造成計画	十勝川及び札内川の河川緑地と連携して、市街地を緑で囲むとともに、多くの市民の参加により「ふるさとの森」づくりを目指す	帯広市

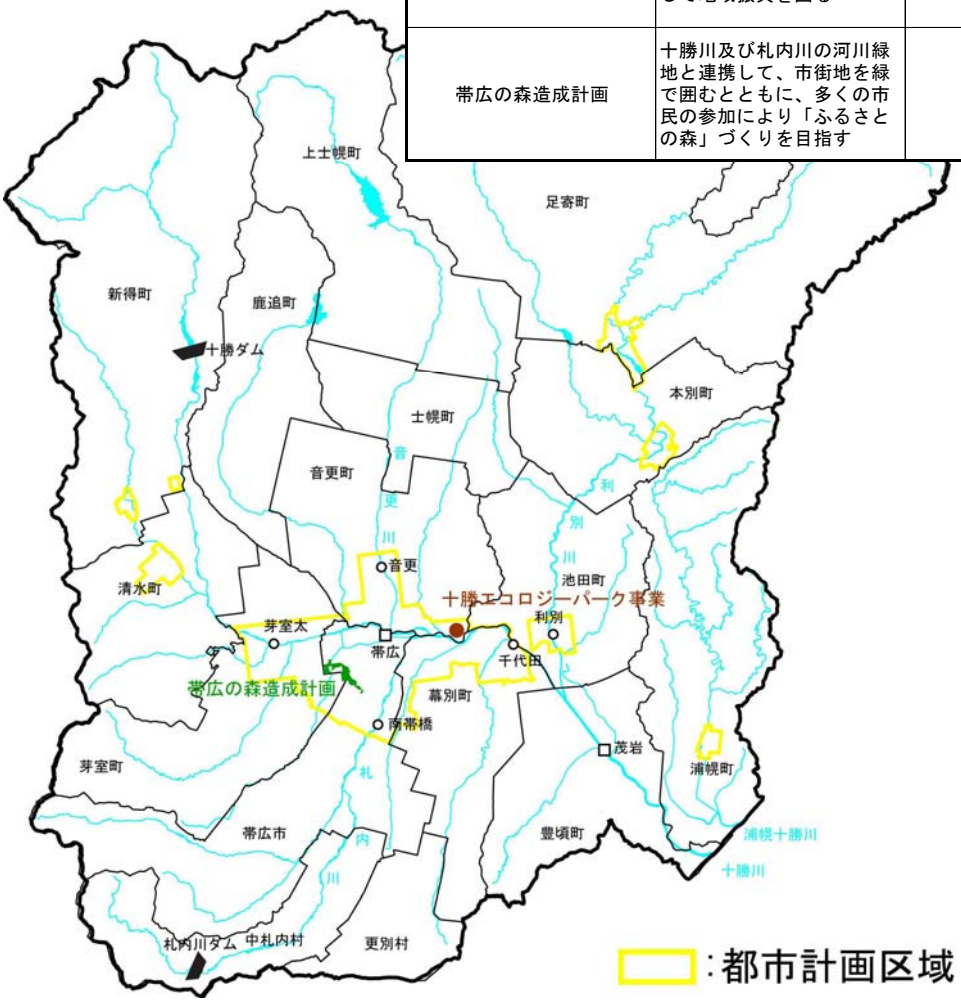


図３－７　十勝川流域の地域プロジェクトおよび都市計画区域

4. 水害と治水事業の沿革

4－1. 既往洪水の概要

十勝川流域では、過去に以下に示す洪水が発生している。

表４－１　十勝川水系における既往の主要な洪水の概要

年月日	原因	茂岩地点 流域平均 3日雨量 (mm)	茂岩地点 流量 (m^3/s)	被害家屋 (戸)	氾濫面積 (ha)
大正11年8月	台風	204.3	**9,390**	4,478	5,243
昭和37年8月	台風	135.0	**8,839**	3,793	40,768
昭和47年9月	台風	177.1	**7,787**	3,013	30,729
昭和50年5月	低気圧	106.1	**4,167**	186	2,698
昭和56年8月	低気圧	209.1	**7,671**	355	7,017
昭和63年11月	低気圧	132.1	**3,070**	384	366
平成10年9月	台風	112.0	**4,922**	286	1,907
平成13年9月	台風	163.5	**7,391**	11	298
平成15年8月	台風	177.8	**6,700**	51	367

4－2. 主な洪水の概要

① 大正 11 年 8 月 21 日～25 日

伊豆半島から北北東進し根室付近を通過した台風による豪雨により、降雨量は帯広で 213.7㎜を記録した。その結果、千代田下流～大津河口まで一面冠水、十勝支庁管内死者 9 名、家屋流失 240 戸、同浸水 4,238 戸、田畑流失 1,749ha、同浸水 3,494ha の被害を記録した。

② 昭和 37 年 8 月 2 日～4 日

4 日未明、渡島半島を通過東進した台風 9 号による大豪雨により、降雨量は帯広で 131.5㎜、新内 216.2㎜、上札内 189㎜ を記録した。その結果、十勝支庁管内全域死者 2 名、負傷者 2 名、行方不明 2 名、家屋全壊 10 戸、同半壊 40 戸、同流出 19 戸、床上浸水 1,435 戸、床下同 2,289 戸、非住家同 889 戸、田畑流失埋没 657ha、同冠水 40,111ha、農業施設 342 ヶ所、河川決壊 309 ヶ所、道路決壊 215 ヶ所、橋梁損壊 230 ヶ所、崖崩れ 10 ヶ所の被害を記録した。

写真　十勝川 茂岩橋

③ 昭和 47 年 9 月 15 日～19 日

秋雨前線が北上し台風 20 号が渡島半島付近まで北上し回転したため、糠平で 188㎜、帯広 197㎜、上札内 382㎜ の降雨量を記録した。その結果、十勝支庁管内全域死者 5 名、負傷者 4 名、家屋全壊 46 戸、同半壊 1,080 戸、同浸水 1,887 戸、河川決壊 442 ヶ所、道路損壊 572 ヶ所、橋梁同 110 ヶ所、崖崩れ 24 ヶ所、田畑流失埋没 187ha、同冠水浸水 30,542ha の被害を記録した。芽室川で氾濫があったため、芽室町の被害が特に大きかった。

④ 昭和 50 年 5 月 17 日～18 日

本州東岸沿いに北上し釧路沖から東南東進した低気圧による大雨により、帯広で 73㎜、上札内 142㎜ の降雨量を記録した。その結果、十勝支庁管内全域家屋床上浸水 20 戸、床下同 166 戸、非住家半壊 4 戸、道路損壊 497 ヶ所、橋梁同 77 ヶ所、堤防同 428 ヶ所、田畑流失浸水 2,698ha の被害を記録した。

写真　十勝川右岸　大津築堤の内水氾濫（豊頃町）

写真　帯広川の溢水氾濫状況（帯広市西 4 条南 2 丁目）

⑤ 昭和 56 年 8 月 3 日～6 日

低気圧からのびる停滞前線のため、ニペソツで 354mm、上美生 305mm、上札内 337mm の降雨量を記録した。その結果、床上床下浸水 355 戸、農地流失 99ha、農作物被害 49,406ha、河川決壊 407 ヶ所、道路損壊 519 ヶ所、橋梁破損 61 ヶ所、総被害額 548 億円の被害を記録した。

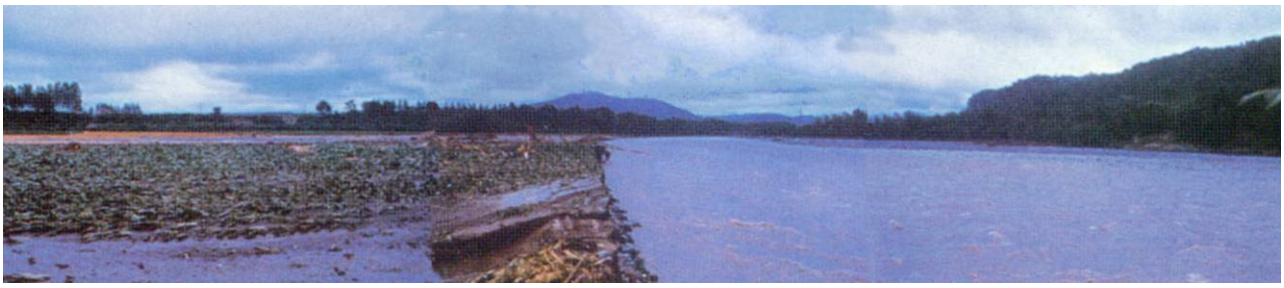


写真　十勝川の溢水氾濫による農地の被害状況（新得町屈足地区）

写真　然別川　西瓜幕橋付近の被災状況（鹿追町）

⑥ 平成 13 年 9 月 9 日～12 日

秋雨前線および台風 15 号の接近のため、上札内 235mm、更別 223mm の降雨量を記録した。その結果、床上床下浸水 11 戸、農業被害 1,616ha、土木被害は河川 22 ヶ所、道路 2 ヶ所、橋梁 1 ヶ所等であった。

4－3. 治水事業の沿革

① 改修事業の沿革

十勝川水系の治水事業は、十勝平野への開拓を定着させるため、頻発する洪水の防御、下流部湿地帯の解消により、農地や可住地の創出を図ることを目的として進められた。

十勝川の治水は、明治 31 年の大洪水を契機として、大正 7 年に十勝川治水計画の大綱がたてられた。また、大正 11 年 8 月に未曾有の大洪水に遭遇したことから、同 12 年に悲願の改修工事がスタートした。

この年十勝川治水事務所が創設され、測量調査、用地処理、家屋移転等を行い、大正 15 年池田市街裏左岸新水路掘削及び築堤並びに鉄道橋上流の築堤工事をはじめ、昭和 6 年には統内新水路掘削に着手、昭和 12 年に至って暫定通水を見た。

そのほか売買川、途別川、帯広川、牛首別川等支川の切り替えが昭和 25 年までに完成している。

また、この時期の主な工作物として、千代田堰堤が昭和 10 年に完成したのをはじめ、同 16 年には十勝大橋が流水の阻害となっていた木橋から、永久橋に架換えられた。

戦中・戦後にかけて物資不足が甚だしく、また、戦費の調達により工事の中止や縮小を余儀なくされ、治水事業は応急措置程度であったが、昭和 26 年北海道開発局の発足で一段と公共事業に力を入れることになり、築堤工事、浚渫工事が進められ、治水事業は一層の発展をみた。

戦後の治水事業は、下流部の掘削及び浚渫と愛牛地点での締切、無堤地区の解消に重点がおかれ、流下能力増進のための浚渫、工作物強化のための護岸等を実施してきている。

その後の事業としては、昭和 34 年通水の利別川新水路、同 47 年帯広排水機場完成、同 57 年浦幌十勝導水路完成、平成 10 年には音更地区の木野引堤が完成した。

また、洪水調節などを行う多目的ダムとしては、昭和 59 年に十勝ダムが、平成 11 年に札内川ダムがそれぞれ完成している。

十勝ダム

札内川ダム

② 砂防事業の沿革

十勝川直轄砂防事業は昭和 27 年の十勝沖地震、昭和 29 年の洞爺丸台風による倒木、昭和 30 年の豪雨により土砂災害が相次いで発生したことを契機に昭和 47 年の札内川第 1 号砂防えん堤の建設より事業に着手し、現在では 12 基の砂防えん堤が完成している。

写真　砂防ダム（戸蔦別川）

表４－２　十勝川水系治水事業年表（1/2）

年 月 日	記　　事
明治 16 年	依田 勉三 十勝に入植
明治 30 年	十勝川流木等浚渫
明治 34 年	河西土木派出所創設
明治 36 年	十勝川平面測量着手、水文観測所設置、観測開始
明治 39 年	水準測量開始
明治 43 年	第 1 期拓殖計画樹立
大正 3 年	本別市街、利別市街、大津市街附近に治水堤防費による護岸施工
大正 7 年	十勝川治水計画大綱確立
大正 8 年	拓殖計画改訂、9 ヵ年計画樹立
大正 11 年	未曾有の大洪水遭遇、計画改訂
大正 12 年	十勝川治水事務所創設、西帯広～茂岩間改修工事着手
大正 15 年	本工事着手、千代田橋上流左岸池田市街裏左岸新水路掘削および築堤
昭和 2 年	第 2 期拓殖計画樹立、池田治水工場設置、千代田治水工場を幕別に移転
昭和 3 年	帯広治水事務所創設（十勝川、常呂川、釧路川事務所統合） 帯広川切替完了
昭和 4 年	利別鉄橋～池田市街裏切替完了、途別川切替着手
昭和 5 年	千代田附近切替（798m）完了、売買川切替着手
昭和 6 年	統内原野キモント沼頭迄掘削(統内新水路)計画決定（11 月）、売買川切替完了
昭和 7 年	千代田堰堤着手
昭和 8 年	途別川切替完了
昭和 9 年	キモント沼頭迄通水、茂岩事業所設置
昭和 10 年	千代田堰堤完了（床固工）、茂岩橋、十勝大橋着工
昭和 11 年	帯広川切替完了
昭和 12 年	キモント沼尻より茂岩間暫定通水(統内新水路)
昭和 14 年	帯広土木現業所創設（治水事務所廃止）
昭和 16 年	十勝大橋完了、猿別川改修工事着手
昭和 18 年	建設機械等軍事施設に徴用される
昭和 21 年	第 2 期拓殖計画最終年度（計画の約 55%施工）
昭和 22 年	札内川調査着手（11 月）、牛首別川工事着手
昭和 23 年	売買川合流点附近工事着手
昭和 24 年	川西事業所設置、茂岩橋下流新水路掘削着手
昭和 25 年	帯広土木現業所治水課設置
昭和 26 年	北海道開発局創設、茂岩橋架設第 1 期工事着手
昭和 27 年	十勝沖地震津波
昭和 28 年	ポンプ浚渫船茂岩橋下流浚渫、茂岩橋第 1 期工事完了
昭和 30 年	芽室事業所設置
昭和 31 年	川西事業所移転大正事業所となる、利別川河合新水路通水
昭和 32 年	エキスカ機関車組合せ施工廃止、トラック運搬切替、芽室事業所設置、台風 22 号来襲
昭和 33 年	パンケチン川改修工事着手

表４－２　十勝川水系治水事業年表（2/2）

年 月 日	記　　事
昭和 34 年	大津分室設置
昭和 36 年	茂岩橋完成、静内川改修着手、直轄砂防調査開始
昭和 38 年	十勝川愛牛地区締切
昭和 39 年	台風 14 号来襲
昭和 40 年	トイトッキ浚渫着手
昭和 43 年	茂岩浚渫着手
昭和 44 年	北帯広掘削完了
昭和 45 年	静内川改修完了、旧帯広川内水排除に着手
昭和 46 年	千代田掘削着手、パンケチン川改修完了
昭和 47 年	都市環境整備事業札内地区着手、十勝太特殊堤着手、直轄砂防事業着手、台風 20 号来襲
昭和 48 年	帯広河川事務所発足、十勝ダム建設着手
昭和 49 年	トイトッキ浚渫暫定完了
昭和 50 年	下牛首別排水機場、浦幌十勝導水路着手
昭和 51 年	全道的に降雨量少なく十勝地方も異常渇水が発生
昭和 52 年	愛牛導水門着手(S56 完了)
昭和 53 年	下牛首別排水機場暫定完了
昭和 55 年	十勝川河口処理千代田築堤の背割堤着手
昭和 56 年	前線および台風 12 号の影響により各所で被害発生（8 月）、池田排水機場着手、帯広川低水護岸に着手
昭和 57 年	トイトッキ築堤高水敷掘削着手、浦幌十勝導水路竣工
昭和 58 年	池田排水機場竣工、新川水門着手
昭和 59 年	新川水門竣工、猿別水門着手、十勝ダム完成、
昭和 60 年	木野引堤（用地処理）着手、札内川ダム建設着手
昭和 61 年	育素多排水機場着手
昭和 62 年	猿別水門竣工
	十勝川下流の丘陵堤に着手
平成元年	救急内水対策事業(大津地区)着手、育素多排水機場竣工
平成 2 年	信取築堤着手
平成 3 年	木野引堤事業 十勝大橋架け換えに着手
平成 4 年	救急内水対策事業大津地区完了、桜づつみ(池田町)、緑の回廊(帯広市)着手
平成 5 年	釧路沖地震により統内築堤をはじめ、大きな被害が発生、大規模な復旧工事を行う
	救急内水対策事業(茂岩地区)に着手、桜づつみ(幕別町)に着手
平成 6 年	桜づつみ(本別町)に着手、釧路沖地震復旧工事完了
平成 7 年	千代田新水路事業、高島頭首工改築に着手
平成 8 年	救急内水対策事業(茂岩地区)完了
平成 9 年	木野引堤事業完了
平成 10 年	札内川ダム完成
平成 11 年	治水の杜事業着手(幕別町)
平成 12 年	光ファイバによる遠隔操作（下牛首別排水機場）
平成 13 年	高島頭首工本体完了

5. 水利用の現状

5－1. 水利用の現況

十勝川水系における利水の現況は、表 5-1 に示すとおりであり、河川水の利用は、農業用水、水道用水、発電用水、工業用水、その他雑用水など多岐にわたっている。

農業用水は、開拓農民による農業用水の利用に始まり、現在は､約 43,980ha に及ぶ農地のかんがいに利用されている。水道用水は、水系内の 1 市 14 町 2 村に供給されている。また、発電用水として十勝発電所をはじめ、現在 16 箇所の発電所により総最大出力約 34 万 kw の電力供給が行われている。製糖工場等の工業用水やサケ、マス等のふ化養魚用水にも利用されている。

表５－１　十勝川水系水利用現況

種別	件数	取水量(m³/s)
農業用水	72	36.97
水道用水	15	1.61
発電用水	16	547.50
工業用水	11	2.18
その他雑用水	21	0.47
合計	135	588.72

（参考文献:一級水系水利権調書(北海道開発局) 平成 18 年 6 月現在）

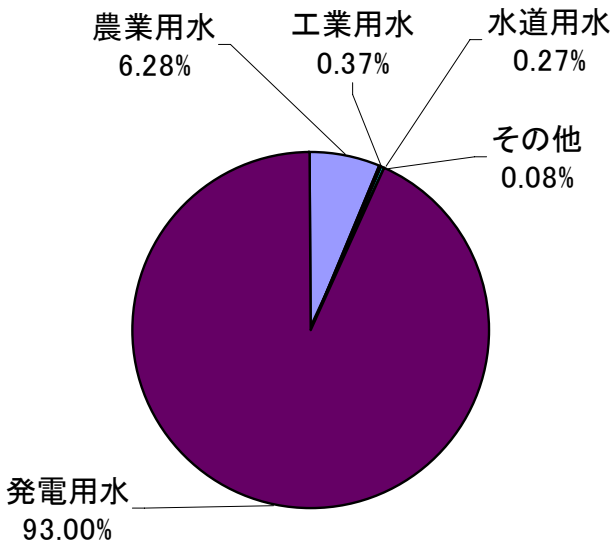


図５－１　水利用割合図

（参考文献:一級水系水利権調書(北海道開発局) 平成 18 年 6 月現在）

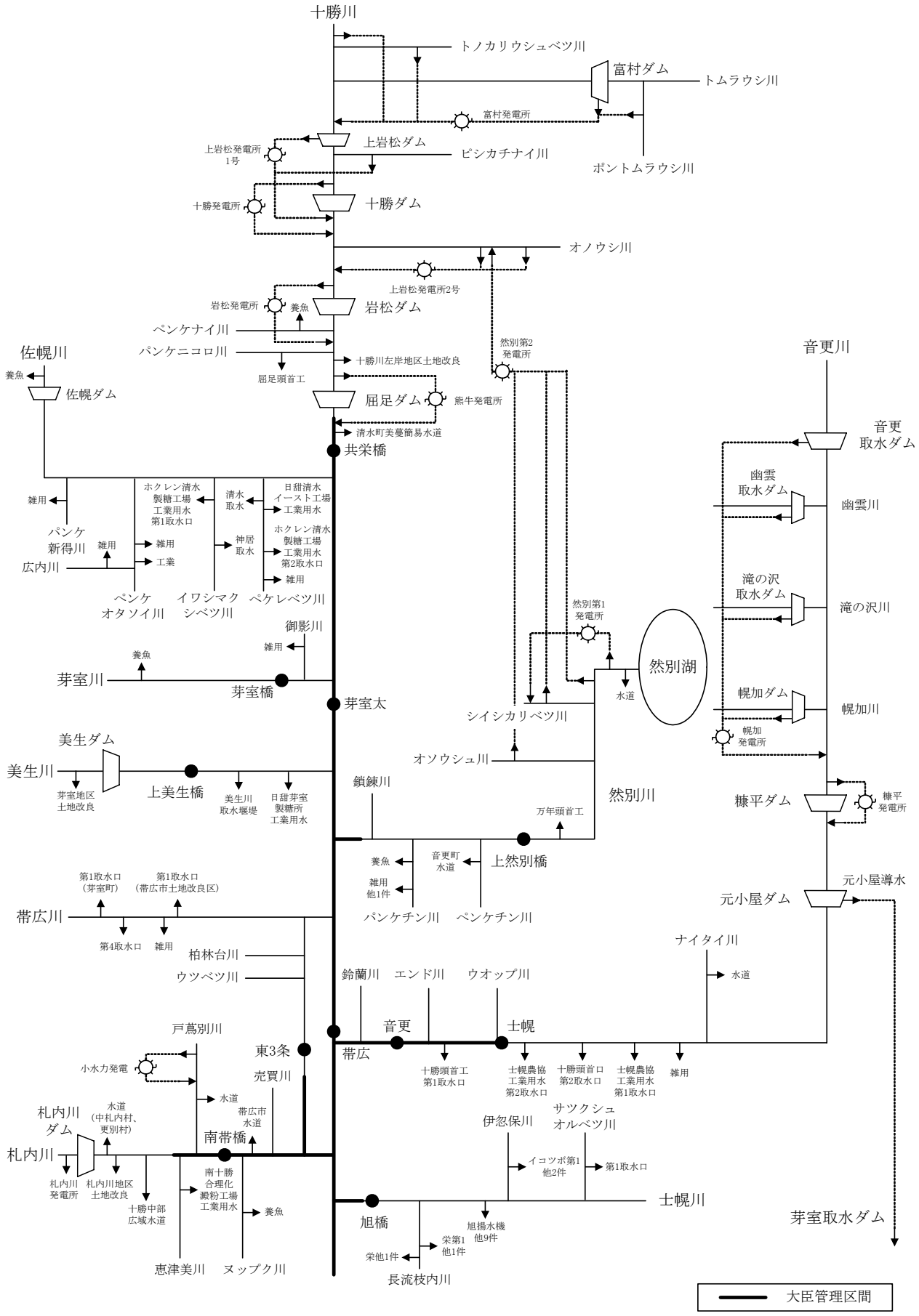


図　５－２　十勝川水系水利権模式図（十勝川上流）

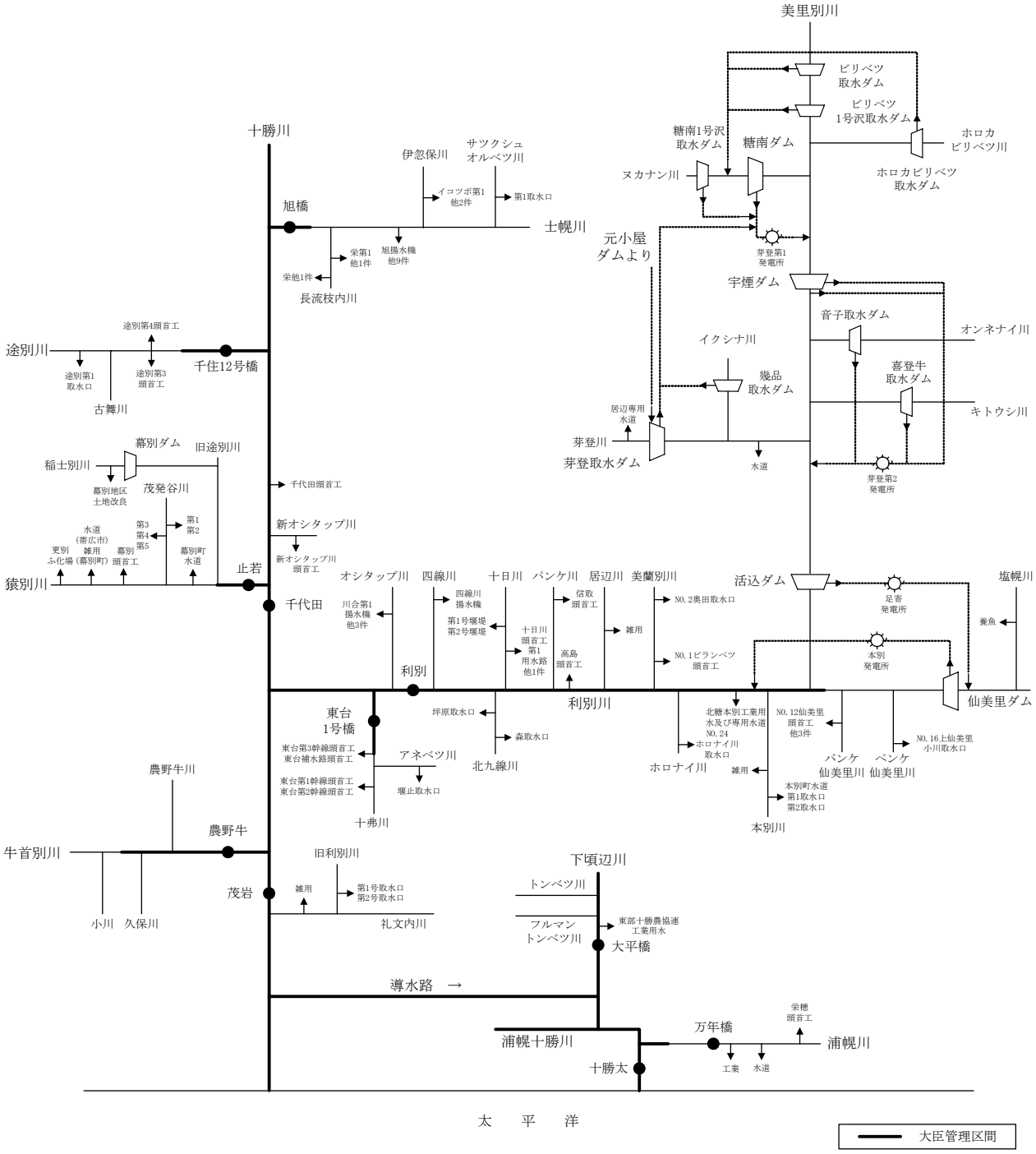


図　５－３　十勝川水系水利権模式図（十勝川下流）

5－2. 渇水被害及び渇水調整

十勝川流域では、昭和 54 年、昭和 55 年、昭和 59 年、昭和 60 年、平成 6 年に渇水による給水制限などの被害が生じているが、近年渇水被害は生じていない。また、渇水調整協議会による渇水調整は行われていない。

表５－２　　十勝川流域における渇水被害の状況

渇水年	降雨の状況	被　害　実　態
S54	3 月までの降雪量がかなり少ない	・帯広市、音更町で 4 月給水車出動 7000 戸に影響
S55	7 月の年平均比降水量が 50% 以下、特に下旬が 10%以下	・帯広市、音更町で 3/8 から 10 時間夜間の ポンプ圧送停止（25 日間）
S59	12 月の年平均比降水量が 25%程度 （明治 27 年以来の最小値）	・芽室町で 12 月に給水車出動 230 戸に影響（20 日間）
S60	1 月の年平均比降水量が 50%程度	・幕別町で 1/17 から給水車出動 19 戸に影響（15 日間） ・本別町で給水制限 1/1～1/3、1/8～1/12 2866 戸に影響（8 日間）
H6	7 月の年平均比降水量が 50%程度で、 8 月上旬が 0%	1. 給水状況 ・幕別町で 7/22～8/11（22 日間） 6 時間夜間断水。原因は水源としている地下水の低下 ・芽室町で 8/1～8/22（22 日間） 減圧給水 ・その他 4 市町村で水道水の節水の協力呼び掛け ・28 千人に影響 2. 住民生活への被害及び影響 ①水の出の悪化及び水圧低下 芽室町 ②水の濁りが発生 幕別町、芽室町 ③入浴に支障 幕別町

（参考文献：第 1 回十勝川流域懇談会資料※流域関係市町村への聞き取り調査による）

6. 河川流況及び水質

6－1. 河川流況

十勝川の茂岩地点における過去 37 年間(昭和 43 年～平成 16 年)の流況は表 6-1 のとおりで、低水流量約 120.9m³/s、渇水流量約 90.9m³/s である。

表 ６－１　茂岩地点における流況表

年	データ数	欠測数	流量 (m³/s)						
			最大	豊水	平水	低水	渇水	最小	年平均
S43	366	－	986.15	203.73	147.38	116.87	81.10	78.13	179.12
S44	365	－	723.62	239.81	152.62	120.45	107.50	99.27	196.13
S45	365	－	1408.02	224.02	157.26	111.64	99.46	97.32	248.54
S46	365	－	1089.15	319.44	257.19	205.18	131.09	102.30	283.13
S47	366	－	3365.94	331.63	210.34	112.66	63.95	59.38	274.43
S48	365	－	2028.42	363.64	226.11	145.50	96.16	83.24	295.89
S49	365	－	1196.33	294.06	192.91	116.22	82.79	65.78	245.35
S50	365	－	3073.84	412.49	258.14	162.59	82.32	75.54	330.03
S51	366	－	900.35	197.75	140.94	103.28	81.67	66.30	164.07
S52	365	－	988.31	253.72	155.46	113.53	72.66	71.21	208.39
S53	365	－	845.90	210.84	135.86	107.34	81.48	78.52	183.26
S54	365	－	1910.37	258.44	155.70	99.49	76.65	70.98	207.02
S55	366	－	1040.47	225.72	146.86	108.72	88.89	75.99	186.18
S56	364	1	5123.19	309.09	203.99	108.96	91.25	77.37	272.27
S57	365	－	1506.80	235.42	146.16	115.55	94.95	81.79	194.87
S58	365	－	1172.10	241.38	161.83	113.37	94.14	86.97	196.11
S59	366	－	933.17	140.71	95.08	84.35	73.64	64.84	129.68
S60	365	－	691.66	158.44	113.58	89.57	70.75	60.57	141.48
S61	365	－	1172.19	226.83	128.15	95.36	68.57	61.03	175.98
S62	365	－	801.87	210.04	145.19	103.86	75.31	67.25	170.11
S63	366	－	2509.39	224.87	138.72	94.07	77.48	69.40	199.32
H1	365	－	2556.59	256.02	182.08	123.55	87.25	81.25	225.94
H2	365	－	1724.42	299.65	185.99	127.71	100.91	94.70	256.91
H3	365	－	1321.43	210.31	152.14	119.50	96.64	92.06	189.05
H4	366	－	2743.84	204.23	148.80	108.41	81.68	66.60	205.63
H5	365	－	1475.04	264.41	190.66	143.09	98.20	90.54	233.31
H6	365	－	1884.73	272.16	153.24	129.97	98.54	87.98	243.12
H7	365	－	1037.88	306.23	187.73	131.92	101.11	86.35	246.89
H8	366	－	1125.50	261.42	161.98	121.02	92.48	77.14	203.12
H9	365	－	1490.46	266.72	184.63	129.64	97.95	84.08	223.47
H10	365	－	3272.68	269.72	189.88	149.45	114.30	103.78	280.76
H11	365	－	1302.02	250.06	163.33	135.14	113.33	96.75	213.63
H12	366	－	2629.01	286.04	174.69	125.49	107.29	79.86	277.03
H13	365	－	6002.08	271.56	179.04	128.02	96.67	87.68	255.59
H14	365	－	2826.96	231.29	152.81	122.78	93.04	78.75	203.14
H15	365	－	4634.30	247.06	171.06	125.35	94.36	82.00	222.79
H16	366	－	632.60	234.14	139.52	122.84	99.20	93.32	203.07
最 大 値			6002.08	412.49	258.14	205.18	131.09	103.78	330.03
平 均 値			1895.32	254.41	167.22	120.88	90.94	80.43	220.67
最 小 値			632.60	140.71	95.08	84.35	63.95	59.38	129.68
近年37年間 (S43～H16) 第4位			801.87	203.73	135.86	95.36	72.66	64.84	170.11
近年30年間 (S50～H16) 第3位			801.87	197.75	128.15	94.07	72.66	64.84	164.07
近年20年間 (S60～H16) 第2位			691.66	204.23	128.15	94.07	70.75	61.03	170.11
近年10年間 (H 7～H16) 第1位			632.60	231.29	139.52	121.02	92.48	77.14	203.07

注) 流域面積：8,276.9km²

6－2. 河川水質

十勝川流域では、表 6-2、表 6-3 及び図 6-1 に示すように水質環境基準が指定されている。基準地点は、十勝川では共栄橋、清水大橋(佐幌川合流前)、十勝大橋(帯広)、千代田えん堤、茂岩橋、札内川では南帯橋、札内橋、音更川では丸山橋、牧水橋、十勝新橋、利別川では川合橋、然別湖では弁天島神社 180°　1,000m(ST-1)、弁天島神社 0°　1,000m (ST-2)、然別温泉沖 100m(ST-3)、然別温泉沖 400m(ST-4)、天望山山頂 0°　1,000m(ST-5)の 5 地点、糠平ダム湖では不二川河口 45°　750m(ST-1)、糠平ダムサイト 325°　3,000m(ST-2)、糠平川河口沖 500m(ST-3)、糠平ダムサイト沖 325°　100m(ST-4)、タウシュベツ川河口沖 750m(ST-5)の 5 地点、佐幌ダム貯水池(サホロ湖)ではST-1～ST-4 の 4 地点であり、それぞれ公共用水域の水質測定計画に基づき、水質測定が行われている。

現況水質のうち、BOD75%値は基準地点において、指定されている環境基準値を概ね満足している。COD75%値は、然別湖の調査地点において、湖沼 A 類型環境基準値(3.0mg/l)を満足している状況にあるが、糠平ダム湖、佐幌ダム貯水池の調査地点においては、環境基準値を超過している年が見受けられる。

表６－２　環境基準類型指定状況

河川名	水域名	該当類型	達成期間	基準地点名	備考
十勝川	十勝川上流(上川橋より上流)	AA	イ	共栄橋	H12.3.31 指定 (道告示第 531 号)
	十勝川中流(上川橋から佐幌川合流点まで)	A	ロ	清水大橋 (佐幌川合流前)	
	十勝川下流(佐幌川合流点より下流)	B	ロ	十勝大橋 (帯広)	
	十勝川下流(佐幌川合流点より下流)	B	ロ	千代田えん堤	
	十勝川下流(佐幌川合流点より下流)	B	ロ	茂岩橋	
札内川	札内川上流(帯広市上水取水口から上流)	AA	イ	南帯橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
	札内川下流(帯広市上水取水口から下流)	A	イ	札内橋	
音更川	音更川上流(糠平ダム湖から上流)	AA	イ	丸山橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
	音更川中流(糠平ダム湖からセタ川合流点まで(セタ川を含む))	AA	イ	牧水橋	
	音更川下流(セタ川合流点から下流)	A	ロ	十勝新橋	
利別川	利別川(全域)	A	イ	川合橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
トムラウシ川	トムラウシ川(全域)	AA	イ	あけぼの橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
美生川	美生川(全域)	AA	イ	新生橋	
然別川	然別川上流(然別湖から上流)	AA	イ	オショロコマ 特別採捕場	
	然別川中流(然別湖から西上幌内川合流点まで(西上幌内川を含む))	AA	イ	瓜幕橋	
	然別川下流(西上幌内川合流点から下流)	A	イ	国見橋	
芽室川	芽室川(全域)	A	イ	毛根中島橋	
佐幌川	佐幌川上流(佐幌ダム貯水池(サホロ湖)より上流)	A	イ	人道橋	
	佐幌川中流(佐幌ダム貯水池(サホロ湖)から金平川合流点まで)	A	イ	清水橋	
	小林川(全域)	A	イ	讃岐橋	
	佐幌川下流(金平川合流点から下流(金平川を含む))	B	イ	佐幌橋	
帯広川	帯広川上流(ウツベツ川合流点から上流)	A	イ	西 8 条橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
	帯広川下流(ウツベツ川合流点から下流(ウツベツ川を含む))	B	ロ	札内川合流前	
士幌川	士幌川(全域)	A	イ	旭橋	S50.4.1 指定 (道告示第 988 号)
途別川	途別川(全域)	A	イ	千住橋	
猿別川	猿別川(全域)	A	イ	止若橋	
牛首別川	牛首別川(全域)	A	イ	農野牛橋	

注）達成期間の「イ」は直ちに達成、「ロ」は 5 年以内で可及的速やかに達成を意味する。

表６－３　水質環境基準の類型指定状況(然別湖、糠平ダム湖、佐幌ダム貯水池)

水域名	該当類型	達成期間	備　考	指定年月日
然別湖 (全域) 糠平ダム湖 (全域)	湖沼 ア　A	イ		昭和 59 年 11 月 29 日 道告示第 2062 号
	イ　Ⅱ	イ		昭和 59 年 11 月 29 日 道告示第 2062 号
佐幌ダム 貯水池 (全域)	湖沼 ア　A	イ		平成 11 年 2 月 19 日 道告示第 262 号
	イ　Ⅲ	イ		平成 11 年 2 月 19 日 道告示第 262 号

注）1.『該当類型』の湖沼、ア、イ

ア: pH、COD、SS、DO、大腸菌群の環境基準

イ: 全りんの環境基準(全窒素は当分の間適用しない)

2. 達成期間の「イ」は直ちに達成、「ロ」は 5 年以内で可及的速やかに達成を意味する。

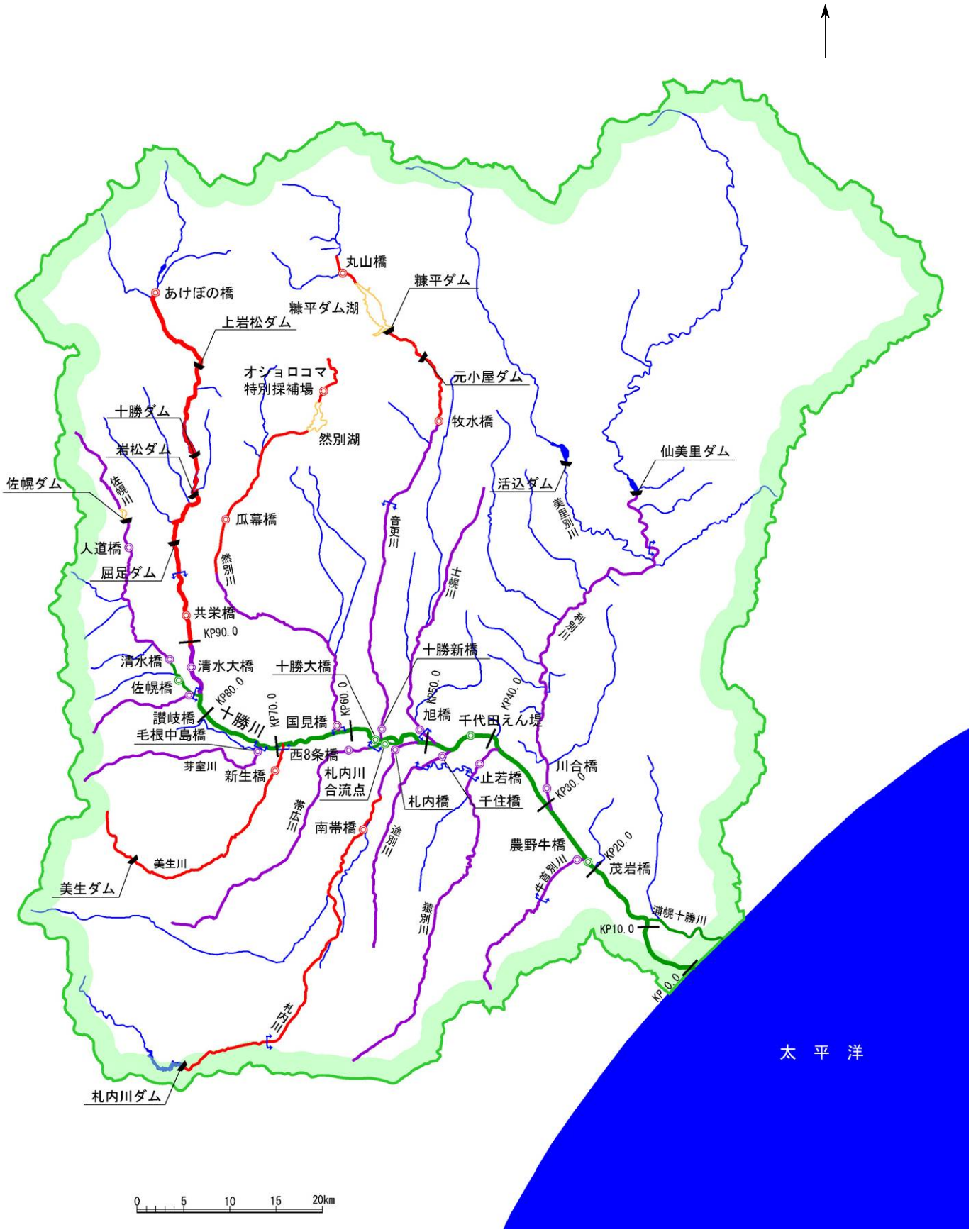


図６－１　十勝川水系水質環境基準地点及び類型指定区間

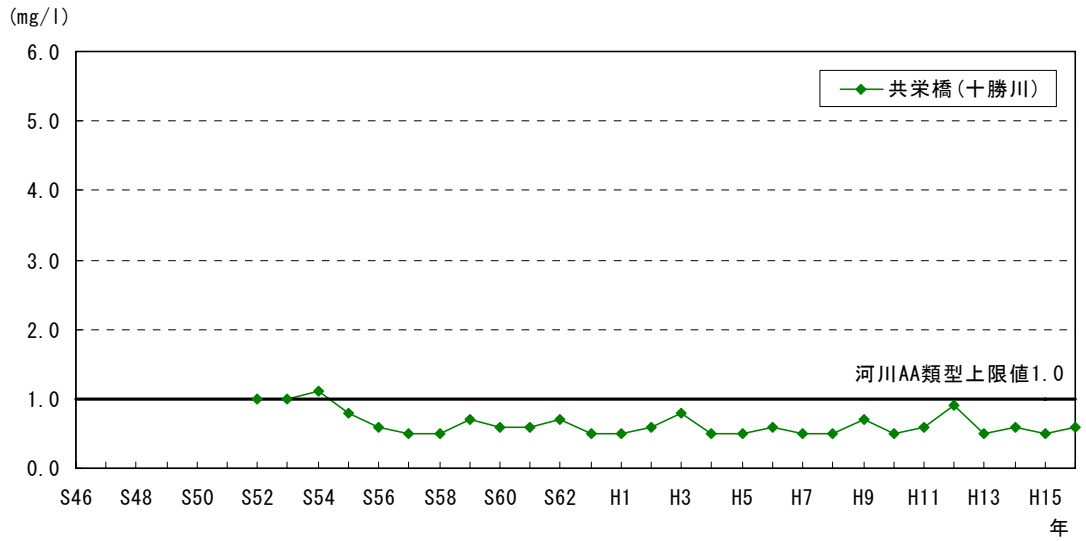


図６－２　十勝川本川における水質（BOD75%値）の経年変化（AA 類型）

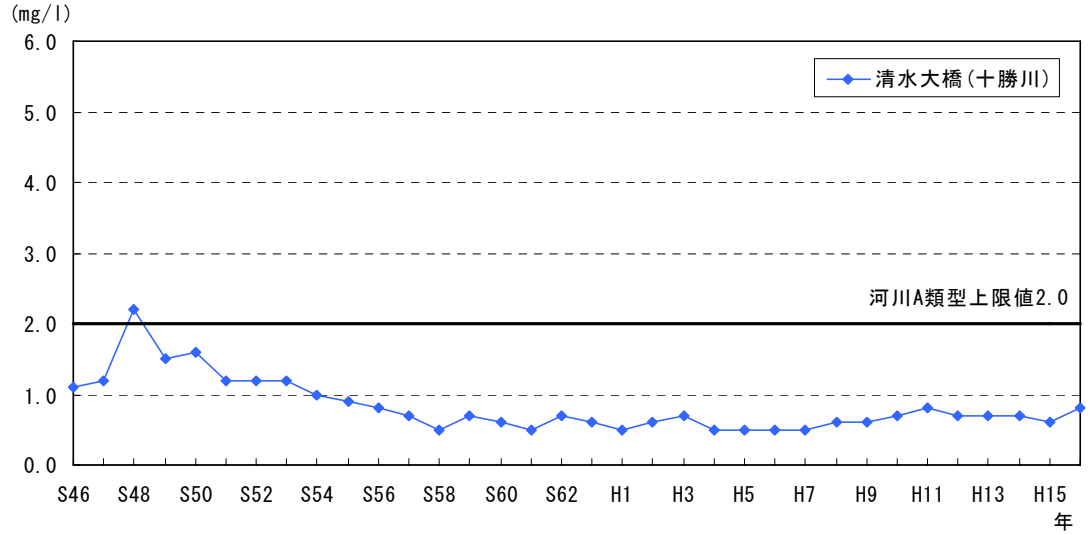


図６－３　十勝川本川における水質（BOD75%値）の経年変化（A 類型）

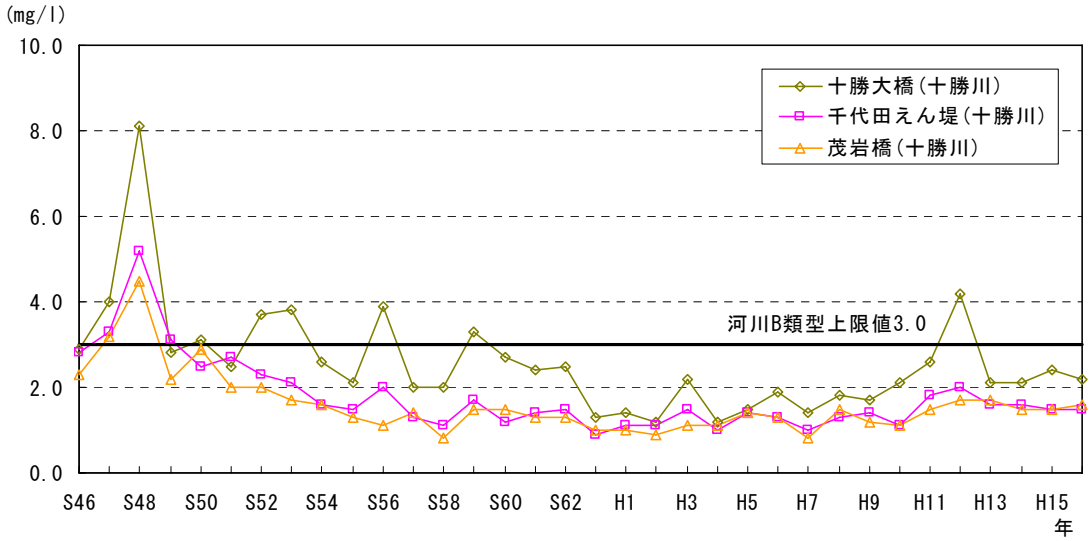


図６－４　十勝川本川における水質（BOD75%値）の経年変化（B 類型）

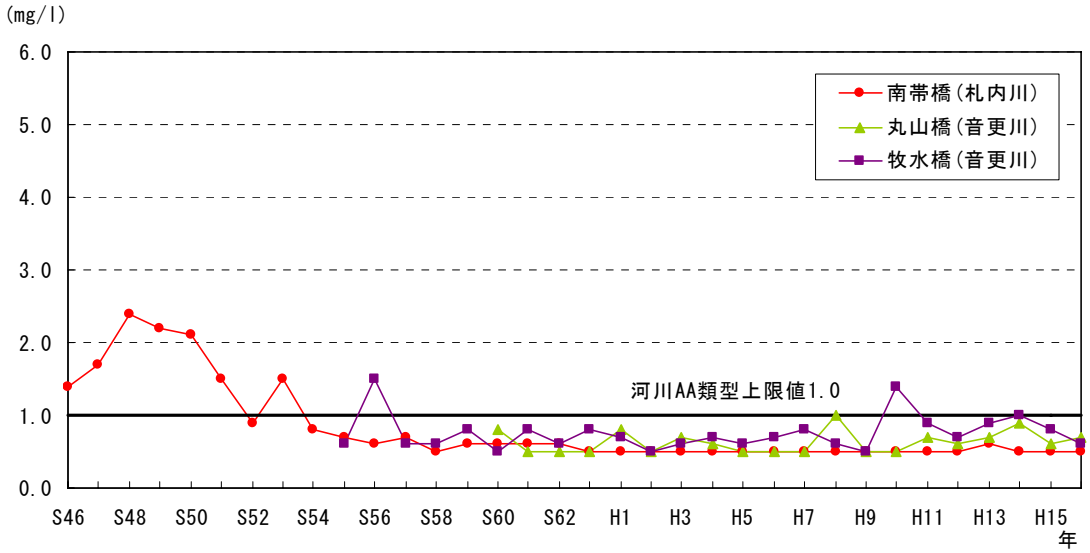


図６－５　十勝川支川における水質（BOD75%値）の経年変化（AA 類型）

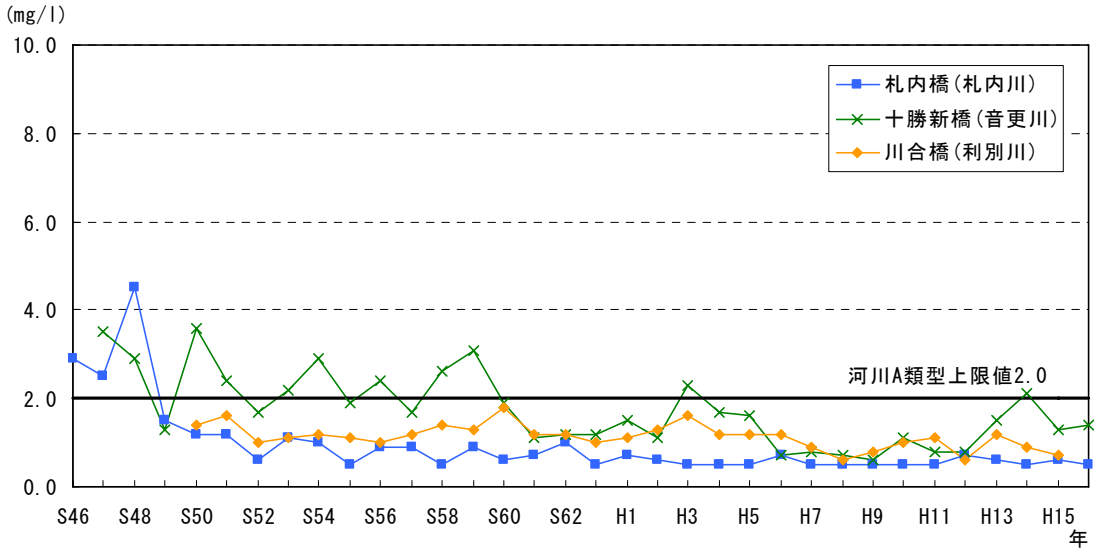


図６－６　十勝川支川における水質（BOD75%値）の経年変化（A 類型）

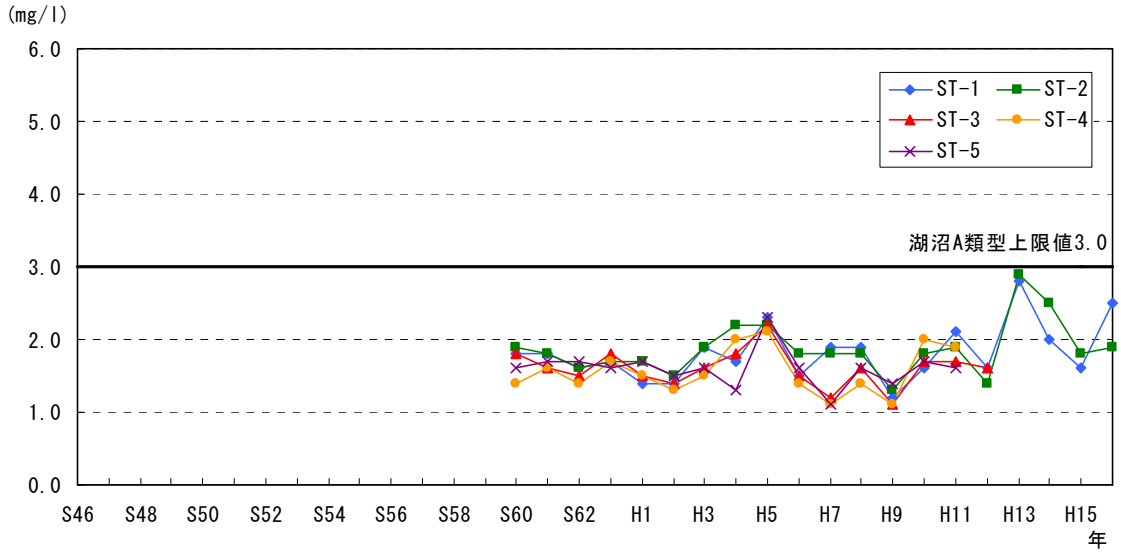


図６－７　然別湖における水質（COD75%値）の経年変化（A 類型）

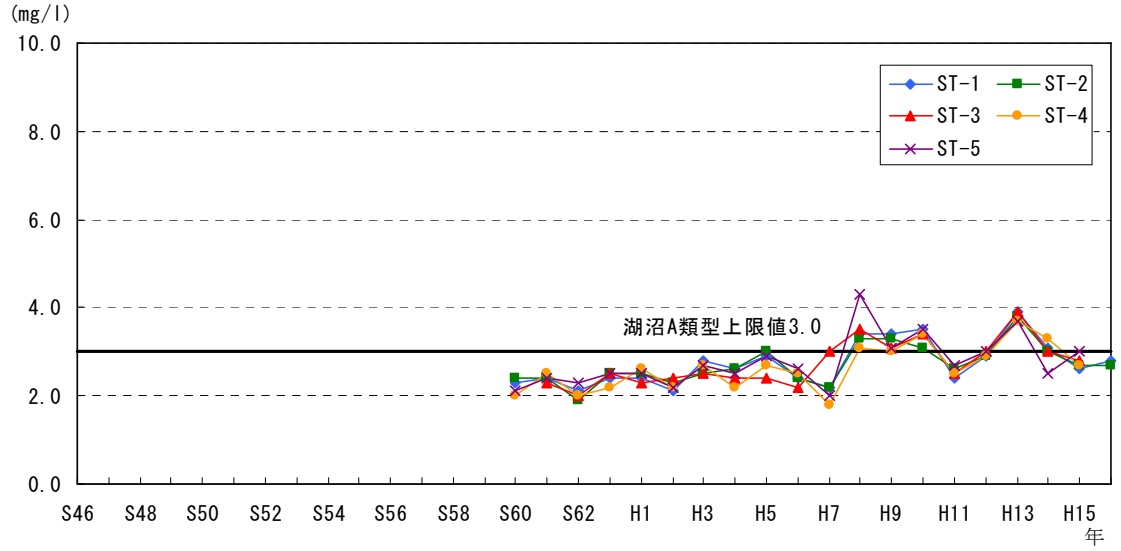


図６－８　糠平ダム湖における水質（COD75%値）の経年変化（A 類型）

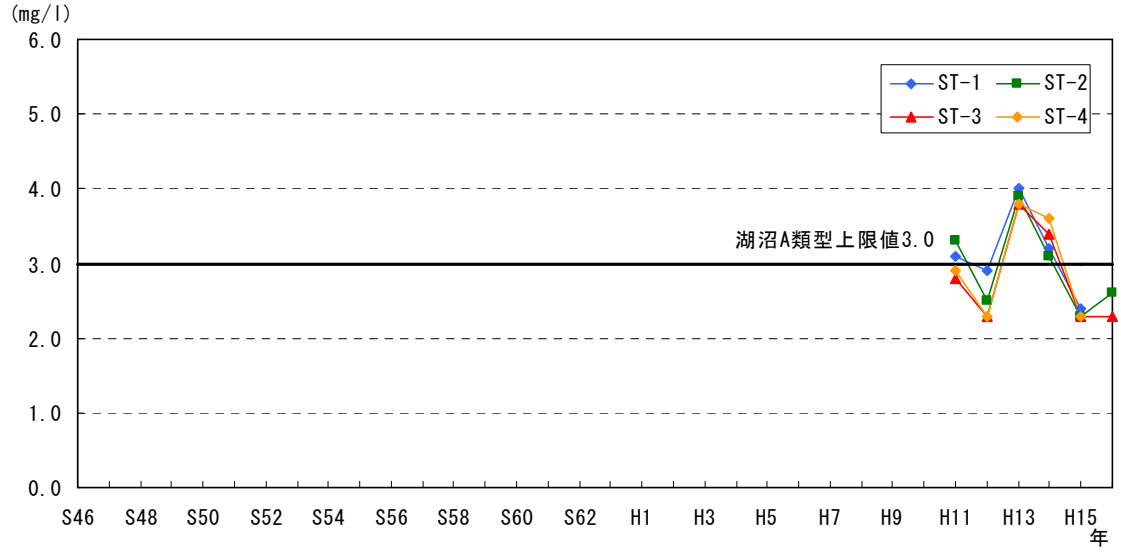


図６－９　佐幌ダム貯水池における水質（COD75%値）の経年変化（A 類型）

7. 河川空間の現状

7－1. 河川敷等の利用の現状

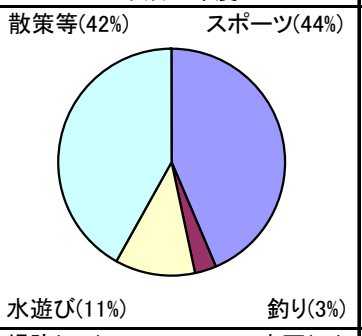
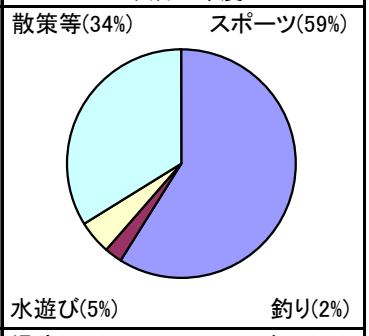
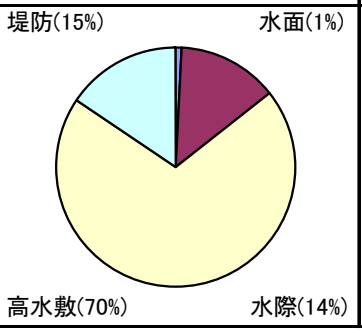
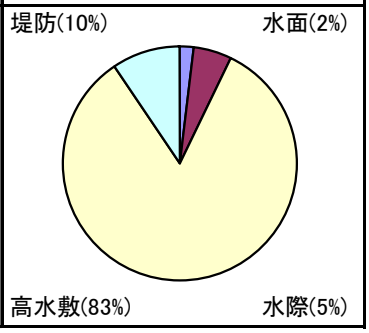
① 河川敷地の利用状況

近年、生活の質向上の追求に伴い、河川は、都市域において自然と触れ合うことのできる重要な空間、憩いの場であるという考えが広く普及してきている。また、河川空間の持つ豊かな自然を保全し、自然と人が共生することによって真に豊かな生活や人間性を形成できるとして、水辺に親しめる空間が人々に求められている。

帯広市付近における環境整備事業は、札内川では昭和 53 年より始まり、親水・運動施設の要望の多かった札内川・売買川合流点の親水公園は平成３年度に完成し、平成６年には札内川・帯広川の合流点でカヌー発着場などを伴う親水広場が完成して住民の憩いの場となった。また、木野引堤事業に伴い、十勝大橋付近では高水敷の整正が行われ、パークゴルフ場、イベント広場、散策路などが整備されている。

十勝川本川では、十勝川温泉地先での低水護岸工事の際に、親水性に配慮した護岸（通称：白鳥護岸）を整備した。また、豊頃町付近では河川環境管理基本計画のゾーニングに沿って、高水敷を利用したイベント広場、船着き場などを併せ持った河川公園がつくられた。

最近では、自治体と連携して水辺の学校プロジェクトなどを行い、自然学習の場としての施設整備を進めている。他には、平成４年から始まった桜づつみモデル事業、緑の回廊事業など人々が潤いを感じられるような河川空間の創造を進めている。

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成12年度	平成15年度	平成12年度	平成15年度
利用形態別	スポーツ	629	649		
	釣り	44	27		
	水遊び	163	53		
	散策等	606	372		
	合計	1442	1101		
利用場所別	水面	12	21		
	水際	195	59		
	高水敷	1012	916		
	堤防	223	105		
	合計	1442	1101		

出典：国土交通省　河川環境データベース

② 高水敷の利用状況

十勝川水系における河川敷地の使用状況をみると、平成 18 年 4 月 1 日現在で 2,214ha の利用が行われており、この内 1,139ha が採草放牧地に、畑利用を含めると 1,396ha が生産活動に利用されている。また、市街地周辺では公園、緑地、運動場に利用されており、75 件、598ha を占めている。

表７－１　河川敷地の占有状況

十勝川水系：　河川敷地占用許可実態調書（直轄管理区間）

工作物設置に係る物

項　　目	件　数	面　積　（㎡）
0.15≦下水道<0.2	1	15.71
0.15≦管路<0.2	10	64.93
0.15≦水道管<0.2	4	203.24
0.1≦下水道<0.15	2	6.41
0.1≦管路<0.15	10	84.16
0.1≦水道管<0.15	4	359.47
0.2≦下水道<0.4	6	271.16
0.2≦管路<0.4	1	3.90
0.2≦水道管<0.4	4	2,878.67
0.4≦下水道	4	1,781.99
0.4≦管路	8	324.72
0.4≦水道管	2	2,476.14
H柱（第1種電柱）	1	4.00
その他の橋梁	2	4,523.30
その他の建物	2	30.00
その他の工作物	29	9,333.54
その他公共建物	4	42,958.17
温泉源施設	1	1.00
仮設建物	1	268.12
家畜小屋	3	577.61
管路<0.1	31	659.49
橋梁添架	48	8,601.87
警報施設	7	199.32
護岸	1	180.65
公衆便所	4	63.80
支柱・支線	22	36.50
私鉄	1	8,416.67
私道	3	397.27
自転車道	5	70,704.17
車庫	1	46.80
住居	21	14,785.93
処理場	1	52,030.40
水道管<0.1	13	509.16

※十勝川水系：平成18年3月現在

項　　目	件　数	面　積　（㎡）
水路橋	1	2,969.63
石碑・記念碑	2	329.81
倉庫・物置	3	921.50
測量標（国土地理院）	6	5.84
第1種電柱	55	253.00
第1種電話柱	31	158.00
第2種電柱	6	23.00
第3種電柱	2	7.00
庁舎・宿舎	1	15,263.50
鉄塔	16	6,736.73
鉄道橋	5	22,945.31
電線架空横断	31	17,189.77
導水路・排水路	51	44,869.93
道路	62	566,030.93
道路橋	74	360,850.10
農業用水路	7	10,762.54
樋門・樋管	5	1,535.61
標識	55	406.06
物置場	3	23,690.15
防護施設	2	3,499.15
遊歩道	2	39.65
揚・排水機場	3	3,868.07

敷地占用に係るもの

項　　目	件　数	面　積　（㎡）
畑	157	2,567,082.39
採草放牧地	387	11,394,024.42
公園・緑地	59	4,824,572.76
一般運動場	16	1,159,462.36
その他の敷地	17	893,850.85

出典：帯広開発建設部

7－2. 河川の利用状況

① 上流部

十勝川上流部における河川利用については、十勝ダム湖（東大雪湖）付近では、釣りやキャンプ場に利用されている。新清橋、共栄橋付近ではカヌー下りを楽しむことができる。支川佐幌川の佐幌ダム湖（サホロ湖）においては、カヌーなどに利用される他、8 月にサホロフェスティバルが行われる。

十勝ダム湖

十勝川上流のカヌー

サホロフェスティバル

サホロ湖畔公園

② 中流部、札内川、音更川

十勝川中流における河川利用については、十勝大橋～十勝中央大橋付近までイカダ下りが行われる。河川敷では、十勝大橋下流の運動公園において夏は花火大会、冬は犬ぞりレース大会などで賑わうほか、パークゴルフ場にも利用されている。また、サケの捕獲場となっている千代田堰堤では多くの観光客で賑わう。

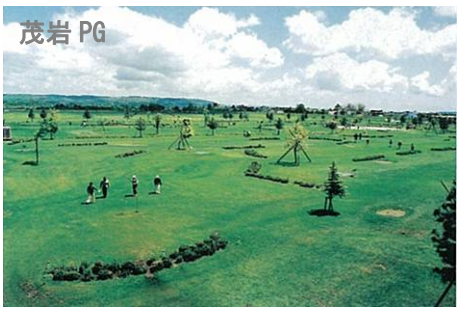
音更川の上士幌町、士幌町、音更町区間の河川敷はパークゴルフ場に利用されている。また、上士幌町では航空公園として利用され、熱気球の競技会が行われている。

札内川の中札内橋～札内橋の区間ではカヌーレースが行われる。河川敷では中札内村や帯広市で運動公園として利用されているほか、帯広市や中札内村の区間でパークゴルフ場に利用されている。

③ 下流部、利別川

十勝川下流における河川利用については、豊頃町区間において河川敷は運動公園やグライダー滑空場として利用されており、豊頃夏祭りの会場となっている。

利別川の池田町や本別町区間における河川敷はグラウンドとして利用されている。



8. 河道特性

十勝川の特性について日本全国の河川と比較してみると、①流域面積で 6 位の大きさである、②幹川流路延長で 17 位の長さである、③河床勾配が極めて急である、④流域の形状は扇状（輻射状流域）をし、流域形状係数（流域面積/河川延長 ^{2}）は 6 位で、幹川流路延長の長い河川では群を抜いて高いといった特徴をもつ。また、中流部の帯広周辺で急流河川の札内川・音更川等の主要支川が集中して合流するため、洪水のピーク流量が大きく水位も比較的短時間に急変する。

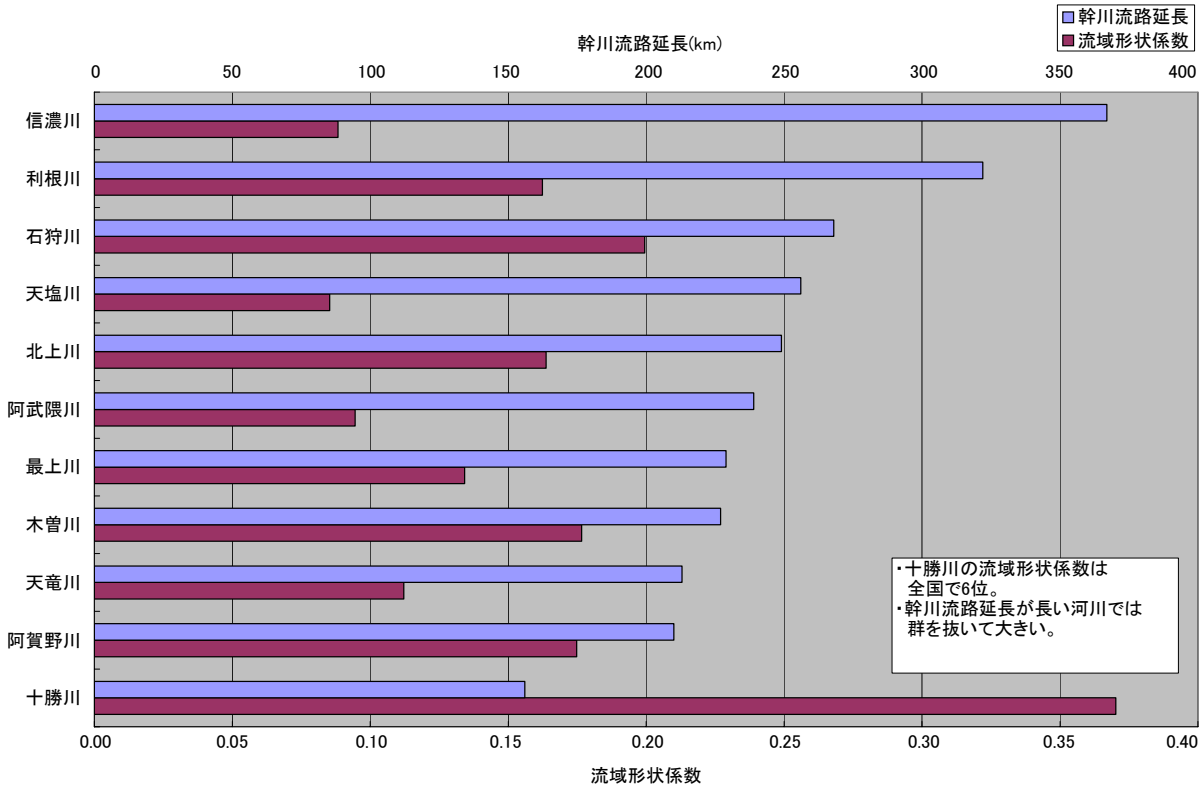


図８－１　流域形状係数の比較

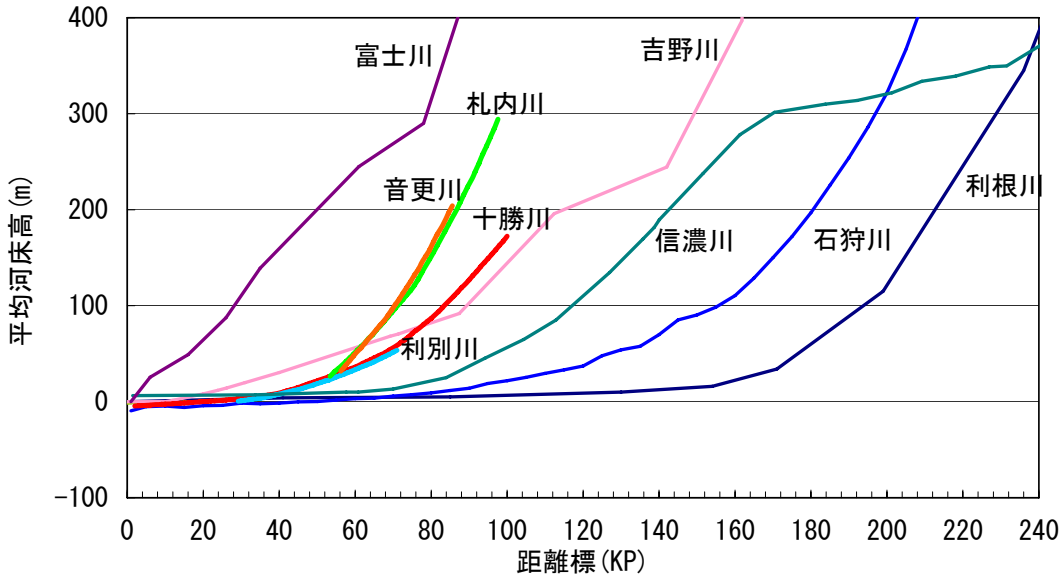


図８－２　主要河川縦断図

8－1. 十勝川の河道特性

十勝川は、その源を大雪山系の十勝岳(標高 2,077m)に発し、山間峡谷を流れて十勝平野に入り、佐幌川、芽室川、美生川、然別川等の多くの支川を合わせて帯広市に入り、音更川、札内川、利別川等を合わせ、豊頃町において太平洋に注ぐ、幹川流路延長 156km、流域面積 9,010km2 の一級河川である。流域は、かつて十勝川本川の河口部であった浦幌十勝川及びその支川流域を含んでいる。

① 上流域（KP62.0～100.0）

札内川合流点付近までの上流部は、河床勾配が約 1/200～1/600 であり、河道は砂礫の複列砂州を形成している。高水敷等には、オノエヤナギ、ハルニレの他、氷河期の遺存種のケショウヤナギが広く分布しており、国内最大の淡水魚であるイトウをはじめ、サクラマス、ハナカジカ、オショロコマ等が生息している。さらに、河畔林には、アオジやコアカゲラ、センダイムシクイ等、砂礫の河原には、アオサギ、ハクセキレイ、イソシギ等が生息している。

② 中流域（KP33.6～62.0）

札内川合流点から利別川合流点に至る中流部は、河床勾配が約 1/800～1/1,200 であり、やや大きく蛇行しながら流れる。帯広市街地に近接した本川と札内川に挟まれた合流点付近には、ケショウヤナギやハルニレをはじめとした河畔林、草原、池等多様な環境が見られ、多くの動植物が生息する良好な自然環境が残っている。ヤナギ高木林やハルニレ林を中心とした河畔林が見られ、河畔林にはホザキシモツケ等の植物とともに、エゾカミキリ等の動物も確認されている。十勝川温泉付近は、オオハクチョウやカモ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地となっている。また、魚類では、ウグイ類やフクドジョウ、イトヨ、ハナカジカ、スナヤツメ等が生息している他、千代田堰堤ではサケの遡上が見られる。

③ 下流域（KP2.4～33.6）

利別川合流点から河口までの下流部では、河床勾配が約 1/3,000～1/4,500 であり、沖積平野を緩やかに蛇行して河口に至っている。広い高水敷は、その多くが採草牧草地として利用されている。河口部周辺には、北海道指定の天然記念物である大津海岸トイトッキ浜野生植物群落が分布している。ヨシ群落等の湿性草地が分布する高水敷や堤内の旧川跡地は、ヤナギタウコギ、ヒシモドキ等貴重な植物の生育地であるとともに、国指定の特別天然記念物であるタンチョウの営巣地や採餌場であり、穏やかな水辺はヒシクイ等のカモ類、カモメ類といった渡り鳥の越冬地及び中継地になっている他、オジロワシやミサゴの採餌場になっている。また、シラウオやヌマガレイ、ボラ等の汽水性の魚類が生息している他、北海道の太平洋沿岸のみに分布しているシシャモが遡上、産卵している。また、十勝川では、サケ、カラフトマスの増殖事業が行われている。

8－2. 利別川の河道特性

十勝川水系最大の支川である利別川は、支川の足寄川の上流部に阿寒国立公園があり、陸別町から足寄町、本別町を通過し、ワインの製造が盛んな池田町を経て、十勝平野の東部で十勝川に合流する。高水敷等は市街地周辺を除き採草放牧地等に利用されている他、ミズナラ、ハルニレ、ヤダチモなどの大径木の多い河畔林が残り、シジュウカラ、アカゲラ、エゾヤチネズミ、エゾリス等樹林性の動物の生息地となっている。また、河岸の土の崖では、ショウドウツバメの集団営巣地が多く見られる。

魚類では、ウグイ類、ハナカジカ、イトヨ、フクドジョウ等が生息している

8－3. 札内川の河道特性

支川の札内川は、上流部に日高山脈襟裳国定公園があり、札内川ダムを経由して、中札内村を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。河川は蛇行し、砂礫の複列砂州が多く見られ、河畔等には、ケショウヤナギ林が広がり、札内川特有の河川景観を呈している。なお、これらのケショウヤナギ林の一部は、北海道指定の天然記念物となっている。細流にはニホンザリガニが生息しており、また湧水箇所はエゾサンショウウオの産卵場となっている。魚類では、ウグイ類、ハナカジカ、イトヨ、フクドジョウ等が生息している。

8－4. 音更川の河道特性

支川の音更川は、上士幌町、 士幌町、音更町を通過し、広大な畑作地帯を流下して帯広市街部で十勝川に合流する急流河川である。高水敷等は、エゾノキヌヤナギ、ハルニレ等が繁茂しているほか、一部が採草牧草地として利用されており、オオジシギ、ヒバリ等の草地性の鳥類が生息している。魚類では、ウグイ類、ハナカジカ、イトヨ、フクドジョウ等が生息している。

8－5. 浦幌十勝川の河道特性

浦幌十勝川は、旧十勝川の河口にあたり、トイトッキ締切によって浦幌十勝川となった。河床勾配が約 1/6,000 程度と非常に緩勾配であり、比較的上流まで感潮区間が続く。浦幌十勝川の上流で合流している下頃辺川は、河床勾配が約 1/300～1/2,000 であり、交互砂州で礫径は小さく、砂礫堆は主に裸地である。また、下頃辺川下流部では平成 4 年から 8 年にかけて多自然型川づくりが行われている。

支川の浦幌川は、河床勾配が約 1/2,000 程度と緩勾配であり、白糠丘陵をほぼ南北に流下する河川である。西側が丘陵地、東側が山地の様相を呈する。ボラやヌマガレイ等の汽水性の種が見られる他、ウグイやイトヨ、エゾハナカジカ等の回遊魚が生息している。

9. 河川管理の現状

9－1. 河川管理施設

堤防整備延長が長大なことから、堤防完成率は現在約 52%の整備となっており、流域内市町村の市街部築堤の完成化を進めているところである。樋門樋管の施設数も多く定期的な巡視・点検を実施し、必要に応じて維持修繕・応急対策等の維持管理を行っている。

表９－１　直轄管理区間堤防整備状況(平成 17 年 3 月現在)

	延長(km)
完成断面	225.7(52.0%)
暫定断面	189.1(43.6%)
暫々定断面	1.0(0.2%)
無堤	18.2(4.2%)
計	434.0

※延長は、直轄管理区間(ダム管理区間を除く)の左右岸の計である。

表９－２　直轄管理区間水閘門等河川管理施設整備状況

水門	排水機場	樋門樋管
4	4	123

※北海道直轄河川樋門樋管水門排水機場実態表

平成 17 年 4 月現在

9－2. 砂利採取

十勝川の砂利採取は戦前から行われており、経済の高度成長に伴う開発事業の進展により骨材の需要が激増し、河川砂利の資源不足が目立ってきた。

このため、昭和 41 年に定められた「河川砂利対策基本要綱」に基づき、昭和 43 年には「砂利等の採取に関する基本計画および規制計画」を策定し、さらに昭和 47 年度を初年度とする治水事業第 4 次 5 カ年計画を基本に昭和 43 年の計画に検討を加え、昭和 47 年度以降の河川砂利の採取に対応している。

9－3. 水防体制

(1) 河川情報の概要

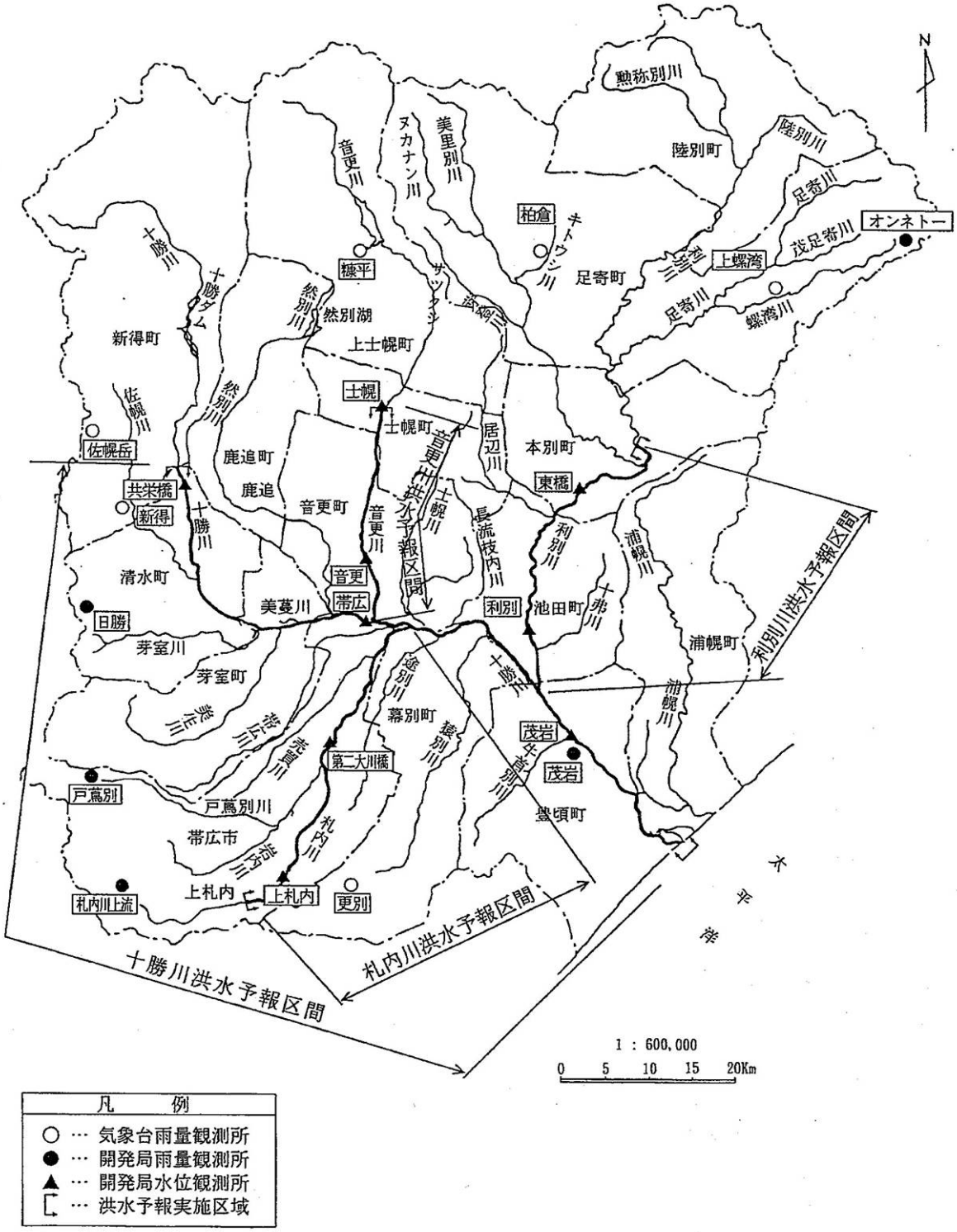
十勝川では、流域内に雨量観測所(78 箇所)、水位観測所(32 箇所)を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い水防活動に活用している。また、近年では光ケーブル網により接続された遠隔監視カメラを用いた管理も行い、迅速な水防活動の一助となっている。

(2) 水防警報の概要

十勝川では、洪水による災害の恐れがある場合に、帯広などの基準となる水位観測所の水位をもとに市町村を含む水防関係機関に対し、河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

(3) 洪水予報

十勝川では、水防法および気象業務法に基づき、「洪水予報」を気象台と共同で発表している。流域の雨量や水位の状況、水位予測等を一般住民にわかりやすく迅速に伝えるべく整備を進めている。



出典：防災必携（北海道開発局）

図９－３　洪水予報区間及び雨量・水位観測所

9－4. 危機管理への取り組み

(1) 水防連絡協議会との連携

洪水・高潮等による被害発生の防止または軽減を行うため、国及び地方自治体の関係機関が連携し、住民の避難、水防活動等を迅速かつ円滑に行うために水防連絡協議会が結成されている。この協議会により、重要水防箇所の合同巡視、水防団、水防資材の整備状況の把握、定期的な水防訓練等を行っている。

(2) 水質事故対策の実施

油類や有害物質が河川に流出する水質事故は、流域内に生息する魚類や生態系のみならず、水利用者にも多大な被害を与えている。水質事故が発生した場合、その被害を最小限にとどめるため、迅速で適切な対応が必要になっている。このため、環境保全連絡協議会により、連絡体制を強化するとともに、水質事故訓練等を行い迅速な対応を行うことが大切であり、また、水質事故に備え、常時から資機材の備蓄を行っている。

(3) 洪水危機管理の取り組み

洪水危機管理において、平常時から危機管理に対する意識の形成を図るとともに、洪水発生時の被害を最小限に抑えるため、浸水想定区域図を公表するとともに水防計画・避難計画の策定の支援、土地利用計画との調整を関係機関や地域住民等と連携して推進している。

9－5. 地域との連携

十勝川流域では、多くのＮＰＯや市民団体の活動が盛んに行われるようになってきており、地域との連携のもと、川づくりのあり方、親水施設の現地改善活動、川の清掃活動などのほか、環境教育の一環としての川の自然観察会など、身近な自然を学ぶ活動も行われている。

今後は、流域のまちづくり事業と連携し、河川を地域レクリエーション、防災、まちづくりの拠点として位置づけ、地域と一体となった河川管理を行うことが必要とされている。地域住民と協力して河川管理を進めるためには、インターネット等のメディアを利用するなどして、地域住民に様々な河川情報を発信するとともに、地域からの河川整備に対する要望等を集約し、住民参加型の管理体制を構築する必要がある。また、河川清掃や、節水・水の再利用などを通じて、地域の人々の河川に対する愛護精神を啓発していくことも重要である。